

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第521集

かわぐちいち

# 川口 I 遺跡第 2 次発掘調査報告書

一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備事業関連遺跡発掘調査

2007

岩手県二戸地方振興局土木部

(財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

# 川口 I 遺跡第 2 次発掘調査報告書

一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備事業関連遺跡発掘調査

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解する上で欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれその土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県二戸市の一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備事業に関連して平成18年度に発掘調査を実施した、二戸市川口I遺跡第2次調査の成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代後期前葉の遺構や遺物を中心に、平安時代、旧奥州街道の名残を示す近世の遺物も見つかりました。本遺跡は、前年の調査結果も踏まえると縄文時代早期から現在まで歴史が連続と続いていたことが明らかとなり、岩手県最北の地の歴史に新たに貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県二戸地方振興局土木部、二戸市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成19年12月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 武田 牧 雄

## 例 言

- 1 本書は、岩手県二戸市金田一宇川口23番ほかに所在する川口I遺跡第2次の調査成果を収録したものである。
- 2 岩手県遺跡台帳における本遺跡の登録番号はI E 79-1188、遺跡の調査略号はKG I-06-02である。
- 3 本遺跡の発掘調査は、一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備事業に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、岩手県二戸地方振興局土木部の委託を受けた(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
- 4 調査期間・調査面積・調査担当者は以下の通りである。  
平成18年7月1日～9月15日 / 2,133㎡ / 木戸口俊子・村山 淳
- 5 室内整理期間・担当者は以下の通りである。  
平成18年11月1日～平成19年1月31日 / 木戸口俊子
- 6 本書の執筆および編集は、木戸口俊子が担当した。
- 7 野外調査では、岩手県二戸地方振興局土木部、二戸市立埋蔵文化財センター、遺跡周辺住民の方々より多大なご協力をいただいた。
- 8 各種分析・鑑定は以下の機関に依頼した(敬称略)。  
石質鑑定 …………… 花崗岩研究会  
琥珀分析 …………… (財)元興寺文化財研究所保存科学センター  
火山灰分析 …………… 弘前大学教授 柴 正敏
- 9 基準点測量は、有限会社下斗米測量設計が行った。
- 10 航空写真は、東邦航空に委託した。
- 11 本遺跡の出土遺物および諸記録資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

# 目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地と環境	1
1	遺跡の位置と地理的環境	1
2	歴史的環境	4
3	基本層序	9
III	野外調査と室内整理の方法	13
1	野外調査	13
(1)	グリッドの設定	13
(2)	試掘・表土除去	13
(3)	遺構の検出と精査	13
2	室内整理	14
IV	検出された遺構と遺物	19
1	検出遺構	19
(1)	A 区	19
①	土 坑	19
②	柱穴状土坑	20
(2)	B 区	20
①	土 坑	21
②	溝状遺構	24
③	埋設土器遺構	25
④	柱穴状土坑	26
(3)	C 区	26
①	土 坑	26
(4)	D 区(西)	26
①	溝状遺構	27
②	柱穴状土坑	27
(5)	D 区(東)	27
(6)	E 区(東)	27
①	土 坑	27
②	柱穴状土坑	27
(7)	E 区(西)	27
①	竪穴住居状遺構	28
②	上 坑	28
③	配石遺構	29
④	柱穴状土坑	29
(8)	F 区	31

① 土 坑 .....	32
② 柱穴状土坑 .....	32
2 出土遺物 .....	50
(1) 縄文土器 .....	50
(2) 土師器 .....	51
(3) 石器 .....	52
(4) 土製品・石製品・琥珀 .....	52
(5) 近世陶磁器・占銭・その他 .....	53
V ま と め .....	72
1 Ⅲ層（十和田南部浮石層）について .....	72
2 縄文時代(後期)の遺構・遺物について .....	73
3 柱穴状小土坑について .....	73
4 結 び .....	74
VI 自然科学分析 .....	76
1 川口 I 遺跡第 2 次調査出土琥珀産地の同定 .....	76
2 川口 I 遺跡の火山灰について .....	80
報告書抄録 .....	113

## 図 版 目 次

第 1 図 遺跡位置図 .....	2	第 17 図 E 区(西) P 06～P 17 .....	42
第 2 図 地形分類図 .....	3	第 18 図 E 区(西) 遺構配置図 .....	43
第 3 図 周辺の遺跡位置図 .....	6	第 19 図 F 区 1～6 号土坑・柱穴状土坑 .....	44
第 4 図 調査範囲と周辺の地形 .....	11	第 20 図 遺構内出土遺物① .....	51
第 5 図 基本層序 .....	12	第 21 図 遺構内出土遺物② .....	55
第 6 図 遺構配置図(1) .....	15・16	第 22 図 遺構内出土遺物③ .....	56
第 7 図 遺構配置図(2) .....	17・18	第 23 図 遺構外山上遺物① .....	57
第 8 図 A 区 1～5 号土坑 .....	33	第 24 図 遺構外出土遺物② .....	58
第 9 図 A 区柱穴状土坑群 .....	34	第 25 図 遺構外出土遺物③ .....	59
第 10 図 B 区 2・5～11 号土坑 .....	35	第 26 図 遺構外山上遺物④ .....	60
第 11 図 H 区 12・14～19 号土坑 .....	36	第 27 図 遺構外出土遺物⑤ .....	61
第 12 図 B 区 20～23 号土坑・1～3・6 号溝 .....	37	第 28 図 遺構外出土遺物⑥ .....	62
第 13 図 B 区 5 号溝・埋設土器遺構・柱穴状土坑群① (東側) .....	38	第 29 図 遺構外山上遺物⑦ .....	63
第 14 図 B 区柱穴状土坑群②(中央・西側) .....	39	第 30 図 遺構外出土遺物⑧ .....	64
第 15 図 C 区、D 区(西)、E 区(西) 堅穴住居状遺構 .....	40	第 31 図 十和田南部浮石検出範囲 .....	74
第 16 図 E 区(西) 配石遺構・1～5 号土坑 .....	41	第 32 図 十和田中樞火山灰層面コンタ図 .....	75

## 表 目 次

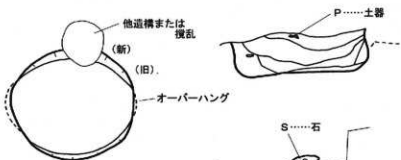
第1表 周辺の遺跡表	7	第6表 土師器観察表	69
第2表 柱穴状土坑観察表	45	第7表 近世陶磁器観察表	70
第3表 縄文土器観察表	65	第8表 古銭観察表	71
第4表 石器観察表	68	第9表 その他観察表	71
第5表 土製品・石製品観察表	69		

## 写真図版目次

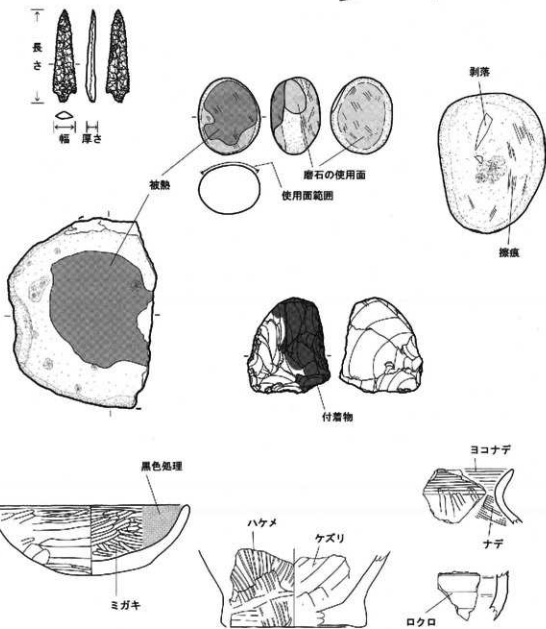
写真図版1 遺跡全景	83	写真図版16 E区(西)竪穴住居状遺構内出土状況・配石遺構	98
写真図版2 A区現況・基本層序・土坑(1)	84	写真図版17 F区(西)土坑(1)	99
写真図版3 A区土坑(2)・終了全景	85	写真図版18 E区(西)土坑(2)・柱穴状土坑(1)	100
写真図版4 B区現況・基本層序・土坑(1)	86	写真図版19 E区(西)柱穴状土坑(2)・終了全景・攪乱部	101
写真図版5 B区土坑(2)	87	写真図版20 F区現況・基本層序・土坑(1)	102
写真図版6 B区土坑(3)	88	写真図版21 F区土坑(2)	103
写真図版7 B区土坑(4)	89	写真図版22 F区土器出土状況・北壁・南壁断面・終了全景	104
写真図版8 B区土坑(5)	90	写真図版23 遺物写真(1)	105
写真図版9 B区土坑(6)・溝状遺構(1)	91	写真図版24 遺物写真(2)	106
写真図版10 B区溝状遺構(2)	92	写真図版25 遺物写真(3)	107
写真図版11 B区埋設土器遺構・終了全景	93	写真図版26 遺物写真(4)	108
写真図版12 C区現況・基本層序・土坑・D区(西)現況・基本層序	94	写真図版27 遺物写真(5)	109
写真図版13 D区(西)溝状遺構・終了全景・D区(東)トレンチ・E区(東)現況	95	写真図版28 遺物写真(6)	110
写真図版14 F区(東)土坑・終了全景・F区(西)現況・基本層序	96	写真図版29 遺物写真(7)	111
写真図版15 E区(西)竪穴住居状遺構	97	写真図版30 遺物写真(8)	112

# 凡 例

## 遺 構



## 遺 物





## I 調査に至る経過

川口 I 遺跡は、「緊急地方道整備事業豊年橋工区」の道路改良工事に伴い、その事業区域内に存することから発掘調査を実施することとなったものである。

一般県道上斗米金田一線は二戸市北西部に位置し、主要地方道二戸田子線と一般国道4号とを連絡する道路であり、その機能は当該道路沿線の地域交通を広域的幹線道路である一般国道4号へと誘導する補助幹線道路である。事業対象地域である「豊年橋工区」においては、通学路としての指定や道路ネットワーク状況により生活基盤としての性格が強く、年間を通じて走行性や安全性および信頼性の確保のため平成12年度「地方特定道路整備事業」により事業着手したものであるが、平成17年度に新たに「緊急地方道路整備事業」の採択となり早期完成を目指すものである。

当事業の施工にかかわる埋蔵文化財の取り扱いについては、二戸地方振興局土木部から平成17年10月31日付二地十第300号「豊年橋地区道路整備にかかわる埋蔵文化財の試掘調査（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成17年11月8日に試掘調査を実施し、工事に着手するには川口 I 遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成17年11月14日付教生第1180号「一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備予定箇所における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により当土木部へ回答してきた。

その結果を踏まえて当土木部は教育委員会と協議し、平成18年度に財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結して発掘調査を実施することとなった。

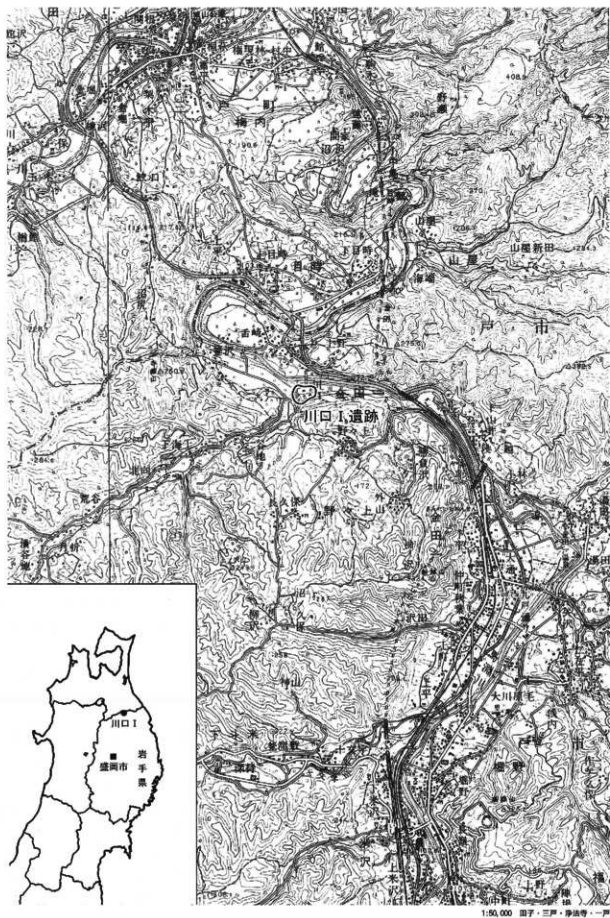
(岩手県二戸地方振興局土木部)

## II 遺跡の立地と環境

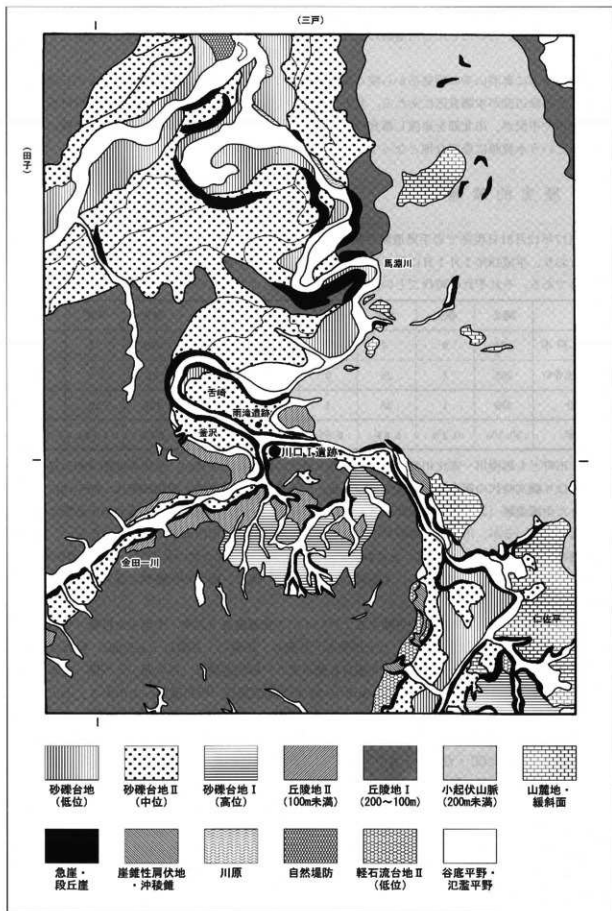
### 1 遺跡の位置と地理的環境

遺跡が所在する二戸市は、岩手県北端部に位置し県北地域の中心的都市としての役割を担っている。1972年に福岡町と金山一村が合併して市制施行し、平成18年のいわゆる「平成の大合併」に伴い、新たに隣町の浄法寺町と合併し「新二戸市」となった。東は軽米町・九戸村、南は一戸町、西は八幡平市、北は青森県三戸町、青森県田子町に囲まれ、総面積420.31km<sup>2</sup>、総人口3万1千人を数え、安比川と馬淵川とに開析された低位段丘地を中心に人々の生活は営まれている。北上山地、奥羽山脈に挟まれたこの地は、自然が豊富で多くの自然史跡も残っている。

川口 I 遺跡は、JR東北新幹線二戸駅から北東約9km、北緯40度20分13秒、東経141度16分34秒付近に位置している。旧二戸市を縦断し北流する馬淵川と支流海上川との合流地点に程近い馬淵川左岸段丘上に立地している。この馬淵川は、葛巻町東端部の北上山地を源とし、安比川・白鳥川・沢内川などの小河川を合流させながら北流し、当遺跡付近で舌状に屈曲して八戸湾へと注ぐ。流域では、狭い河岸段丘と深い浸食谷が形成され、高さや生成時期によっていくつかの段丘に区別することができる。大池氏や中川氏、松山氏らの馬淵川流域の段丘面の調査研究により、上位から仁左平段丘・福岡段丘・(長嶺段丘)・米沢段丘(中町段丘)・堀野段丘・(中曾根段丘)に分けられる。各段丘の概略については、既刊の市内の発掘調査報告書の多くに見られるためここでは割愛する。川口 I 遺跡の



第1図 遺跡位置図



第2図 地形分類図

載っている面は、標高74～76m、馬淵川との比高は16～18mであり、南部浮石粒以上の十和田系火山灰を載せている。このことから当遺跡の所在する段丘は「堀野段丘」に対比される沖積段丘であると思われる。

遺跡は南方に奥羽山系の稲庭岳から続く高鳥谷山(371m)や上ノ沢山(250m)などの丘陵地が拡がり、その縁辺部が本調査区にあたる。北方に馬淵川を望み、水源を県境の青森県田子町付近とする金田一川や中沢が、市北部を東流し落合付近で合流、海上川となり、遺跡西方を馬淵川合流に向けて流れるという水資源に豊富な地となっている。

## 2 歴史的環境

平成17年12月31日現在で岩手県遺跡台帳に登録されている二戸市の遺跡は、603遺跡である。前述したとおり、平成18年1月1日に新二戸市になったため、この数字は旧二戸市と旧浄法寺町とを合わせた数である。それぞれの時代ごとの遺跡数は次表のようにになっている。

	縄文	弥生	古代	奈・平	中世	近世	複合	不明	計
旧二戸市	74	0	7	4	19	0	69	1	174
旧浄法寺町	285	1	28	0	22	2	82	9	429
計	359	1	35	4	41	2	151	10	603
率	50.5%	0.2%	5.8%	0.6%	7.8%	0.3%	25%	1.7%	100%

旧二戸市でも馬淵川・安比川沿いを中心に縄文時代の遺跡が大変多い。全体の4割である複合遺跡でもやはり縄文時代の複合遺跡が大半を占める。二戸市の発掘調査は、昭和20年代～30年代にかけて行われた雨滝遺跡(舌崎A)や堀野遺跡が始まりといていい。雨滝遺跡は前頁の地形分類図や一覽表にも載っているが、川口I遺跡の対岸に位置する遺跡である。明治大学が学術調査を行い、縄文時代晩期の土器が出土し、「雨滝式」とされている。堀野遺跡は岩手大学の草間俊一氏が調査を行い、昭和40年に報告書が出されている。土師器出土の集落跡の他に、縄文時代後期と見られる組石遺構が検出されている。

これらの調査以降、昭和47年から始まる二戸バイパス関連調査(大淵・上里・火行塚・中曾根・上村・下村A・下村B・荒谷A・家の上・長瀬A・長瀬B・長瀬C・長瀬D・上田面)、昭和56年からの文化課分布調査実施から始まった東北縦貫自動車道八戸線関連調査(西久保・大久保・太田・馬立I・馬立II・青ノ久保)、一般国道4号金田一バイパス関連調査(昭和58年～上田面3・上田面2・荒田3・荒田4・八ツ長2・沖1・馬場2・馬場・駒焼場・府金橋)、東北新幹線盛岡・八戸間建設事業関連調査および新幹線二戸駅周辺地区土地区画整理事業関連調査(平成6年度～下村・上村・米沢・諏訪前・諏訪前(2)・台中平・台中平(2))など長期間かつ大規模な調査により、県北の考古学的資料が一気に我々の目に触れることとなった。

時代ごとに代表的な遺跡を上げてみたい。縄文時代早期では、長瀬B遺跡から南部浮石層下に5棟の住居跡が検出され、早期貝殻文の土器も出土している。沢内B遺跡からも早期後半の土坑や遺物が出土し、馬立I・太田遺跡では早期以降と考えられる住居跡が16棟も検出された。この遺跡は大規模な複合遺跡で、早期の住居跡の他に時代を特定できるものだけでも中期末2棟、後期初頭～前葉27棟を検出している。

縄文時代前期では、上里遺跡や中曽根遺跡などから当時の人々の精神世界を垣間見ることができ、遺構が発見されている。上里遺跡は、大型住居を持つ前期末葉～中期前葉の集落跡である。その大型住居の中の前期末葉の土坑（住居廃棄後に構築）の中から7体の人骨（成人女性2体、成人男性1体、性別不明成人1体、小児3体）がまとまって出土し、それらの骨が死因は不明なものと同時期に葬られ、「縄文時代早前期人の特質を備えたもの」という分析結果に至っている。中曽根遺跡では、縄文前期末～中期初めにかけて、石器とともにまとまった土器が出土しており、人為的と見られ何らかの祭祀遺構と考えられている。市教委で調査した隣接している中曽根Ⅱ遺跡でも前期初頭の住居跡が検出されている。

縄文時代中期になると、上村遺跡・下村B遺跡・荒谷A遺跡、下村遺跡など隣接した地域から中期の遺構・遺物が発見されており、この地域が縄文時代中期後半に比較的大きな規模で集落が形成されていたことがわかる。荒谷A遺跡では円筒上層e、大木8b式、9式期と考えられる住居および配石遺構が、下村B遺跡では中期後半の住居跡、配石遺構が検出されている。

縄文時代後期では、安比川支流沢内川西岸の段丘上に立地している馬立Ⅰ・Ⅱ遺跡がある。この遺跡は、縄文中期末葉～後期の集落跡で、後期初頭の狩猟文土器が出土したことで知られる。

縄文時代晩期では、既述の今回調査した川口Ⅰ遺跡の対岸に位置する雨滝遺跡が知られている。遺構は検出していないが、橋場遺跡（九戸城跡）からも晩期の遺物が出土している。

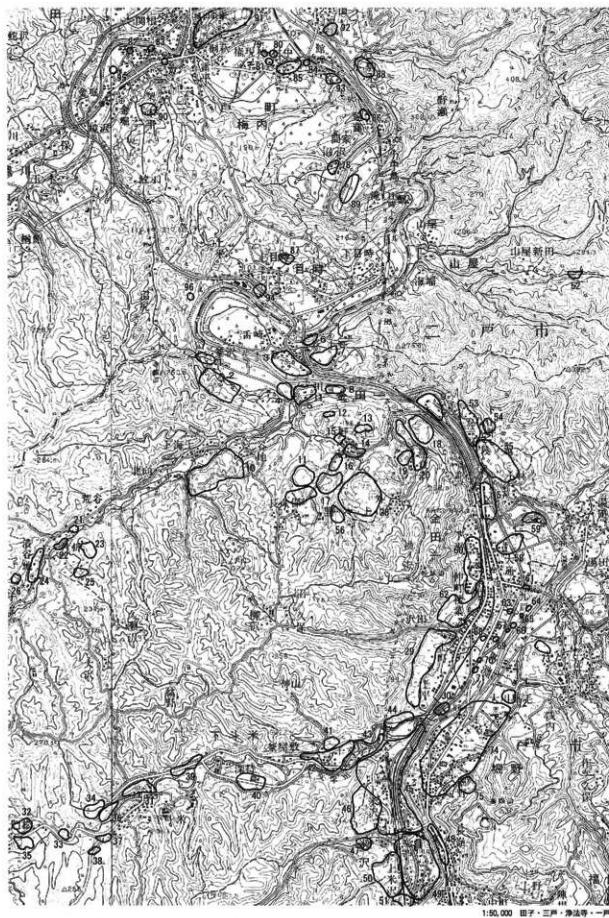
弥生時代の遺構・遺物が出土する遺跡はあまり多くない。当遺跡の川口Ⅰ遺跡も弥生土器を出土する遺跡とされているが、昨年度の調査でも今回の調査でも弥生土器は見つかっていない。上田面遺跡、火行塚遺跡、大淵遺跡から弥生前期の住居跡と遺物が、上村遺跡でも弥生初頭と見られる土器が出土している。

古代・奈良・平安では堀野遺跡、中曽根Ⅱで円形周溝が見つかっている。長瀬遺跡、荒谷遺跡で8世紀の住居が検出、金田…バイパスで調査した駒焼場遺跡では集落跡、大溝が検出されている。米沢遺跡では、大型住居を含む集落跡が検出している。

中世の遺跡としては、「九戸政実の乱」の舞台となる九戸城がある。昭和10年の国指定遺跡から年を経て、平成6（1995）年から史跡公園化整備事業として行われた九戸城および隣接する在府小路遺跡の調査が継続的に行われている。東北新幹線盛岡～八戸間建設事業関連調査および新幹線二戸駅周辺地区土地区画整理事業関連調査により調査された諏訪前遺跡（「覧表-上里遺跡群」）では、鎌倉時代の大規模な堀跡が検出されている。詳細は不明だが、二戸駅周辺地区では現在も調査が継続され、今後まとまった形で報告されることであろう。

近世の遺構・遺物は比較的低地の複合遺跡で検出されているが、まとまった大規模な集落跡が確認された遺跡としては、諏訪前遺跡の北方にある下村遺跡がある。詳しくは報告書を参照されたい。

当遺跡は、中央を普通自動車1台強幅の道路が横断しているが、この道路はかつて奥州街道として釜沢に続いていた道路であった。当時の様子を示す『北奥路程記』には、掘野（村）を過ぎて長瀬（橋）、金田一（村）に入り、「長寿寺」「願海庵」、矢沢（村）、小林（村）、府金（坂）、下山井（村）、そして川口（村）を越えて釜沢（村）、舌崎（村）へと続く。これらは今も字名などに残り、往事を偲ぶことができる。



第3図 周辺の遺跡位置図

第1表 周辺の遺跡表

No.	遺跡名	所在地	時代	遺構・遺物	種別	備考
1	道の下A	宮沢字道の下	縄文	縄文土器	散布地	
2	釜沢橋	釜沢字上野平	中近世	瓦葺、鰯科、土器	城跡跡	
3	曲隈(活崎A)	釜沢字白山、金田 字曲隈	縄文	縄文土器(晩期)	散布地	S30年代に明治大学が学術調査。
4	道の下B	宮沢字道の下	縄文	縄文土器	散布地	H4新掘
5	川口I	金田一字川口	縄文	縄文土器、弥生土器、石器	散布地	H4新掘
6	山道	釜沢字上野	縄文	縄文土器(晩期)	祭壇跡	
7	石道(古崎B)	釜沢字上野	縄文	縄文土器(晩期)	祭壇後・散布地	
8	川口II	金田一字川口	縄文	縄文土器	散布地	H4新掘
9	小野	金田一字小野	縄文	縄文土器(中期)	散布地	
10	海上館	野々上字谷地	中近世	板敷	城跡跡	
11	和木	野々上字大清水、宇久保	縄文	縄文土器	散布地	
12	野々上I	金田一字川口、野々上字大清水	縄文	縄文土器	散布地	
13	野々上II	野々上字寺沢、字出張	縄文	縄文土器	散布地	
14	野々上III	野々上字出張	中世	板切	城跡跡	
15	市原	野々上字出張	奈良・平安	土師器	集落跡	
16	野々上IV	野々上字大清水	縄文	縄文土器	散布地	
17	仏壇	野々上字鎌ヶ平	縄文	縄文土器(晩期)	散布地	
18	湯島沢I	金田一字小野	奈良・平安	土師器	集落跡	
19	湯島沢II	野々上字島子長狭	縄文	縄文土器	散布地	
20	湯島沢III	野々上字島子長狭、字上黒	縄文	縄文土器	散布地	
21	先谷	野々上字笠谷	縄文	縄文土器	散布地	
22	荒谷館	野々上字荒谷	中世	板切	城跡跡	
23	月折館	野々上字月折	中世	板切、平瓦、空堀	城跡跡	
24	渡谷地区I	野々上字渡谷原	縄文	縄文土器	散布地	
25	月折	下斗米字月折	縄文・奈良	縄文土器、弥生土器	散布地	
26	渡谷地区II	野々上字渡谷池	縄文	縄文土器	散布地	
27	上ノ沢I	野々上字藤巻	縄文	縄文土器	散布地	
28	上ノ沢II	野々上字藤巻、字高ノ神	縄文	縄文土器	散布地	
29	上町	金田一字上平、字新田、日ノ沢	縄文・近世	縄文土器、弓張跡	散布地	
30	上田面	金田一字上田面	縄文、弥生、古代	縄文土器(早期)、方形河溝基、弥生土器、土師器、鉄製品	集落跡	SRI、62鳥文化圏が調査、S52、53野埋文調査。二戸バイパス調査。
31	下斗米館(下館)	下斗米字寺久保、上台	中世	空堀、平堀	城跡跡	
32	逆江平	下斗米字逆江平	古代	須磨跡	散布地	H4新掘
33	蝦夷館	下斗米字寺久保	古代	土師器	集落跡	
34	寺久保	下斗米字寺久保	縄文・古代	縄文土器、石器、土師器	集落跡	H4新掘
35	門松	下斗米字門松	縄文	縄文土器	散布地	H137埋文調査
36	上台	下斗米字上台	縄文	縄文土器	散布地	H4新掘
37	下斗米A	下斗米字寺久保、崎子藁平	古代	土師器	散布地	
38	下斗米B	下斗米字崎子藁平	縄文	縄文土器	散布地	
39	茨田平	下斗米字茨田平	縄文	縄文土器	散布地	H4新掘
40	上野平	下斗米字上野平、八日市、米用平	縄文・奈良・平安	縄文土器、土師器	集落跡・散布地	H77平塚市調査
41	十文字	下斗米字上野平	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
42	益原館	下斗米字益原館	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
43	細越	下斗米字細越	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
44	高栗山	金田 字高栗山	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
45	米沢遺跡群(米沢館、エン館)	米沢字下平、長原、藁ノ上、荒谷	縄文・古代・中世	壁穴住居跡、工器跡、土城跡	集落跡・城跡跡	S47~62鳥文化圏が調査、S42野埋文調査。二戸バイパス調査
46	佐々木館(稲刈館)	米沢字藁ノ上	縄文・古代・中世	縄文土器、土師器、板	散布地・城跡跡	
47	上平I	米沢字上平	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
48	長原	稲刈字長原	縄文	縄文土器(晩期)	散布地	
49	下村	米沢字上平、上村、下村、荒谷	縄文・弥生・古代・中近世	住居跡(前期・中期)、配石、縄文土器(早~後)、弥生土器、土師器、須磨跡	集落跡	S61鳥文化圏が調査(二戸バイパス調査)、S60二戸市教委調査、H117-7市教委調査、H8・9・12稲刈文調査

## 2 歴史的環境

No	遺跡名	所在地	時代	遺構・遺物	種別	備考
50	上平Ⅱ	朱沢字上平	縄文・古代	縄文土器(晩期)、土師器	散布地	
51	上平Ⅳ	朱沢字上平	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
52	新田	釜沢字新田	縄文	縄文土器	散布地	H 8新田
53	下山井	金田一字下山井	縄文	縄文土器	散布地	
54	下山井	金田一字新	中世		城跡跡	
55	段ノ跡	金田一字段ノ跡	縄文	縄文土器	散布地	
56	山旗	野々上字人権	縄文・古代	縄文土器(後・晩期)、陶土、 埴土遺構、礎	集落地	H18新田、H18岩槻文調査
57	駒渡橋	金田一字駒渡橋	平安	遺構集積、礎欠	集落地	S57二戸市、H11岩槻文調査
58	馬場	金田一字大塚、字馬場	奈良	土師器	集落地	S60、61野津文調査
59	大釜	金田一字大釜	縄文	縄文土器(中期)	散布地	
60	秋葉	金田一字下平道ノ上、字野月	縄文	縄文土器	散布地	
61	沖	金田一字八ツ長、中沖	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	S63、H2岩槻文調査
62	四ノ城(寺山)	金田一字野月、字宿	中世末～近世	空堀、平石、土塁	城跡跡	H19二戸市教育調査、範圍拡大
63	八ツ長Ⅰ	金田一字八ツ長	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
64	八ツ長Ⅱ	金田 字八ツ長	縄文・古代・中世	住居跡(中世)、縄文土器、土師器	散布地	H2岩槻文調査
65	八ツ長Ⅲ	金田 字八ツ長	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
66	八ツ長Ⅳ	金田一字八ツ長	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
67	荒田Ⅰ	金田一字荒田	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
68	荒田Ⅱ	金田一字荒田	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
69	荒田Ⅲ	金田一字荒田	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
70	荒田Ⅳ	金田一字荒田	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
71	上田原Ⅱ	金田一字上田原	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
72	大川原毛	妻野字大川原毛	縄文	縄文土器	散布地	
73	戸花	仁左字戸花	縄文	縄文土器(晩期)	散布地	
74	堀野跡跡	妻野字大谷地、馬場、長地、長瀬、大畑	縄文、古墳、古代	古墳、鉄子刀、竪穴住居、配石、土師器、縄文土器	集落地・古墳跡・古墳	S28、27～39に2号大字集落地～5号集落地、H13二戸市教育調査
75	堀野跡(小穴跡)	堀野字小穴跡	中世・縄文	空堀、平石、土師器、縄文土器	城跡跡・散布地	
76	横山	福岡字横山	縄文	縄文土器(晩期)	散布地	
青森県						
77	八日町	青森県二戸町八日町	縄文(晩)		散布地	
78	沼の沢	青森県二戸町堀内字沼の沢	縄文(前・中)		散布地	
79	松原①	青森県二戸町堀内字松原	縄文(前・晩)		散布地	
80	松原②	青森県二戸町堀内字松原	縄文(晩)		散布地	
81	松原③	青森県二戸町堀内字松原	縄文(後・晩)		散布地	
82	上川原	青森県二戸町向心町上川原	縄文(晩)		散布地	
83	湯ノ林	青森県二戸町向心町湯ノ林	縄文(晩)		散布地	
84	村中①	青森県二戸町堀内字村中	縄文(前)		散布地	
85	村中②	青森県二戸町堀内字村中	縄文(中・後)		散布地	
86	遠藤	青森県二戸町堀内字遠藤	縄文(前・中)		散布地	
87	月崎中平	青森県二戸町月崎字中平	縄文(前・中)		散布地	
88	駒木	青森県二戸町堀内字駒木	縄文(後)		散布地	
89	湯出川原	青森県三戸町堀内字湯出川原	縄文(後)・平安		散布地	
90	(堀内)中平	青森県三戸町堀内字中平	縄文		散布地	
91	三戸城跡	青森県三戸町堀内字城の下	中世		城跡	
92	泉山館跡	青森県二戸町泉山字矢吹武	中世		館跡	
93	梅内館跡	青森県二戸町梅内字館	中世		館跡	
94	月崎館跡	青森県三戸町月崎字館の下	中世		館跡	
95	金根館跡	青森県二戸町向心町字金根	中世		館跡	
96	駕籠立場一草塚	青森県二戸町堀内字大反前山	近世		一草塚	



## 3 基本層序

川口 I 遺跡は、馬淵川にかかる豊年橋を渡ってまもなくの上斗米金田一線を含む一段高い段丘面突端部分が範囲である。昨年度の第 1 次調査では遺跡の東端部分の調査が行われ、今年度は昨年度の隣地を含む遺跡のほぼ中央を東西に横断する範囲で調査が行われた。前述したように、この遺跡は十和田南部浮石粒以上の十和田系火山灰を載せており、昨年度同様今年度も各火山灰の確認ができた。段丘の突端部ということもあり場所によって若干の相違が見られるが、基本的には以下のとおりである。

- I 10YR 2/2 黒褐色土主体 粘性弱 しまり弱 十和田 a 降下火山灰粒、十和田 b 降下火山灰粒、南部浮石粒混合上 (表上・盛上)
- II a 10YR 4/4 褐色火山灰 部分的に 10YR 7/1 ~ 2.5Y 8/2 灰白色火山灰 粘性弱 しまり疎 十和田 a 降下火山灰層①……検出面 1
- II b 10YR 6/4 にぶい黄褐色火山灰 やや粉質 粘性弱 しまり疎 十和田 a 降下火山灰層②
- III 10YR 5/6 黄褐色 しまり中 粘性中～やや強 黄褐色火山灰粒 (南部浮石粒?) 径 3 ~ 10 mm 30 ~ 40% 含む
- IV 10YR 1.7/1 黒色土 粘性中 しまりやや中 十和田 b 降下火山灰粒径 1 ~ 5 mm 10 ~ 30% 含む 十和田 b 降下火山灰層……検出面 2
- V 10YR 1.7/1 黒色土 粘性中 しまり中 十和田 b 降下火山灰粒径 1 ~ 5 mm 10% 含む (十和田 b 降下火山灰 ~ 十和田中礫火山灰漸移層)
- VI 10YR 2/1 黒色土主体 粘性弱 しまり中 十和田中礫火山灰粒径 1 mm ~ 1 cm 2 ~ 5% 含む 十和田中礫火山灰層① (漸移層)
- VII a 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 やや砂質 粘性弱 しまりやや密 VII b 屑ブロック含むところもあり 十和田中礫火山灰層……検出面 3
- VII b 2.5Y 4/3 オリーブ褐色土 粘性弱 しまり極めて密 (十和田中礫火山灰固塊層)
- VII c 7.5YR 5/4 にぶい褐色砂質土・2.5Y 4/3 オリーブ褐色砂質土・砂 (1 ~ 3 mm) との混合層状堆積層 (十和田中礫火山灰層 砂層 ~ シルト層) 粘性なし しまり密
- VII d 2.5Y 7/4 浅黄色および 2.5Y 6/3 ~ 6/4 にぶい黄色砂との混合砂層 径 1 ~ 3 mm 粘性弱 しまり中 (十和田中礫火山灰純層)
- VII e 5YR 3/6 暗赤褐色砂と 5YR 5/2 灰褐色砂との混合砂 粘性弱 しまり所々密……検出面 4
- VIII 10YR 2/1 黒色土 しまりやや密 粘性やや強 南部浮石粒 径 1 ~ 20 mm 20% 含む 下位ほど多い (十和田中礫火山灰層 ~ 南部浮石層漸移層①)
- IX 10YR 2/2 黒褐色土 粘性中 しまりやや弱 ゴロタ粒径 1 ~ 5 mm 50% 含む (十和田中礫火山灰層 ~ 南部浮石層漸移層②)
- X 7.5YR 4/4 ~ 4/6 褐色土 径 1 mm ~ 5 cm (南部浮石屑)
- XI 10YR 5/1 ~ 7.5YR 2/1 褐灰色粘質シルト ~ 黒色シルト しまり密 粘性強 漸移層
- XII a 10YR 3/1 ~ 4/1 黒褐色 ~ 褐灰色粘土 しまり密 粘性強
- XII b 10YR 5/1 ~ 6/1 褐灰色粘土 しまりやや密 粘性強 若干砂質 (上層に比べて粒子が粗い) A 区では下位ほど八戸火山灰に相当する礫を多量に含む
- XII c 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 砂質土 粘性中 しまり中 ところどころ酸化あり 一部砂

## 礫および湧水あり

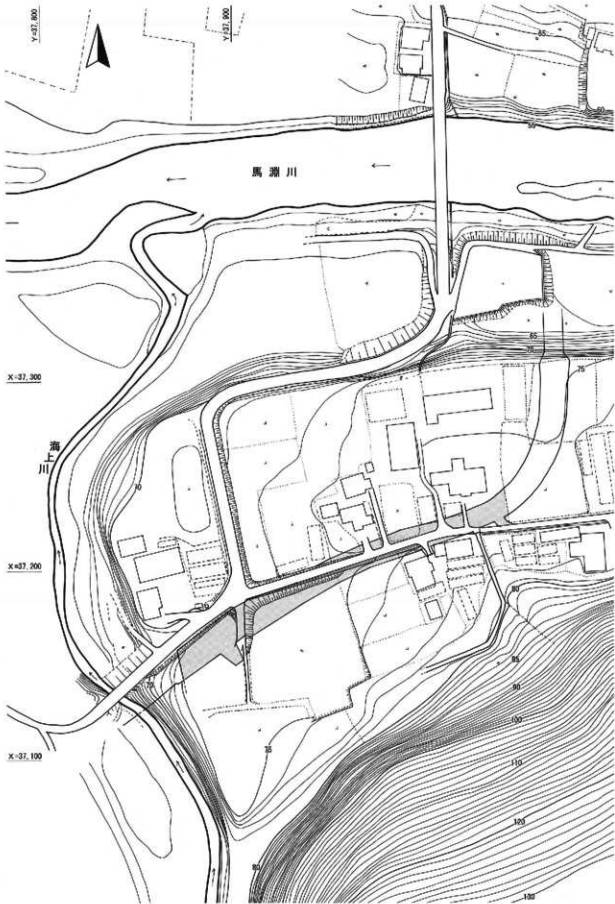
## XII 礫層 部分的に10YR 6/3 にぶい黄橙色砂層

今年度調査区は東西に細長くしかも生活用道路に区切られるため、任意的に西側からA～F区と名付けた。その中でB区での盛土（I層）が大変厚く、西に向かって徐々に厚くなりB区中央部で1m 50cm、西端になるとさらに30cmほど厚さを増す。昨年の調査区でも十和田a降下火山灰と思われる白色火山灰層を上層として、十和田b降下火山灰、十和田中撤火山灰、南部浮石層と堆積している。しかし、B区の中央部から東の調査区全体においてみられる十和田a降下火山灰と十和田b降下火山灰との間にある南部浮石層の存在は異なる点である。分析の結果、白色火山灰は十和田a降下火山灰また白頭山苔小牧テフラであり、その下層の黄色火山灰は十和田南部浮石層の再堆積であることがわかった。堆積状況および広範囲におよぶことから、人為的と断定するには微妙であり、十和田a降下火山灰が降下する以前に周辺の地変があった可能性を示している。

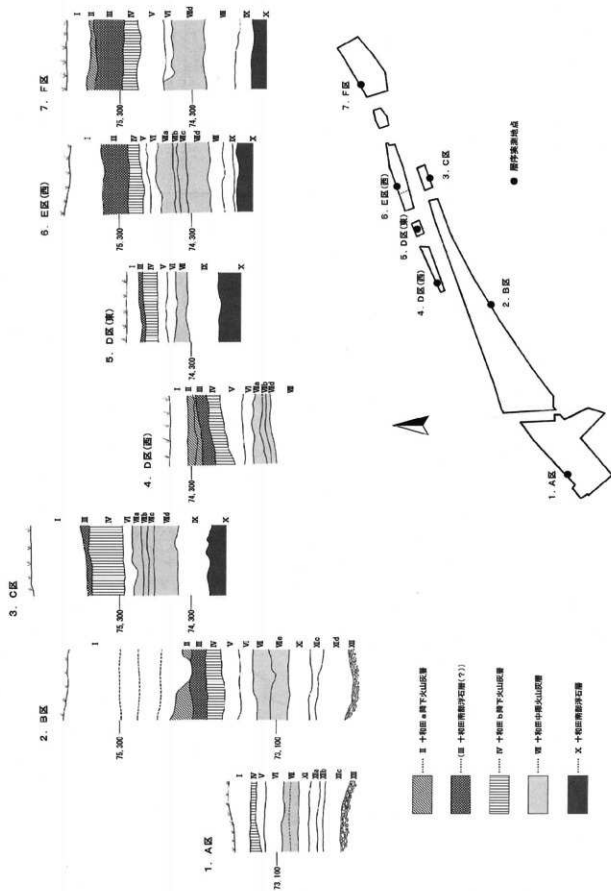
検出面は昨年にも遺構の検出された十和田a降下火山灰面、十和田中撤火山灰面の他、確認作業として、十和田b降下火山灰面、十和田中撤火山灰下（十和田中撤火山灰～南部浮石層漸移層）も加えた。十和田a降下火山灰面では、中近世の遺構・遺物が、十和田中撤火山灰面では、主に縄文時代後期の遺構・遺物が検出した。十和田中撤火山灰層を取り除いた下層においては、今年度調査区からは遺構・遺物は全く見つからなかった。

## 参考文献

- 車岡俊・1985 福岡町教育委員会 「岩手県福岡町堀野遺跡」  
 高橋信雄 並野靖典著 1996 日本の古代遺跡51「岩子」 保育社  
 岩手県教育委員会 1998 「岩手県道跡地図」  
 岩手県文化財保護協会 2002 「読み下し文 北奥路再記」（原著 江戸時代後期 漆戸茂樹著）  
 無明舎出版 2002 「奥州街道 歴史探訪・全宿駅ガイド」  
 岩手県教育委員会 2005 「岩手県道跡台帳」（CD-ROM版）  
 岩子日報社 2006 「詳細岩手県市町村全図 新しくMA P」  
 二戸市教育委員会 1978 「二戸市中層根I遺跡発掘調査報告書」  
 二戸市教育委員会 1981 「中層根II遺跡発掘調査報告書」  
 二戸市教育委員会 1983 「橋樑遺跡（九戸城跡）」  
 (財)岩埋文 1977 岩手県埋文センター文化財調査報告書第1集「岩手県埋文文化財調査略報」  
 (財)岩埋文 1978 岩手県埋文センター文化財調査報告書第7集「二戸市沢内B遺跡」  
 (財)岩埋文 1981 岩手県埋文センター文化財調査報告書第23集「二戸バイパス野道上田園遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 1983 岩手県埋文センター文化財調査報告書第65集「上層遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 1988 岩手県文化振興事業団埋文文化財調査報告書第123集「馬立I・II遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 1990 岩手県文化振興事業団埋文文化財調査報告書第266集「岩手県埋文文化財調査略報」  
 (財)岩埋文 2000 岩手県文化振興事業団埋文文化財調査報告書第323集「下村遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 2001 岩手県文化振興事業団埋文文化財調査報告書第394集「諏訪前遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 2006 岩手県文化振興事業団埋文文化財調査報告書第477集「上野場3遺跡発掘調査報告書」



第4図 調査範囲と周辺の地形



第5図 基本層序

### Ⅲ 野外調査と室内整理の方法

#### 1 野 外 調 査

##### (1) グリッドの設定

グリッドの設定は昨年度の調査に合わせて、日本測地系を用いた。調査区は、座標軸北に沿って10×10mを大グリッドとし、東西をA～S、南北をI～Xとした。その中を2×2mの小グリッドとして25分割し、北西から1～25とした。記載については大グリッドと小グリッドを組み合わせてVII F 25などと表示した。

各基準点打設は有限会社ド斗米測量設計に委託し、成果値と杭高（標高=H）は次の通りである。また各地点の世界測地系値は、（ ）で示した。

基 1	X=37,150.000 (37456.975)	Y=37,870.000 (37571.428)	II=74.114m
基 2	X=37,185.000 (37491.974)	Y=37,928.000 (37629.426)	H=74.210m
補 1	X=37,150.000 (37456.975)	Y=37,882.000 (37583.428)	H=73.635m
補 2	X=37,185.000 (37491.974)	Y=37,916.000 (37617.426)	H=73.707m
補 3	X=37,224.000 (37530.972)	Y=38,016.000 (37717.422)	H=76.165m
補 4	X=37,224.000 (37530.972)	Y=38,030.000 (37731.422)	II=76.468m

\* 日本測地系座標値（世界測地系座標値）

##### (2) 試掘・表土除去

今年度の調査区は東西に長く、しかも調査区の中央を公道が横断し、更に生活用道路が分断するといった細かな区域での調査を行った。そのため任意的に西側からA区→B区→C区→D区（西）→D区（東）→E区（西）→E区（東）→F区と名付け、個々に調査、遺構名をつけて進めた。

A区については、旧金田一児童館があった場所ということもあり、整地層と家屋基礎が入り込み、試掘トレンチを入れることは不可能であったため、生文課試掘結果を頼りに重機による整地層剥ぎ及び家屋基礎除去を行った。除去作業により周辺の土まで一緒に取り上げる危険性のある場所については、手作業にて進めた。逆に地田と思われる層位まで基礎が達し、取り除くには周辺に大きな攪乱の影響があり、なおかつ手作業では到底無理な場合には、そのまま基礎を残すこととした。

調査面積の最も広いB区については、生文課試掘資料により50cmを超す厚い盛土が確認されていたため、当初より重機による表土除去を行った。しかし、実際は更に盛土が堆積しており、検出面を確認しながらの表土除去を行った。他の調査区では、先の2箇所調査区よりも狭いため、遺構を傷つけないよう手作業で考えたが、試掘トレンチの結果いずれの調査区からも厚い盛土が確認できたため、それぞれ作業効率から重機を入れての表土除去を行った。

##### (3) 遺構の検出と精査

当初は、全調査区とも昨年度の調査および生文課の試掘資料により、十和田A降下火山灰面と十和田中振火山灰面（上層）と2面を遺構検出面と認識し調査を始めた。しかし、A区B区の表土除去状況などから、2面の他に、十和田B降下火山灰面（遺物包含層）と十和田中振火山灰面下の2面も含

めて、計4面の遺構検出確認を行った。各調査区、層序ごとに掘り下げを行い、遺構検出とともに遺物取り上げを行った。

遺構名については、調査状況から調査効率や混同を妨げるなどの観点により、調査区ごとにつけた。また、室内整理を調査と並行して実施した理由により、整理が混乱しないようにそのまま(調査時)の遺構名で掲載した。欠落した遺構名は調査途中また終了時において、現代のものと判断し、外したものである。

記録に必要な図面は、光波トランシットを用いて行った。図面の縮尺は20分の1を基本として平面図と断面図を作成した。

写真撮影は、精査の段階ごとに撮影し、メインカメラとして、今回は試験的にデジタルカメラ(キヤノンEOS 5D1280万画素)を使用した。また、記録保存用として中判カメラ(6×9cm判モノクロ)、35mmカメラ(モノクロ)各1台ずつを使用した。遺跡全体および遺跡周辺の空撮は委託撮影とし、調査終盤に小型飛行機により6×7cm判(モノクロ・カラー)での撮影を行った。

## 2 室内整理

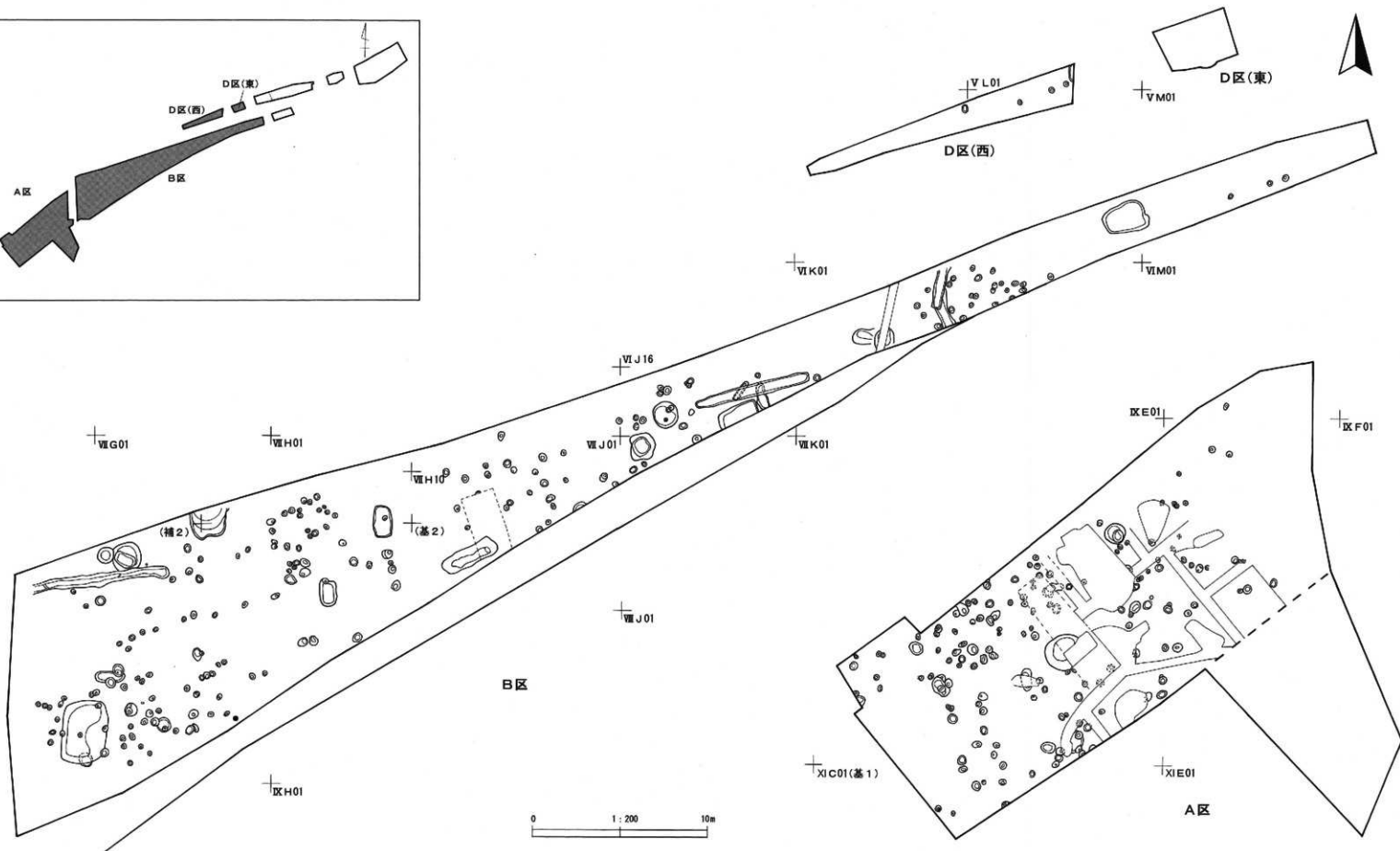
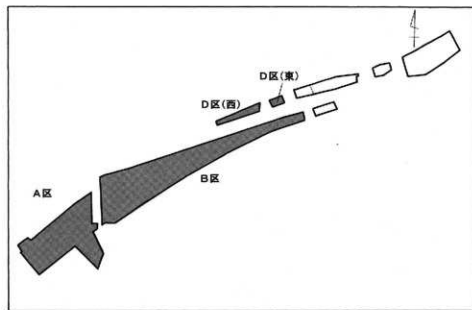
図面の点検、遺物の洗浄・接合・復元、写真の整理は、原則として野外調査と並行して行うことにしたが、写真整理の一部は野外終了後に行った。

遺構図面は、点検後に第2原図を作成した。挿図中の縮尺は60分の1を原則とし、任意の縮尺についてはそれぞれスケールを付している。掲載にあたっては、調査区を優先としてその後遺構ごととした。遺物は、洗浄後全山上遺物を点検し、遺構内外に分けて登録し、注記・接合・復元を行った。その後、掲載遺物を選択し、写真撮影・実測・トレース・図版作成と作業を進めた。

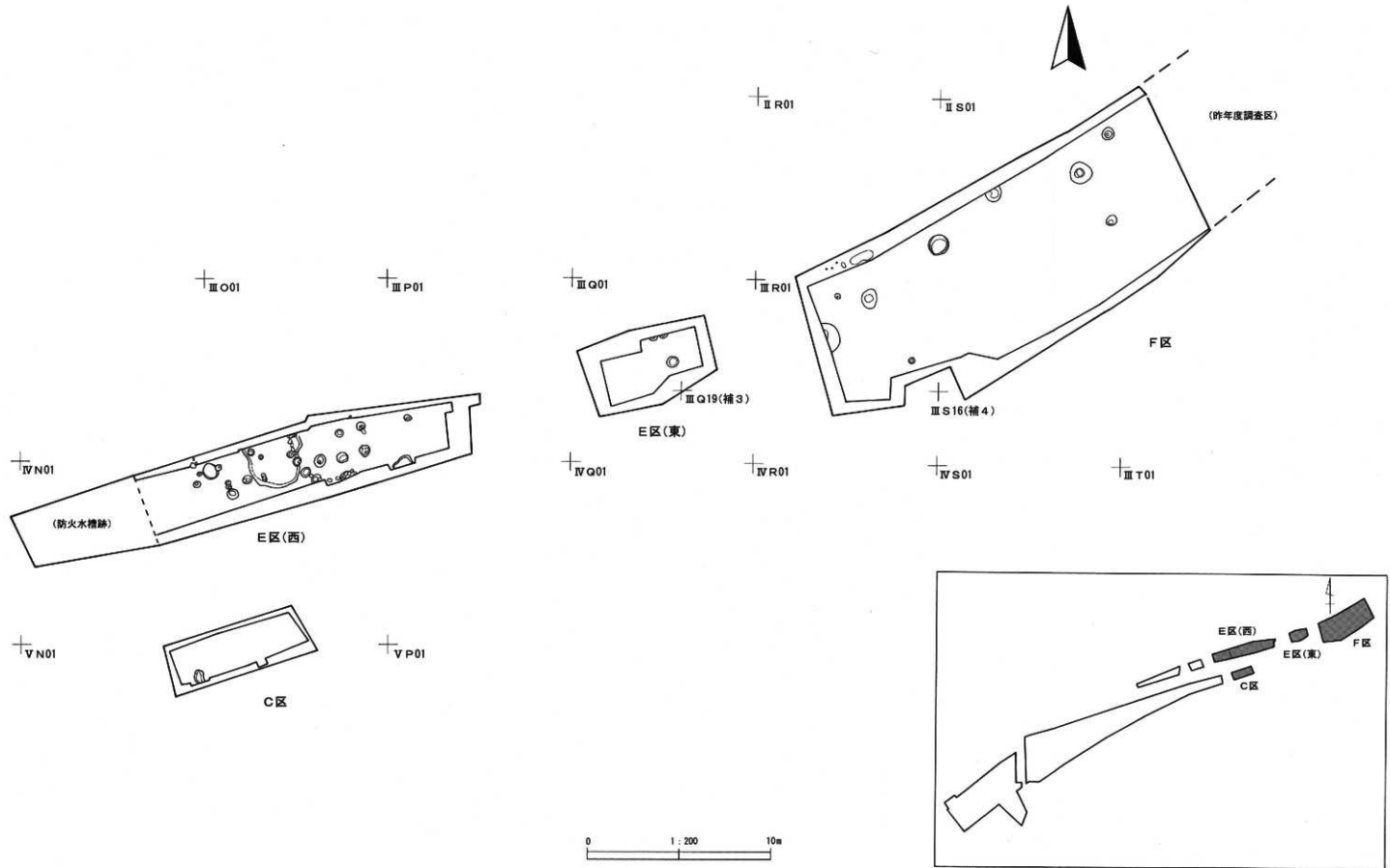
報告書に掲載した遺物の選択基準は、土器が、接合復元で実測可能になった大部分、口縁部と胴部資料は文様の明瞭なものを優先し、底部資料は出土数も少ないため実測可能なものをなるべく掲載した。また、破片資料についても、遺構理上からの出土はなるべく掲載した。陶磁器類は、現代擾乱以外からの出土で、近世以前に関わるものは掲載した(一部写真のみ)。石器は、加工されたものはすべて掲載した。比較資料としたもので写真のみ掲載したものもある。

挿図中の縮尺は、土器類3分の1、石器類2分の1を原則としているが、任意の縮尺については各図版中に記してある。

野外調査中に撮影した写真は、モノクロはフィルムの規格ごとにネガアルバムに整理した。遺物は、報告書記載のもので立体遺物、陶磁器類、石器はキヤノンEOS 1D(1670万画素)で、破片資料はキヤノンEOS 5D(1280万画素)で撮影し、当センター職員が行った。遺構写真と同様に、RAWモード撮影を行い、当センター設置のハードディスクに遺跡名・遺構名・登録番号をつけ保存した。写真図版中の縮尺については、小破片遺物が多いため、見やすくするため任意で掲載した。実測図版を参照していただきたい。なお、図版中の遺物番号と写真図版中の遺物番号は一致している。



第6図 遺構配置図(1)



第7図 遺構配置図(2)



## IV 検出された遺構と遺物

### 1 検出遺構

今年度の調査で検出された遺構は、全調査区合わせて、竪穴住居状遺構1棟、配石遺構1基、土坑37基、溝6条、柱穴状小土坑354個、埋設土器遺構1基である。各調査区によって遺構の出方および時期が異なっているため、調査区ごとに検出された遺構について述べることにする。なお〈規模〉の項の( )内の数字は、調査区外に伸びている遺構や攪乱のある遺構などで、全容が明らかでなく検出された部分についての測定できた数字である。

#### (1) A 区

最も西側の調査区にあたる。土坑5基、柱穴状土坑146個検出している。以前、金田一児童館があった場所で調査前は建物がない状態で砂利が敷かれ、一部駐車場として利用されていた。生文課の試掘データにより児童館建物の基礎がまだ地中に残っているということで、重機により表土掘削および基礎除去を実施した。この段階で最も西側には十和田b降下火山灰を含む黒土が残っていたが、東側になるにつれ基礎の入り方、配水管跡など攪乱が著しく、また最も東側では既に黒土の下層にあたる十和山中振火山灰層面をも削られている状態だった。そのため検出された遺構の残存状態は良好とは言えず、検出および精査は層序的(①十和山b降下火山灰層上層②中振火山灰上層(漸移層)③中振火山灰層下層④南部浮石層(八戸火山灰層))にできる範囲で進めたが、明確な時期決定に至る資料は得られなかった。

#### ①土坑

##### 1号土坑(第8図、写真図版2)

〈位置〉XD23グリッドに位置する。〈概要〉第1～2検出面で検出した。西側攪乱により全容は不明だが、南北にやや楕円形を呈する。北東壁際と南東壁際に柱穴状小土坑2基(46×45cm、深さ56cm・48×36cm、深さ62cm)を擁する。浅い土坑で底面はほぼ平らである。

〈規模〉127×60cm 深さ17cm。〈堆積上〉3層に分層される。自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉不明。

##### 2号土坑(第8図、写真図版2)

〈位置〉XC14グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。柱穴状小土坑3個を擁する。同時に検出されたため一遺構にしたが、1号土坑とは異なり4基の柱穴の重複遺構の可能性もある。不整の楕円形。壁は垂直気味に立ち上がる。

〈規模〉122×112cm、深さ45cm。〈堆積上〉4層に分層される。状況から人為堆積の可能性もある。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉不明。

##### 3号土坑(第8図、写真図版2)

〈位置〉XD07グリッド、XD08グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出され、東側は攪乱

を受けていた。P39に切られる。平面形はやや楕円形。断面形はすり鉢形。底面はほぼ平らである。

〈規模〉215×197cm、深さ53cm。〈堆積土〉9層に分層される。一部攪乱の影響からかレンズ状に堆積していないが、自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉機糸文を施した縄文土器片（胴下部）が1点出土している（1）。〈時期〉縄文土器は出土しているが、攪乱も受けているため、不明である。

#### 4号土坑（第8図、写真図版3）

〈位置〉XC08グリッド、XC09グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。平面形は円形、断面形はすり鉢状である。

〈規模〉84×73cm、深さ18cm。〈堆積土〉2層に分層され、レンズ状に堆積する。自然堆積と思われる。〈出土遺物〉無文の縄文土器片が1点出土している（2）。

〈時期〉縄文土器は出土しているが、出土層位がI層上位ということ、周辺の検出状況から積極的に縄文時代とは言い難い。

#### 5号土坑（第8図、写真図版3）

〈位置〉IXD19グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。平面形は円形、断面形はすり鉢状を呈する。南西側をP13に切られる。

〈規模〉122×120cm、深さ23cm。〈堆積土〉3層に分層される。レンズ状に堆積。自然堆積と思われる。〈出土遺物〉なし。〈時期〉不明。

#### ②柱穴状土坑（第9図、写真図版3）

146個の検出のうち、第1検出面では52個、第2検出面では67個、第3検出面では27個の検出である。ただし第1検出面といっても、A区南西側はすでに削平によりI和田中兼火山灰層面が露出していることもあり、時期差は確実とは言えない。またいくつか重複しているものもあり、時期差があるものの、同検出面から縄文土器、土師器、近世陶磁器（いずれも破片）などが出土しているため、不明である。いくつかの建物跡になると思われ、間尺、方向性などから検討してみたが、掘立柱建物に組み込むことはできなかった。P11・P13から土器片（3・4）がそれぞれ出土している。No.3は地紋の縄文が施されているが、No.4については、文様がなく底部破片のため縄文土器か土師器なのか判断しにくい。

## (2) B 区

調査区中央のもっとも範囲の広い調査区である。現況は畑と水田である。上坑19基、溝5条、埋設土器1基、柱穴状土坑183個が検出した。基本層序にも示したとおり、水田であったところは厚い盛土に覆われ最厚で2m近くも盛られていた。その盛土の下からは、現代の遺物であるビニールからガラス製品、近世陶磁器などが出土しており、周辺の住人からの話からも戦前くらいまではもとの地形を残していたようである。検出面は、十和田a降下火山灰と思われる面を第1検出面、十和田b降下火山灰層面を取り除いた面を第2検出面、確認のため十和田中兼火山灰層を取り除いた面（南部浮石層上面もしくは八戸火山灰層上面）を第3検出面として精査した。

## ①土坑

## 2号土坑（第10図、写真図版4）

〈位置〉V L20グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面であるが、この周辺は現耕作土を剥ぐとIV層上面となる。黒色上の地山に対し、黒褐色土の埋土で検出された。隅丸の長方形をなし、大変浅いが、底部はIV層下のVII層（和田中飯火山灰層）が顔を出している。周辺には現代と見られる遺構（生活跡）がいくつかあった。当遺構もその類と思われたが、決定的な証拠となるものが出土せず、土坑として登録した。

〈規模〉241×183cm、深さ31cm。〈堆積土〉5層に分層される。有機物の腐食したような土の堆積もあり、人為的な堆積と考えられる。

〈出土遺物〉縄文土器（5・6・7）、寛永通宝2点が出土している。〈時期〉縄文土器は出土しているが、検出状況、埋上状況から近世以降～近現代の新しい遺構と思われる。

## 5号土坑（第10図、写真図版4）

〈位置〉VI K13グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面（第2）で検出した。2号土坑と同様、耕作土を剥ぐとIV層となる。埋土は黒色土で、火山灰粒などはほとんど含まない。中央部は用水路のパイプによる攪乱と南側は調査区外へ伸びるために、全容は明らかではないが、推測として平面形は円形を呈すると考えられる。断面形は残存部分からすり鉢状となる。

〈規模〉(111) × (96cm)、深さ(36cm)。〈堆積土〉4層に分層される。上部は人為的な部分も見られるが、自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉土師器甕破片1点が出土している（8）。

〈時期〉周辺の現代と見られる遺構とは明らかに違う埋土であり古いと思われるが、検出状況や遺物出土から断定するには至らない。

## 6号土坑（第10図、写真図版5）

〈位置〉VI J 23・24グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。南側が調査区外に伸びるため全容は不明である。検出できた部分での推測では、2号土坑と同様である隅丸の長方形を呈し、断面形はすり鉢状である。精査段階で北西部分を掘りすぎてしまった。

〈規模〉234×(90cm)、深さ(22cm)。〈堆積土〉5層に分層される。自然堆積と思われる。〈出土遺物〉近世陶磁器碗1点（9）が出土している。

〈時期〉近世の可能性が高い。

## 7号土坑（第10図、写真図版5）

〈位置〉VII J 01グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。8号土坑とともに、B区調査区第1層を重機で掘り下げたときから検出していた土坑である。平面形はほぼ円形、断面形はすり鉢状である。

〈規模〉163cm×162cm、深さ49cm。〈堆積土〉単層である。植物痕含む。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉近世以降の新しいものと思われる。

## 8号土坑（第10図、写真図版5）

〈位置〉VI J 22グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。8号土坑より北東2mに位置

## 1 検出遺構

する。底面に凹凸があり木根痕の可能性もある。柱穴状土坑(?) 4個擁する。平面形はほぼ円形。断面形は浅いビーカー状を呈する。

〈規模〉158×148cm、深さ28cm。柱穴状土坑 径約50cm。〈堆積上〉3層に分層される。自然堆積か。〈出土遺物〉なし。〈時期〉7号上坑同様新しい遺構と思われる。

### 9号上坑(第10図、写真図版5)

〈位置〉VII14グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。T o - a層を切って構築される。南側調査区外に伸びる。残存部では平面形は円形であるが、ごく一部のため断定できない。断面形はややフラスコ状になる。

〈規模〉(94)×(42cm)、深さ(43cm)。〈堆積上〉2層に分層される。人為堆積と思われる。〈出土遺物〉なし。〈時期〉平安時代以降。

### 10号上坑(第10図、写真図版6)

〈位置〉VIII14グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。ただし当該遺構の周辺にはT o - a火山灰はなく、III層(南部浮石再堆積層?)での検出となる。柱穴状土坑1個を擁する。平面形は隅丸の長方形。断面形はややビーカー状を呈し、底面は平らである。

〈規模〉180×104cm、深さ21cm。〈堆積土〉単層である。ただしところどころ被熱した礫を伴う。炭化物はない。〈出土遺物〉なし。〈時期〉不明。

### 11号土坑(第10図、写真図版6)

〈位置〉VIII23グリッドに位置する。10号土坑より南東に5mにある。

〈概要〉第1検出面。10号土坑と検出面は同じ。P124に切られる。平面形は隅丸の長方形。断面形はすり鉢状であるが、底面中央部は平らになる。10号土坑よりも若干小規模であるが、どちらも長軸を真北に持つなど検出状況、形、埋土など類似している。

〈規模〉163×96cm、深さ22cm。

〈堆積土〉3層に分層される。〈出土遺物〉なし。〈時期〉不明。

### 12号土坑(第11図、写真図版6)

〈位置〉VIII F15・VIII F20・VIII F25グリッド付近に位置する。〈概要〉B区最西部からの検出である。第1検出面。当遺構の周辺より近世陶磁器や釘片などが採取された。平面形は隅丸の長方形、断面形は浅いすり鉢状だが、底面は平らである。P157・P160・P166・P169に切られる。

〈規模〉359×252cm、深さ16cm。〈堆積土〉3層に分かれる。

〈出土遺物〉縄文土器(10)、近世陶磁器(11・12)、石器(13)が出土している。

〈時期〉周辺の遺物、検出状況などから近世以降と思われる。

### 14号土坑(第11図、写真図版5)

〈位置〉VIII G17グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。P139・P144に切られる。平面形はほぼ円形、断面形は底面の平らなすり鉢状を呈する。

〈規模〉80×79cm、深さ27cm。〈堆積土〉単層である。〈出土遺物〉なし 〈時期〉不明。

## 15号土坑 (第11図、写真図版6)

〈位置〉ⅧG06グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。平面形は長楕円形、断面形はすり鉢状である。北西部に柱穴状土坑を1個擁する。

〈規模〉168×64cm、深さ18cm。〈堆積上〉単層である。一部木痕と見られる攪乱を受けている。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉詳細は不明だが、検出面から近世以前と推測される。

## 16号土坑 (第11図、写真図版7)

〈位置〉ⅧG16グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。東部壁際において17号土坑と重複しており、17号土坑よりも新しい。ほぼ円形を呈し、断面形はすり鉢状である。

〈規模〉100×97cm、深さ38cm。〈堆積上〉4層に分層される。1層は植物痕多い。自然堆積と思われる。〈出土遺物〉なし。〈時期〉詳細は不明だが、検出面から近世以前と推測される。

## 17号土坑 (第11図、写真図版7)

〈位置〉ⅧG16・17グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面。南側の上層面上において5号溝が作られている。西部壁際において16号土坑と重複し、16号土坑よりも古い。上端はほぼ円形を呈し、中端から下位において長方形となる。底部は平で、壁はすり鉢状に立ち上がる。精査経過では同一遺構としたが、円形の上坑と上部を削平された長方形の土坑との重複した2遺構である可能性もある。

〈規模〉182×172cm (中端～下位126×69cm)、深さ66cm (中端～下位26cm)。

〈堆積上〉13層に分層される。長方形分はほぼ同一層で一度に埋まった様子が窺える。人為堆積と思われる。〈出土遺物〉なし。〈時期〉詳細は不明だが、検出状況から縄文時代と思われる。

## 18号土坑 (第11図、写真図版7)

〈位置〉ⅧF25グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。ほぼ円形を呈し、断面形はピーカー状である。

〈規模〉83×76cm、深さ26cm。〈堆積上〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉詳細は不明だが、近世以前と思われる。

## 19号土坑 (第11図、写真図版7)

〈位置〉ⅧI16・17グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。平面形は長楕円形、断面形はすり鉢状を呈し、北東側はより深くなる。

〈規模〉350×105cm、深さ21cm。〈堆積上〉2層に分層される。自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉縄文土器 (14・15) が出土している。〈時期〉縄文時代か。

## 20号土坑 (第12図、写真図版8)

〈位置〉ⅧG13・14グリッドに位置する。〈概要〉第1～2検出面で検出した。B区北西側は道路に向かって、ゆるく傾斜しており上層の堆積土が厚く堆積している。周辺から第2検出面として実測精査したが、第2検出面よりも上層での検出である。遺構は北側に伸びるが、北側は道路となっているため内容は明らかでない。残存状況は楕円形を呈しているが、北側 (道路側) に向かって低く傾斜しており、推測しがたい。

〈規模〉(205) × (142cm)、深さ (34cm)。〈堆積上〉単層である。

〈出土遺物〉近世陶磁器（16・17）、寛永通宝1点が出土している。〈時期〉検出された場所、検出状態、形態などから、出土遺物と同じ近世～近代の可能性を否めない。

#### 21号土坑（第12図、写真図版8）

〈位置〉VII107グリッドに位置する。〈概要〉同位置の上層面（第1検出面）には、P126が作られている。平面形は楕円形で、大変浅いすり鉢状に立ち上がる。遺構の約半分ほど北西側に炭化材が出土している。焼上はないが、炭化材の残存状態から窪地に投げ入れたものとは考えにくい。状況や形状などから墓塚の可能性があるが、骨片などは見つかっていない。

〈規模〉127×104cm、深さ17cm。〈堆積土〉1層。炭化物を多く含む。

〈出土遺物〉土器は出土していないが、炭化材とともに被熱した石器（18～20）が出土している。

〈時期〉不明。

#### 22号土坑（第12図、写真図版8）

〈位置〉VI J19グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面。同位置の上層（第1検出面）に2号溝が作られている。細長い陥し穴状（溝状）の形状を呈する。これ以外には似たような遺構はない。

〈規模〉130×33cm、深さ24cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉検出状況から縄文時代と思われる。

#### 23号土坑（第12図、写真図版9）

〈位置〉VIK12グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面。東側は用水路パイプ攪乱のため、全容は明らかでない。残存部は楕円形を呈する。断面は浅いすり鉢状である。同位置上層部（第1検出面）に5号土坑が作られている。

〈規模〉(110) × (86cm)、深さ(27cm)。〈堆積土〉2層に分層される。自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉検出状況から縄文時代と思われる。

### ②溝状遺構

#### 1号溝（第12図、写真図版9）

〈位置〉VIK05・VIK10グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面であるが、周辺では十和田a降下火山灰層がなく、III層（南部浮石再堆積層）やIV層（十和田b降下火山灰層）が露出している。南側において、6号溝と重複しており、6号溝よりも新しい。6号溝よりも深く構築されており、中央部の底面がやや低く平らである。

〈規模〉234×60cm、深さ25cm。〈堆積土〉単層である。5号土坑と類似している。

〈出土遺物〉石器（316）が出土している。〈時期〉不明。

#### 2号溝（第12図、写真図版9）

〈位置〉VI J19・20・23付近に位置する。〈概要〉B区ほぼ中央の第1検出面、T o - a火山灰を切る状態で検出された。3号溝を切っている。北東→南西に向かってゆるやかに傾斜し、両側では上部が削平されて途切れている。

〈規模〉663×73cm、深さ22cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉検出状況から平安時代以降と思われる。

## 3号溝（第12図、写真図版10）

〔位置〕VIJ19・20・25グリッドに位置する。〔概要〕第1検出面で検出し、2号溝とともに確認した。2号溝に北側を切られ、南側は調査区外に伸びている。2号溝に横断された状態だが、2号溝よりも北側については、3号溝の延長部分と見られる遺構は見つからなかった。2号溝内で完結していると思われる。南側から北側に向かって若干傾斜している。

〔規模〕(158) × (165cm)、深さ22cm。〔堆積土〕3層に分かれる。〔出土遺物〕なし。

〔時期〕2号溝とともに平安時代以降と思われる。

## 5号溝（第13図、写真図版10）

〔位置〕VII F24・25・VII G21・22グリッド付近に位置する。〔概要〕B区の最西部において第1検出面で検出した。ほりこみの形状は不定形で、底面も一方に傾斜するような安定した掘られ方をしていない。中央部がやや深くなり、ところどころ起伏を繰り返す。西側に続く様子が見られるが、調査区西側は道路によって分断されており、確認できなかった。

〔規模〕(770) × (85~60cm)、深さ(48cm)。〔堆積土〕4層に分かれる。最も残りの良い深さのある場所での確認であり、浅いところでは2層までしかない。

〔出土遺物〕土師器壘片(23)が出土している。〔時期〕土師器片は出土しているものの、検出場所が道路に大変近いこと、周辺から現代のものも含んだ攪乱部分もあり、近世の可能性が高い。

## 6号溝（第12図、写真図版10）

〔位置〕VIK10グリッドに位置する。

〔概要〕第1検出面。1号溝とともに確認された。1号溝よりも古い。北側を1号溝によって切られ、南側は調査区外で更に伸びると思われる。道路側(1号溝側)に向かって若干傾斜する。

〔規模〕(228) × (60cm)、深さ(30cm)。〔堆積土〕3層に分かれる。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕なし。〔時期〕不明。

## ③埋設土器遺構（第13図、写真図版11）

〔位置〕VII G14・15グリッドに位置する。〔概要〕B区西寄りの南側壁(調査区法面)にて検出した。十和田b降下火山灰層を下げ、第2検出面調査の際、南側法面に土器口縁部の一部が出土しており、精査段階で埋設土器と確認した。十和田b降下火山灰層と十和田中殿火山灰層との漸移層で掘り込まれている。土器よりも周辺をやや大きめに掘り込み(深さは土器とほぼ同じ)をし、正位状態で土器を設置している。底部穿孔はなかった。土器内埋土は洗浄の結果、何も見つけることはできなかった。当該遺構の周辺ではこの遺構に関連するような遺構は見つかっていない。

〔規模〕掘り込み規模(43) × (33cm)、深さ45cm。〔堆積土〕土器内5層に分層された。底部近くの埋土は上部よりも粘性が強かった。骨片など土以外のものは見つからなかった。

〔遺物〕No.22。頸部から口縁部にかけてやや外反する深鉢である。器高は36cm強である。口縁部1/2ほどが欠損している。底部は円形だが、胴部から口縁部にかけてやや楕円形に作られている。肩上部から胴下部まで網目状捺糸文、胴下部から底部まではヨコナデ調整が施される。胴部においても縄文が施された後、ヨコナデなどの調整痕が若干見られる。スス付着が内外面にみられ、とくに外面にはふきこぼれ痕が幾筋もあり、その部分を拭いたような摩耗痕(縄文が擦れて消えかかっている)も確認できる。転用されたものか。〔時期〕縄文時代後期前半である。

## ④柱穴状土坑（第13・14図、写真図版第11図）

B区では183個検出した。ほとんどは第1検出面での検出である。前述したように、この地は戦前まで屋敷が建っていたらしいという話を裏付けるように、柱穴状土坑の検出された周辺では縄文土器片をはじめ、近世近代～現代の陶磁器類、ガラス類などが見つかっている。B区東側VIK09～VIL01グリッド周辺、中央部VII01～VII04グリッド周辺、西側VIII11～VIII12グリッド周辺、VIIG06～VIIG09グリッド周辺に集中して遺構が見られる。VIII11～VIII12グリッド周辺のは規模からみて小屋のような小規模の建物、それ以外は母屋のような建物の可能性が高い。ただしA区と同様、掘立柱建物跡は立たなかった。

遺物は柱穴状土坑の埋土中から、縄文土器（掲載26・27）、近世陶磁器片、ガラス片、石器（掲載110）が出土している。この遺構に関わると思われる周辺からの出土遺物は遺構外出土として別に掲載している。

## (3) C 区

C区は、調査区の横断する道路よりも南側、最東に位置する調査区である。現況は民家の庭になっており、草木が植樹されていた。この地も、十和田b降下火山灰層面までは盛土がなされ、十和田b降下火山灰直上では南部浮石粒らしきものがある範囲を持って占めていた。このことはB区同様である。十和田a降下火山灰は確認できなかった。遺物が集中して出土したのは、十和田b降下火山灰層である。検出した遺構は土坑1基のみで、この層の下から検出した。

## ①七坑

## 1号土坑（第15図、写真図版12）

〈位置〉VN05グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面（T o - C u層上面）での検出である。埋土底部に歯状ブロックが混じってくる。南側は調査区外に伸びている。平面形は不定形、断面はすり鉢状である。

〈規模〉(73) × (50cm)、深さ18cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし 〈時期〉検出面から縄文時代と思われる。

## (4) D 区（西）

横断している道路よりも北側にあり、最西に位置する調査区である。現況は庭兼畑で、野菜の他に草花が植えられている。民家入り口ということもあり、細長く狭い調査でほとんど手作業による掘り下げを行った。十和田中煎火山灰層面から西側に向かって徐々に深くなっており、道路際ということもあり、安全上南部浮石層まで下げることはできなかった。十和田中煎火山灰の傾斜に合わせて十和田b降下火山灰層（漸移層も含む）も堆積しており、盛土によってほぼ同調査区は平坦にされる。そのため西側はより厚い盛土となっていた。上器は中央部からやや東寄りの十和田b降下火山灰層上面にて集中して出土した。十和田a降下火山灰は確認できなかったため、十和田b降下火山灰上面（第1検出面）、十和田中煎火山灰層面（第2検出面）をそれぞれ検出面として精査した。溝1条、柱穴状土坑3個が検出している。いずれも民家入り口寄りである。



## ①溝状遺構

1号溝（第15図、写真図版13）

〈位置〉IV L23グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出し、調査区外（民家人口道路）に伸びており、全容は不明。

〈規模〉(96) × (23cm)、深さ18cm。〈堆積土〉単層

〈出土遺物〉なし 〈時期〉第2検出面ながら、検出位置的に上面を削平されている可能性が高く、不明である。

## ②柱穴状土坑（第15図、写真図版13）

1号溝と同様の第2検出面にて、4個の柱穴状土坑を確認した。3個は一直線上に並び、建物跡の一部と考えられるが、狭い調査区であり建物本体のほとんどは調査区外にあるものと思われる。

## (5) D 区（東）（写真図版13）

民家入口道路を挟んで、D区（西）の東側に位置する大変狭い調査区である。北東側には井戸が掘られ、削平及び攪乱を確認した。基本層序は他調査区とほとんど変わらない。遺構・遺物は確認されなかった。

## (6) E 区（東）

民家入口道路に挟まれた小範囲の調査区である。基本層序はD区同様である。盛土が厚く堆積しており、重機による表土剥ぎ、検出面掘り下げを行った。IV層で縄文土器が出土したが、遺構はなかった。VII層（T o - C u層）上面で土坑1基、柱穴状土坑2基を検出した。

## ①土坑

1号土坑（第15図、写真図版14）

〈位置〉III Q13グリッドに位置する。〈概要〉中礫火山灰層（第2検出面）にて検出されたものである。周辺は中礫火山灰純層（砂層）で、上端がもろかった。平面形はやや円形、断面形はややすり鉢形状である。

〈規模〉60 × 59cm、深さ22cm。〈堆積土〉2層に分かれる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代（後期前半〜）と考えられる。

## ②柱穴状土坑（第15図、写真図版14）

1号土坑と同じ面での検出である。2個検出した。北側を壁（北側法面）により遮られているため、全容は不明である。

## (7) E 区（西）

横断する道路を挟んで、C区の北側に位置する調査区である。西側3分の1は、調査前に防火水槽があった場所で、4～5mは掘っていたという。重機で確認できるところまで下げたが、砂利、礫が

続き、安全上途中で断念した。残り3分の2からは十和田b降下火山灰層D(漸移層)～十和田中撒火山灰層(第2検出面)より、配石遺構1基、竪穴住居状遺構1棟、上坑5基、柱穴状上坑17個を重複する状態で検出した。遺物は縄文時代後期前半の土器が中心に出土した。道路を挟んで10m弱の南側のC区からは当調査区に関わるような遺構が全く見つからず、等高線などから検討してもE区(西)よりも北側に更に遺構が広がっていることが推測される。

#### ①竪穴住居状遺構(第15図、写真図版15)

〈位置〉ⅢO22～23、IVO02～03グリッド付近に位置する。

〈概要〉第2検出面。配石遺構、P06、P07、P08、P17と重複する。いずれの遺構よりも古い。柱穴状ビット4個を擁する。調査区外の北側に遺構は伸びており、全容は不明である。焼土等炉は確認できなかった。先の重複遺構のためか平面形はやや楕円形ながら不定形を呈する。壁は緩やかに立ち上がる部分、垂直に立ち上がる部分と様々である。床は中撒火山灰層の固塊層上面を利用しており、大変固く締まり、ほぼ平坦である。

〈規模〉(310)×(268cm)、深さ30cm。〈堆積上〉18層に分層される。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉埴土中位～上位にかけて縄文時代後期前半の土器片(33～51)、石器(54～56)、土器片円板(52・53)、円盤状石製品(57)が出土している。また、東西ベルト上位で琥珀片が出土した。加工は見られず、小片である。琥珀片の分析結果については後記している。柱穴状土坑(p01)からは、縄文土器(49)が出土している。〈時期〉検出面、遺物から縄文時代後期(前半)と思われる。

#### ②土坑

##### 1号土坑(第16図、写真図版17)

〈位置〉IVO01グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。平面形は円形、断面形はすり鉢状である。

〈規模〉56×55cm、深さ21cm。〈堆積上〉単層である。〈出土遺物〉なし。

〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

##### 2号土坑(第16図、写真図版17)

〈位置〉IVO01グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出し、P03に切られている。平面形はほぼ円形、断面形は一部フラスコ状を呈する。掘り込み面、底面の様子から竪穴住居状遺構と同時期に存在した可能性が高い。

〈規模〉88×80cm、深さ56cm。〈堆積上〉4層に分かれる。自然堆積とは言い難い。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

##### 3号土坑(第16図、写真図版17)

〈位置〉ⅢO21グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。平面形は円形、中端にて柱穴状に下がる。断面形は段差を持つすり鉢状である。

〈規模〉69×60cm、深さ32cm。〈堆積上〉3層に分かれる。人為的と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

## 4号土坑(第16図、写真図版17)

〈位置〉IVP04・IVO05グリッドに位置する。〈概要〉南側が調査区外(現道路下)に伸びるため、全容は不明である。配石遺構の石除去後に検出した。平面形は残存部でやや円形、断面形は一部フラスコ状になる。

〈規模〉(93)×(41cm)、深さ30cm。〈堆積土〉5層に分かれる。自然堆積か。

〈出土遺物〉縄文土器(58~60)が出土している。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

## 5号土坑(第16図、写真図版18)

〈位置〉IVP01グリッドに位置する。〈概要〉4号土坑の西側にあり、同様に南側部分が調査区外に伸びており全容は不明である。平面形、断面形とも4号土坑に類似している。

〈規模〉(106)×(55cm)、深さ27cm。〈堆積土〉3層に分かれる。自然堆積か。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

## ③配石遺構(第16図、写真図版16)

〈位置〉III O23~25、IVO03~05グリッドに位置する。

〈概要〉第2検出面。十和田b降下火山灰層直下にて検出した。4 m10cm~4 m30cmほどのほぼ円形を呈する小礫状列石である。20~34cmほどの人頭大の礫が円形になるように並べられている。全体の約2分の1の礫が確認できた。北側は調査区外に伸びている。礫の中央に掘り込みなど別施設はない。当遺構の周辺に同じ高さ(出土面)でいくつかの礫が見つかったが、この列石に伴うものと見ていいと考えられる。この配石を取り除いた状態で柱穴状土坑、住居状遺構が見つかった。

〈規模〉430×410cm(径)。〈出土遺物〉同じ面より、縄文土器(28~32)が出土している。特に29は、鋸歯状の刻みが口唇部にめぐる切斯蓋付土器片(盃)である。受け口部分の破片と蓋部分の破片とは文様が合い、同一個体のもつと見られる。〈時期〉縄文時代後期前半と思われる。

## ④柱穴状土坑

## 1号~5号柱穴状土坑(第18図、写真図版19)

いずれも住居状遺構よりも西側に位置し、十和田中嶺火山灰層上面で検出した。1号柱穴状土坑は2号柱穴状土坑と重複し、1号柱穴状土坑のほうが新しい。3号柱穴状土坑は、2号土坑を切っている。1号~4号柱穴状土坑は、3号柱穴状土坑のみやや深さはあるが、底面レベル値、形状などほぼ同じような掘り方がなされる。5号柱穴状土坑はそれと比べ87cmの深さであり、底面レベル値、形状などから住居状遺構~配石の位置に検出された柱穴状土坑類と関わる可能性が高い。これらの柱穴状土坑は縄文時代後期前半と考えられる。

## 6号柱穴状土坑(第17図、写真図版18)

〈位置〉III O23グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面での検出である。住居状遺構および住居状遺構に伴うp p 04を切る。調査区北壁に検出し、2分の1のみ確認できた。

〈規模〉(37)×(18cm)、深さ82cm。〈堆積土〉単層である。竪穴住居状遺構に伴う柱穴状土坑よりも黒色土が堆積している。上位には土器片の風化土粒が散在していた。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

## 1 検出遺構

### 7号柱穴状土坑（第17図、写真図版18）

〈位置〉ⅢO22グリッドに位置する。〈概要〉竪穴住居状遺構精査中に別遺構と判断した。検出面では住居状遺構との明確な区別はなかった。ほぼ垂直に立ち上がる。竪穴住居状遺構を切る。

〈規模〉37×33cm、深さ74cm。〈堆積土〉単層である。6号柱穴状土坑同様黒色土堆積である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 8号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉ⅢO23グリッドに位置する。〈概要〉竪穴住居状遺構精査中に別遺構と判断した。検出面では住居状遺構との明確な区別はなかった。やや北に傾く。竪穴住居状遺構を切る。

〈規模〉37×37cm、深さ52cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 9号柱穴状土坑（第17図、写真図版18）

〈位置〉ⅢO24グリッドに位置する。〈概要〉配石遺構下の中敷火山灰層上面で検出した。やや北に傾く。〈規模〉55×53cm、深さ77cm。〈堆積土〉4層に分かれる。中～底部は単層。上面は自然堆積か。〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 10号柱穴状土坑（第17図、写真図版18）

〈位置〉ⅢO24グリッドに位置する。〈概要〉配石遺構下の中敷火山灰上面にて検出した。やや南に傾く。〈規模〉45×40cm、深さ55cm。〈堆積土〉単層である。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 11号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉ⅢO25グリッドに位置する。〈概要〉配石遺構下の中敷火山灰上面にて検出した。やや北に傾く。〈規模〉50×48cm、深さ85cm。〈堆積土〉単層である。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 12号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉ⅢO25グリッドに位置する。〈概要〉配石遺構下の中敷火山灰上面にて検出。ほぼ垂直に立ち上がる。〈規模〉60×51cm、深さ75cm。〈堆積土〉単層である。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 13号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉ⅢP16グリッドに位置する。〈概要〉もっとも東寄りで検出した。他の柱穴状土坑とは様相を異にする。むしろ1号柱穴状土坑～4号柱穴状土坑に近い。浅い。やや北に傾く。

〈規模〉38×37cm、深さ20cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 14号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉ⅣO02グリッドに位置する。〈概要〉竪穴住居状遺構よりも西側において住居状遺構検出

時に確認できたもの。状況から堅穴状遺構よりも新しいと考えられる。ほぼ垂直に立ち上がる。

〈規模〉52×44cm、深さ51cm。〈堆積土〉単層である。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

#### 15号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉IV003グリッドに位置する。〈概要〉他柱穴状土坑検出の際に当初確認できず、中殿火山灰火山灰層を剥ぐ確認作業時に見つかったものである。埋土の様子、規模、底部レベル値などから周辺の中殿火山灰層漸移層にて検出されている柱穴状土坑と同時期のものと同判断した。ほぼ垂直に立ち上がる。

〈規模〉50×43cm、深さ41cm。〈堆積土〉単層である。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

#### 16号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉IV004グリッドに位置する。〈概要〉15号柱穴状土坑と同様の検出、精査、判断をしたものである。ほぼ垂直だがやや北に傾く傾向がある。

〈規模〉58×44cm、深さ58cm。〈堆積土〉単層である。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

#### 17号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉III023グリッドに位置する。〈概要〉15号柱穴状土坑と同様の検出、精査、判断をしたものである。ほぼ垂直に立ち上がる。

〈規模〉43×43cm、深さ88cm。〈堆積土〉単層である。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### (8) F 区

昨年度の調査区の南側に続く調査区である。昨年度と同様ここでも火山灰は確認された。ただし、B区のところでも述べたような、十和田 a 降下火山灰下の南部浮石層については、昨年度は全く確認されておらず、十和田 a 降下火山灰層下は十和田 b 降下火山灰層と自然な堆積状況を示している。昨年度の調査区と今年度の調査区との境の部分において、現表土からの広範囲にわたる攪乱を受けており、どのような堆積状況で今年度の層序から昨年度の層序へと移るかは確認できなかった。昨年度検出された近世と思われる遺構は、今回 F 区では確認できず、十和田 a 降下火山灰層上面で見られた柱穴状ピットからは現代の遺物であるビニール片などが見つかったため、登録しなかった。次項から記載する遺構は全て十和田 b 降下火山灰層を下げた中殿火山灰層との漸移層中からの検出である。なお、他の調査区と同様、遺物については、十和田 b 降下火山灰層（上位～下位）からの出土が最も多かった。特に、北側の調査区壁際には一括で採取できた土器が見つかっており、今回掲載した土器でもっとも接合率が高かったものである。さらに北側には今回出土した土器の同一遺物破片など確認できそうであったが、調査区外ということで断念した。また F 区の遺構の出力を見ると、遺物と同様北側寄りに検出されており、遺構の主体部は F 区調査区よりも北側の可能性が高い。検出された遺構は上坑が 6 基、柱穴状土坑が 3 個である。

①土坑

1号土坑（第19図、写真図版20）

〈位置〉ⅢR08グリッドに位置する。〈概要〉調査区外である白側に遺構が伸びている。残存部分から平面は円形、断面形はすり鉢状であるが、全容は不明である。

〈規模〉(168) × (84cm)、深さ45cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代（後期）と思われる。

2号土坑（第19図、写真図版20）

〈位置〉ⅢR04グリッドに位置する。〈概要〉平面形はやや楕円形、断面形はすり鉢状を呈する。

〈規模〉110×80cm、深さ38cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代（後期）と思われる。

3号土坑（第19図、写真図版21）

〈位置〉ⅢR20、ⅢS21グリッド付近に位置する。〈概要〉平面形はやや円形、断面形はフラスコ状を呈する。

〈規模〉113×96cm、深さ52cm。〈堆積土〉4層に分かれる。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代（後期）と考えられる。

4号土坑（第19図、写真図版21）

〈位置〉ⅡS12グリッドに位置する。〈概要〉北側が調査区外に伸びており、全容は不明である。残存部分からでは平面形はやや楕円形を示す。断面形は平坦ではなく、凹凸がある。

〈規模〉(82) × (76cm)、深さ(20cm)。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代（後期）と考えられる。

5号土坑（第19図、写真図版21）

〈位置〉ⅡS05・ⅡS10グリッドに位置する。〈概要〉平面形はほぼ円形、断面形はすり鉢状である。〈規模〉74×66cm、深さ21cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代（後期）と考えられる。

6号土坑（第19図、写真図版21）

〈位置〉ⅡS09・ⅡS14グリッドに位置する。〈概要〉平面形は円形を呈し、朝顔状に広がっている上端が、中端にてすぼまり底部へと続く。

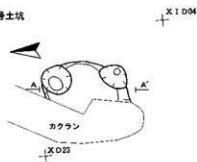
〈規模〉120×117cm、深さ53cm。〈堆積土〉5層に分かれる。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代（後期）と考えられる。

②柱穴状土坑（第19図、写真図版22）

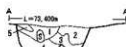
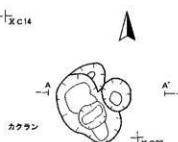
F区では3個確認された。いずれの柱穴状土坑も、1号土坑～6号土坑検出面と同じ面での検出である。E区（西）の柱穴状土坑のようにレベル値の深くなるものはなかった。遺物等の出土はなかったが、検出面から周辺の土坑群と同様、縄文時代後期に属すると思われる。

1号土坑



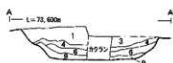
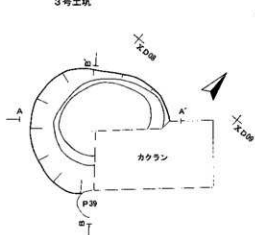
- 1:10YK2/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強 To-Cu%含む  
 2:10YR3/2 黒褐色 しまり、粘性とともに中  
 To-Cuブロック(φ5~10mm)9%含む  
 3:10YR2/2 黒褐色とTo-Cuの混合土 しまり、粘性とともに中

2号土坑



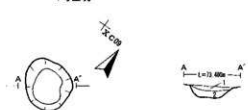
- 1:10YK2/1 黒色 しまり、粘性とともに中  
 2:10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性とともに中 To-b%、暗褐色土少量含む  
 3:2.5Y5/3 黄褐色 しまり、粘性弱 To-Cuと暗褐色土の混合土  
 To-Cuブロック  
 4:10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性とともに中  
 5:To-a2

3号土坑



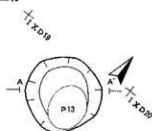
- 1:10YK2/1 黒色 しまり中、粘性やや強 To-Cu(φ1~2mm)10%含む 遺物も含  
 2:10YR1.7/1 黒色 しまり中、粘性やや強 To-b10%、To-Cu%、赤色粒(2%  
 含む) 1~3mm  
 3:10YR2/1 黒褐色 しまり、粘性とともに中 To-Cu(φ1~2mm)5%含む  
 4:7.5YR3/2 黒褐色 しまり、粘性とともに中 黄褐色粒子(φ1~2mm)20%含む  
 5:10YR3/2 灰黄褐色 しまり中、粘性やや強 To-Cuブロック(φ3~15mm)5%  
 黄褐色粒子(To-b?、1mm)10%含む  
 6:10YK5/4 に近い黄褐色 しまりやや強、粘性中 砂質 黄褐色粒子(φ1~3mm)  
 20%含む To-Cuの薄層か  
 7:7.5YK3/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強 黄白色・黄褐色粒(To-b?、  
 φ1~2mm)5%含む  
 8:7.5YR3/2 黒褐色と10YR5/3 に近い黄褐色の混合土 しまり、粘性とともに中  
 9:10YR5/2 灰黄褐色 しまり、粘性とともに中 黄褐色粒子(To-b?、φ1mm)10%含む

4号土坑



- 1:10YK2/1 黒色 しまり、粘性とともに中 To-b10%含む 遺物も含  
 2:10YK2/2 黒褐色 しまり、粘性とともに中 To-Cu(φ2~3mm)5%含む  
 やや粘性あり

5号土坑



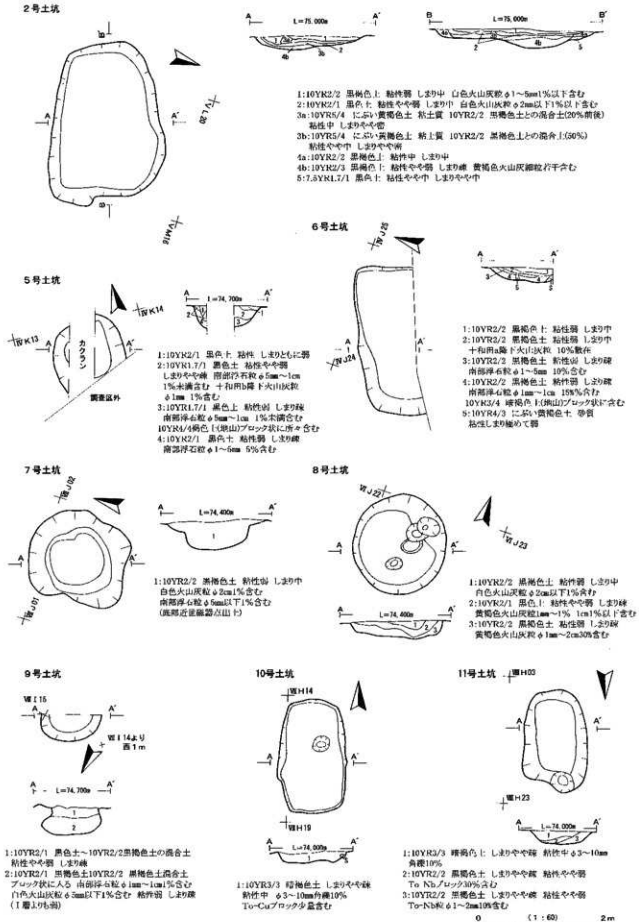
- 1:10YK2/2 黒褐色 しまり、粘性とともに中 黄白色・黄褐色粒子  
 (To-b?, φ1~2mm)20%含む 粒子やや粗い  
 2:10YK2/3 黒褐色 しまり、粘性とともに中 黄白色・黄褐色粒子  
 (To-b?, φ1~2mm)20%含む  
 3:10YR5/1 灰黄色粘土 しまり中、粘性強 壁面崩落土  
 断面粘土より白い

0 (1:60) 2m

第8図 A区1~5号土坑

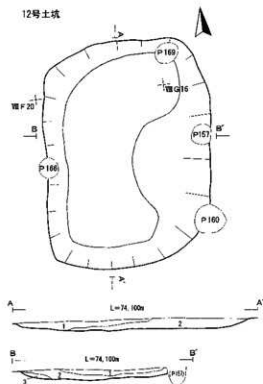






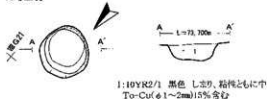
第10図 B区2・5～11号土坑

12号土坑



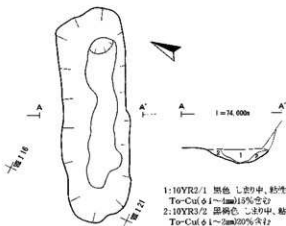
- 1:10YR3/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強 黄褐色粘土ブロック(φ1~5cm)15%含む  
 2:10YR3/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強 黄褐色粘土ブロック(φ5~15cm)30%含む  
 3:2.5Y7/8 黄色、しまり疎、粘性やや弱 ゴツゴツ(皮粉) 和り強い

18号土坑



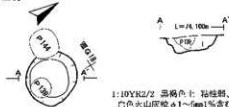
- 1:10YR2/1 黒色 しまり、粘性ともに中 To-Cu(φ1~2mm)15%含む

19号土坑



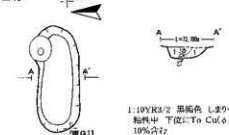
- 1:10YR2/1 黒色 しまり中、粘性やや強 To-Cu(φ1~2mm)15%含む  
 2:10YR3/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強 To-Cu(φ1~2mm)20%含む

14号土坑



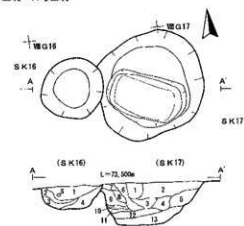
- 1:10YR2/2 黒褐色 しまり中、粘性弱、しまり中 白色火山灰(層φ1~5mm)1%含む 黄褐色灰土(灰粉φ1~5mm)1%含む P139-P144に切れる

15号土坑



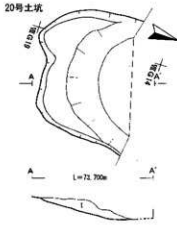
- 1:10YR3/2 黒褐色 しまりやや弱、粘性中 下位にTo-Cu(φ1~3mm)19%含む

16号土坑・17号土坑

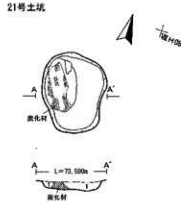


- SK16 1:10YR3/2 黒褐色 しまりやや弱、粘性中 To-Cu(φ1mm)3%含む  
 2:10YR2/2 黒褐色 しまりやや弱、粘性中 部分的に黒褐色土を含みやや固くしまる  
 3:10YR4/1 褐色 しまりやや弱、粘性やや弱 To-Cu40%含むため黄色がゆえる  
 4:10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 To-Cu5%含む  
 5:2.5Y5/4 黄褐色 しまりやや弱、粘性やや弱 To-Cu内側の砂質土 白色のTo-Cu3%含む  
 6:10YR3/1 黒褐色 しまり中、粘性やや強 To-Cu(φ1~2mm)20%含む  
 7:10YR3/3 暗褐色 しまり、粘性ともに中 やや砂質  
 8:10YR3/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 To-Cu10%含む  
 9:10YR4/3 ぶい黄褐色 しまり、粘性ともに中 To-Cu5%含む  
 10:10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 やや砂質  
 11:10YR4/3 ぶい黄褐色 しまり中、粘性やや弱 粒子細かゆ砂質土  
 12:10YR5/3 にぶい黄褐色 しまり、粘性ともに中 To-Cu内側の砂質土 5割と9割強い  
 13:10YR6/3 にぶい黄褐色 土 しまり中、粘性やや弱 砂質土(To-Cu弱)

0 (1:50) 2m



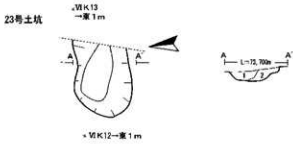
1:10YR3/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強



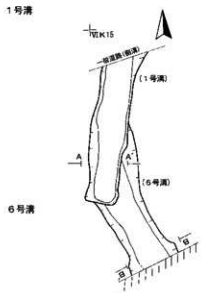
1:10YR2/2 黒褐色 しまりやや硬、粘性中  
To Cu5%、炭化物(φ3mm)15%含む



1:10YK2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中  
赤褐色粒子(To-Cu)φ1~2mm)10%含む

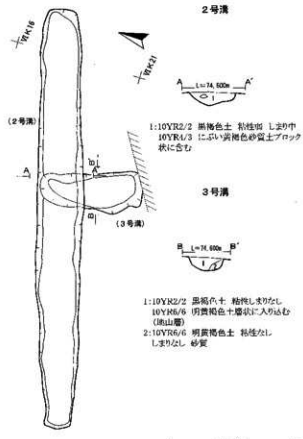


1:10YR2/1 帯色 しまり中、粘性やや強  
To-Cu(φ1~2mm)15%含む  
2:10YR2/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強  
To-Cu(φ1~3mm)15%含む



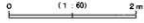
SD01  
1:10YR2/1 黒色土 10YK2/2 黒褐色土の  
混合土(50%) 粘性弱 しまり中 有炭屑不純  
φ1cm以下不純含む

SLM6  
1:10YK2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中  
To Cu(φ1~2mm)10%含む  
2:10YR7/6 黄褐色 しまりやや硬、粘性中  
ゴロタ灰(基本層厚重量)の堆積土  
To-Cu(φ1~2mm)5%含む  
3:10YK3/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強  
To-Cu・ゴロタ灰(φ1~5mm)10%含む



1:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり中  
10YR4/3 に近い黄褐色砂質土ブロック  
状に含む

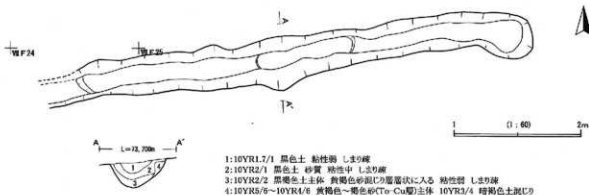
1:10YK2/2 黒褐色土、粘性しまりなし  
10YR6/5 明黄褐色土層状に入り込む  
(灰山層)  
2:10YR6/6 明黄褐色土 粘性なし  
しまりなし、砂質



第12図 B区20~23号土坑・1~3・6号溝

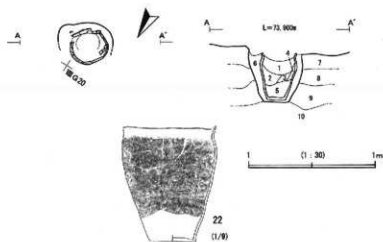
1 検出遺構

5号溝

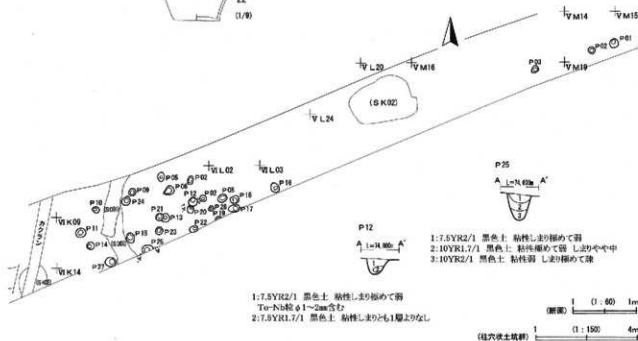


- 1:10YR1.7/1 黒色土 粘性弱 しまり硬
- 2:10YR2/1 黒色土 砂質 粘性中 しまり硬
- 3:10YR2/2 黒褐色土主体 黄褐色砂面(砂)層裏に入る 粘性弱 しまり硬
- 4:10YR5/6~10YR4/6 黄褐色~褐色砂(To-Cu)層主体 10YR3/4 暗褐色土混じり

埋設土器



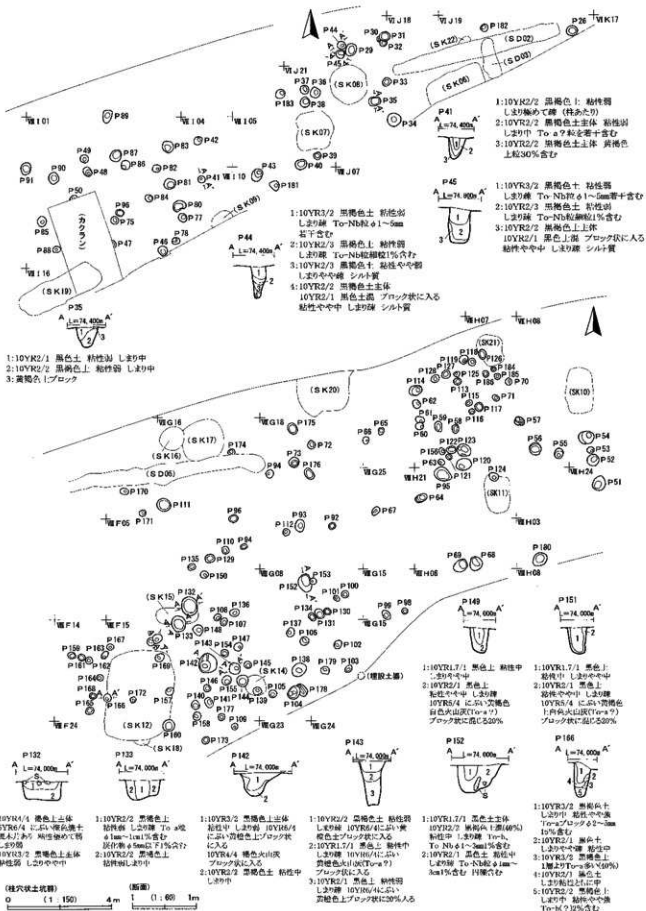
- 1:10YR1.7/1 黒色土 粘性弱 しまりやや中 黄褐色火山灰粒φ1~2mm%含む
- 2:10YR1.7/1 黒色土 粘性弱 しまり硬 To-Nb細粒1%未満含む
- 3:10YR1.7/1 黒色土 粘性やや中 しまりやや中 To-Nb細粒1%未満含む
- 4:10YR1.7/1 黒色土 粘性弱 しまりやや中 To-Nb細粒1mm以下1%未満含む
- 5:10YR1.7/1 黒色土 粘性弱 しまり硬 粘性しまりとも最も強い To-Nb細粒φ1~2mm 以下1%未満
- 6:10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまりやや中 To-Nb(To-Cu?)細粒%含む
- 7:黒褐色土 To-Cu5%
- 8:暗褐色土 To-Cu10%
- 9:褐色土 砂質
- 10:To-Cu純層(砂)



- 1:7.5YR2/1 黒色土 粘性しまり極めて弱 To-Nb粒φ1~2mm含む
- 2:7.5YR1.7/1 黒色土 粘性しまりとも1層よりなし

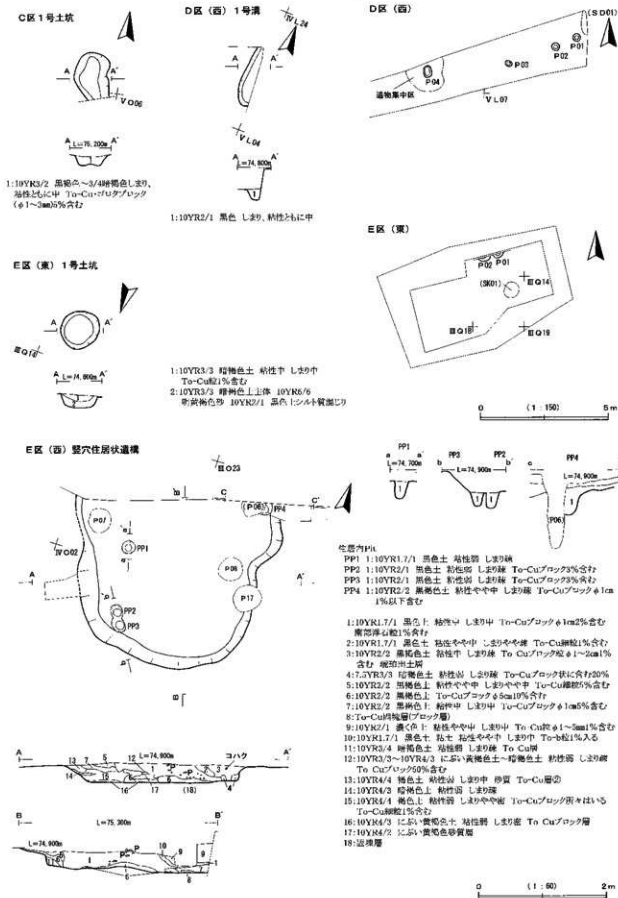


第13図 B区5号溝・埋設土器遺構・柱穴状土坑群①(東側)



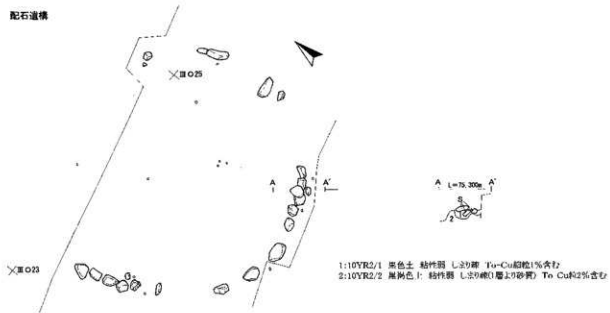
第14図 B区柱穴状土坑群②(中央・西側)

1 検出遺構

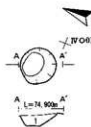


第15図 C区、D区(西)、E区(西)竪穴住居状遺構

## 配石遺構

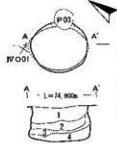


## 1号土坑



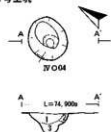
1:10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中  
しまり硬 To-Cu固塊(2~3cm)  
ブロック状に5%含む

## 2号土坑



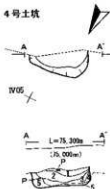
1:10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中  
しまり硬 To-Cu固塊(2~3cm)  
ブロック状に3%含む  
2:10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性弱  
しまり硬 To-Cu固塊ブロック状に5%入る  
3:To-Cu固塊ブロックφ3~5cm10%含む  
4:10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中  
しまりやや中 To-Cu固塊ブロック  
φ2~5cm3%含む

## 3号土坑



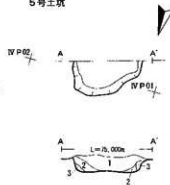
1:10YR1.7/1 黒色土 粘性弱 しまり硬  
To-Cu細粒1%含む  
2:10YR1.7/1 黒色土 粘性やや中  
しまり硬(層より砂) To-Cuブロック  
塊状に大る  
3:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり硬  
To-Cuブロックφ1~2cm1%含む

## 4号土坑



1:10YR2/1 黒色土 粘性中 しまり硬  
To-Cuブロックφ1~3cm1%含む  
To-Nb粒φ1cm1%含む  
2:10YR1.7/1 黒色土 粘性やや中  
しまりやや中 To-Cu細粒  
φ1~3mm1%含む To-Nb粒  
φ5mm%未満含む  
3:10YR1.7/1 黒色土 粘性弱 しまり硬  
To-Cuブロックφ1~3cm5%含む  
4:10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中  
しまり硬 To-Cu細粒1%含む  
5:10YR2/2 黒褐色土 砂質 粘性弱  
しまり硬 To-Cuブロック  
φ1~2cm1%含む

## 5号土坑

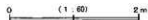
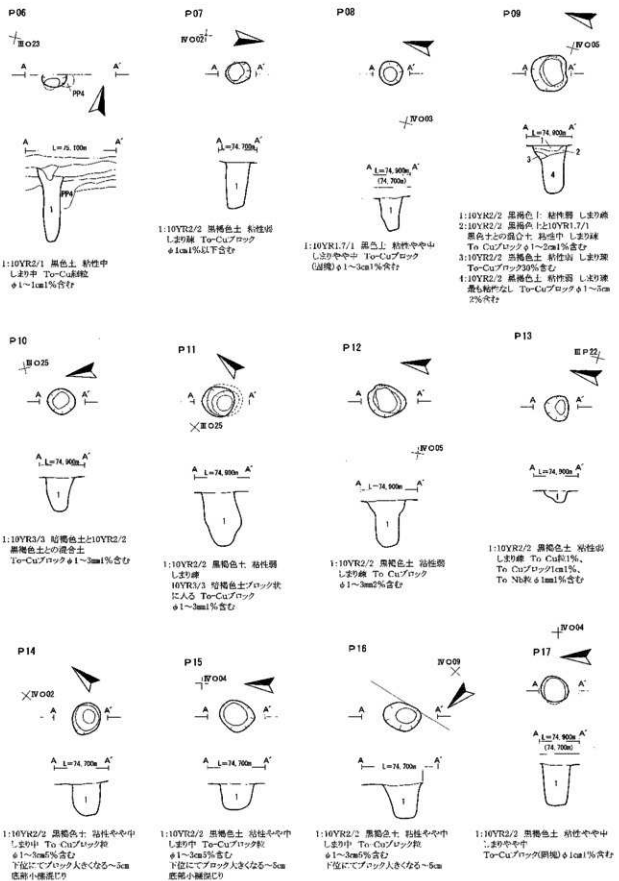


1:10YR2/1 黒色土 粘性中  
しまり硬 To-Cuブロック  
φ1~3cm1%含む  
2:10YR1.7/1 黒色土  
粘性やや中 しまりやや中  
To-Cu細粒φ1~3mm1%含む  
3:10YR2/2 黒褐色土 砂質  
粘性弱 しまり硬  
To-Cu細粒1%含む

0 (1:60) 2m

第16図 E区(西)配石遺構・1~5号土坑

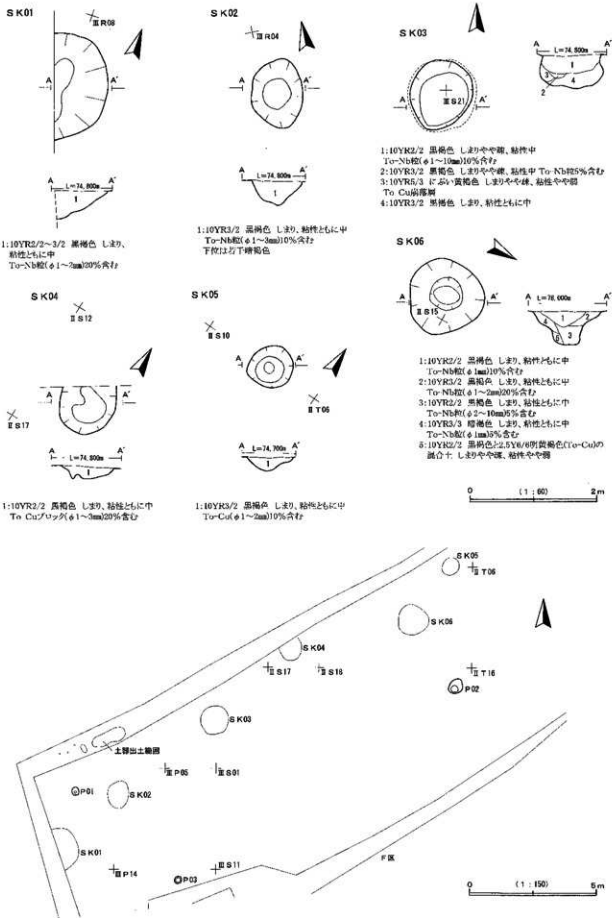
1 検出遺構



第17図 E区(西) P06~P17







第19図 F区1~6号土坑・柱穴状土坑

第2表 柱穴状土坑観察表

区	番号	地点	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	地層	地層	備考
1	X E 03	49	44	29	73.283	10層中		
2	X E 03	28	26	20	73.291	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-b3%含む
3	X E 23	25	20	21	73.292	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-b3%含む
4	X E 23	41	38	40	73.337	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cuに10%含む
5	X E 22	30	27	14	73.424	10層2/1	黒色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu、To-b(φ1~2mm)それぞれ5%含む
6	X E 22	16	39	31	73.231	10層2/2	黒褐色 しまり中、粘粒やや中	To-b3%含む
7	X E 21	27	26	7	73.479	10層2/1	黒色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu、To-b(φ1~2mm)それぞれ5%含む
8	X E 21	34	33	27	73.290	10層中		
9	X E 10	49	29	20	73.316	10層2/1	黒色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu、To-b(φ1~2mm)それぞれ5%含む
10	X E 18	23	21	17	73.249	10層2/2	黒褐色 しまりやや中、粘粒中	To-Cu含む
11	X D 19	45	40	38	73.184	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	堆土層に10%含む 遺物出土
12	X D 28	32	26	40	73.179	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-b5%含む
13	X D 19	65	58	42	73.037	10層中		(SR05を穿る?)
14	X D 19	20	22	28	73.188	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	
15	X D 19	35	32	22	73.268	10層3/1	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	糞粒点混入
16	X D 19	30	37	8	73.396	10層3/1	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	
17	X D 25	25	23	54	73.338	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	
18	X D 26	20	23	24	73.323	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu、To-bそれぞれ5%含む
19	X D 25	58	(30)	40	73.019	10層2/2	黒褐色 しまり中、粘粒やや中	にがい黄褐色土ブロック(堆土) 10%含む
20	X D 25	37	(26)	42	73.134	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-b10%含む
21	X D 25	37	(25)	8	73.489	10層2/1	黒色 しまり、粘粒ともに中	To-b10%含む
22	X D 05	28	22	9	73.486	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu(φ1mm)5%含む
23	X D 05	95	48	43	73.165	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-b(φ1~2mm)10%含む、やや粘粒あり
24	X D 05	80	57	64	72.921	10層中		To-bに知られる
25	X D 04	60	55	57	73.027	10層中		
26	X D 05	30	28	27	73.355	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-b3%含む
27	X D 10	38	36	36	73.202	10層中		To-bを含む
28	X E 01	49	44	42	73.134	10層2/2	黒褐色 しまり中、粘粒やや中	To-Cu(φ3~10mm)10%含む
29	X E 01	24	(17)	8	73.465	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu(φ1mm)5%含む
30	X F 01	44	40	36	73.183	10層中		To-bを含む
31	X F 01	41	32	30	73.333	10層2/2	黒褐色 しまり中、粘粒やや中	To-Cu(φ1mm)5%含む
32	X E 00	40	38	42	73.258	10層中		To-bを含む
33	X E 06	47	40	47	73.119	10層2/2	黒褐色 しまり中、粘性やや中	壁面付に炭粒質土ブロック含む
34	X D 15	38	45	12	73.629	10層2/2	黒褐色 しまり中、粘粒やや中	黒山積層アゾック型含む
35	X F 14	46	40	30	73.942		1: 10層2/2 黒褐色 しまりやや中、粘粒中 2: 10層1/6 にがい黄褐色 しまり中、粘粒やや中	To-Cuブロック含む 黒褐色土混入
36	X F 15	(32)	(50)	49	73.075	10層2/2	黒褐色 しまり中、粘粒やや中	にがい黄褐色土ブロック(堆土) 10%含む
37	X D 19	36	30	51	73.069	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu3%含む
38	X D 13	(32)	(30)	30	73.192	1: 10層2/1 黒色 しまり、粘粒ともに中 2: 10層2/2 黒褐色 (To-Cu)と10層2/1黒色の混合土	To-b10%含む しまり塊、粘粒 硬面層上	
39	X D 15	(39)	(21)	42	73.067	10層2/1 黒色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu(φ6mm)1: To-b(φ1~3mm)10%含む、やや粘粒あり	
40	X D 02	31	29	20	73.150	10層2/1	黒褐色 しまりやや中、粘粒中	黒山積層上(粘土層) 10%含む
41	X D 02	25	32	31	73.009	10層2/2	黒褐色 しまりやや中、粘粒中	黒山積層上(粘土層) 10%含む
42	X D 02	55	31	28	73.001	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	
43	X D 22	29	28	10	73.092	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cuブロック(φ3~10mm) 20%含む
44	X D 22	90	61	36	73.922	10層中		
45	X D 22	36	33	43	72.990	10層中		
46	X D 02	35	30	47	73.891	10層中		
47	X D 02	42	38	32	72.962	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu10%含む
48	X C 10	44	33	43	73.087	10層4/1	褐色 しまり、粘粒ともに中	To-b3%含む
49	X C 10	47	28	47	72.964	10層4/1	褐色 しまり、粘粒ともに中	To-b3%含む
50	X C 10	53	34	57	72.859	10層4/1	褐色 しまり、粘粒ともに中	To-b3%含む
51	X F 24	44	28	14	73.299	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu3%含む
52	X C 14	26	24	40	72.936	10層1/1	褐色 しまり、粘粒ともに中	To-b3%含む
53	X D 23	53	(26)	32	73.219	1: 10層3/2 黒褐色 しまり、粘粒ともに中 2: 2.5層6段褐色と10層2/2褐色の混合土	To-Cu5%含む しまり塊、粘粒 硬面層上	
54	X F 22	46	36	65	72.892	1: 10層3/2 黒褐色 しまり、粘粒ともに中 2: 10層2/2 黒褐色 しまり、粘粒ともに中 3: 2.5層7 黄褐色 しまりやや中、粘粒中	To-Cu10%含む To-Cu9%含む To-Cuの塊層で褐色土混入	
55	X D 22	26	26	18	73.997	10層3/1	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	糞粒点混入
56	X E 07	36	32	19	73.195	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cuブロック5%含む
57	X D 10	48	40	35	73.127	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu5%含む
58	X D 14	45	38	18	73.009	10層3/2	黒褐色 しまりやや中、粘粒中	To-Cuブロック含む
59	X F 22	37	33	35	72.828	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	
60	X C 16	61	60	62	72.927	10層3/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu(φ3~10mm) 20%含む
61	X D 01	58	41	63	72.819	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu5%含む
62	X C 10	30	(24)	37	73.032	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-b10%含む
63	X C 09	34	30	27	73.138	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu(φ1~5mm)20%含む、P10と壁層間・黒山積層Cカ
64	X D 15	48	42	37	73.174	1: 10層2/2 黒褐色 しまり、粘粒ともに中 2: 2.5層6段褐色と10層2/2褐色の混合土	To-Cu10%含む しまり中、粘粒やや中	黒褐色土ブロック状
65	X E 19	46	43	37	72.889	10層2/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu(ブロック) 2%、To-b5%含む
66	X C 08	35	30	41	72.811	10層3/2	しまり、粘粒ともに中	To-Cu(φ1mm)6%含む
67	X C 07	30	(28)	32	72.879	10層3/2	黒褐色 しまりやや中、粘粒中	To-Cu(φ) 2%含む
68	X C 07	28	26	30	72.848	10層3/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-b3%含む
69	X C 07	30	21	34	72.703	10層3/2	黒褐色 しまり、粘粒ともに中	To-Cu(ブロック) 5%含む
70	X C 12	48	42	68	72.393	10層3/2	黒褐色 しまりやや中、粘粒中	To-Cu(φ1mm)3%含む 層上壁に粘粒あり

## 1 横出遺構

K	番号	地層	層名	層厚	取付	調査年	遺構	土		
	71	X C12	33	32	26	72,945	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu (ブロック) 3%含む	
	72	X C12	30	28	45	72,906	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu (砂) 25%含む	
	73	X C17	42	(30)	26	72,822	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	下位にTo-Cu (φ5~10㎜) 5%含む	
	74	X C17 (6a)	30	42	62,658	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘粒やや強	To-Cu (砂) 10%含む	P74と重複 新田不明	
	75	XI C09	40	33	52	72,642	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu 5%含む	P75と重複 新田不明
	76	XI C09	28	26	31	72,941	10YR2/2 黒褐色	しまりやや強、粘粒中	To-Cu (ブロック) 15%含む	
	77	XI C05	29	25	36	72,912	10YR3/2 しまり、粘粒ともに中	To-Cu 3%含む		
	78	X C20	49	40	33	72,989	隠蔽中			
	79	X D21	41	34	37	72,950	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-b 3%含む	
	80	X D21	44	38	21	73,051	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu (砂) 10%含む	
	81	XI D91	40	31	46	72,649	1: 10YR2/2 黒褐色 2: 10YR3/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中 しまりやや強、粘粒中	To-Cu 5%、To-b 2%含む	
	82	X C14	33	28	31	72,902	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘粒やや強	To-Cu 5%含む	
	83	X C23	20	34	72,921	1: 10YR4/1 褐色 2: 10YR4/1 褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu (φ1㎜) 5%含む To-Cu (φ1㎜) 10%含む		
	84	X C09 (20)	(20)	40	72,662	10YR2/1 黒色	しまり、粘粒ともに中	To-b 3%含む	P146に併せられる	
	85	X C10	38	37	29	73,005	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu15%含む	
	86	X C15	38	37	33	72,978	隠蔽中			
	87	X C10	49	32	19	73,134	1: 10YR2/2 黒褐色 2: 10YR3/2 黒褐色と10YR5/2の1:1混合	しまり中、粘粒やや強 しまりやや強、粘粒中	To-Cu10%含む To-Cuの割合	
	88	X F06	63	41	35	72,996	10YR2/1 褐色	しまり、粘粒ともに中	To-b層の崩落	
	89	X C05	37	26	33	72,906	1: 10YR2/2 黒褐色 2: 10YR2/1 褐色	しまり、粘粒ともに中	To-b 3%含む	P145に併せられる
	90	X C05	37	31	27	73,013	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-b 3%含む	
	91	X C05	35	26	45	72,866	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cuブロック3%含む	
	92	X C05	34	30	40	72,827	10YR2/1 黒色	しまり、粘粒ともに中	To-b10%、上にTo-Cu3%含む	
	93	X C05	50	50	56	72,716	10YR2/2 黒褐色	しまりやや強、粘粒中	To-Cu (φ1~2㎜) 5%、赤土(φ1~2㎜) 2%含む	
	94	X D61 (60)	40	79	72,479	1: 10YR2/2 黒褐色 2: 10YR2/1 褐色	しまりやや強、粘粒中 しまり、粘粒ともに中	粘粒中 To-Cu (白色ブロック、φ3~10㎜) 2%含む	P61に併せられる	
	95	X F01	48	43	29	72,960	10YR2/1 褐色	しまり、粘粒ともに中		
	96	X C28 (27)	(18)	(31)	(72,954)	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中			
	97	X F01	28	26	15	73,132	10YR2/2 黒褐色	しまりやや強、粘粒中	To-b 3%含む 赤黒土	
	98	X D06	27	22	20	73,109	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中		
	99	X F05	22	17	12	73,150	10YR2/2 黒褐色	しまりやや強、粘粒中	To-Cu (φ1㎜) 5%含む	
	100	X C15	28	28	19	73,115	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中		
	101	X D07	28	23	21	73,163	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	炭褐色粒 (To-Cu?) 3%含む	
	102	X D07	27	21	28	73,164	10YR3/2 しまり、粘粒ともに中	To-Cu (φ1㎜) 5%含む		
	103	X D12 (24)	(26)	35	73,003	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu 5%含む		
	104	X D12 (35)	35	21	73,128	1: 10YR2/2 黒褐色 2: 10YR3/3 に近い黒褐色	しまり中、粘粒やや強 しまり、粘粒やや強	To-b層にTo-Cuが混入 To-Cuブロック5%含む		
A	106	X D18	41	36	20	73,135	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cuブロック10%含む	P10E2に併せられる
	108	X D18	25	20	21	73,164	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-bブロック10%含む	P10Eを併用
	107	X D18	46	46	35	73,089	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu、To-bそれぞれ5%含む 下位にTo-Cu多い	
	108	X D06 (45)	(50)	52	72,802	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cuブロック (φ3~10㎜) 10%含む		
	109	X D01	39	34	28	73,013	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-b10%含む	
	110	埋22	27	25	38	72,943	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu (砂) 1.5%含む	
	111	X D22	38	38	27	73,219	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘粒やや強	To-Cu (φ1㎜) 5%含む	
	112	X D18	49	46	34	73,102	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘粒やや強	To-b10%、To-Cu (φ2~3㎜) 5%含む	調査未出
	113	X D18	42	36	26	73,161	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘粒やや強	To-b10%、To-Cu (φ2~3㎜) 5%含む 調査未出	
	114	XI D19	38	32	16	73,157	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu (砂) φ1㎜ 10%含む	
	115	XI D05	43	37	40	73,144	10YR2/1 黒色	しまり中、粘粒やや強		
	116	XI E11	42	26	20	73,159	10YR2/2 しまり中、粘粒やや強	に近い黒褐色土ブロック (To-Cu φ2~3㎜) 5%含む		
	117	XI E11	31	29	19	73,171	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘粒やや強	上位にTo-Cuブロック5%含む	
	118	XI D06	25	25	18	73,201	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu (砂) φ1㎜ 5%含む	
	119	XI D02	39	37	23	73,158	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu (砂) φ1㎜ 5%含む	
	120	XI D21	43	34	19	73,044	10YR2/2 黒褐色	しまりやや強、粘粒中	To-Cu (φ1㎜) 5%含む	P64に併せられる
	121	X D22	45	(37)	23	73,113	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu、To-bそれぞれ5%含む	
	122	X D22	56	44	103	72,310	1: 10YR2/2 黒褐色 2: 10YR2/2黒褐色と2.5YR3/4黒褐色 (To-Cu)の混合	しまり、粘粒ともに中 しまりやや強、粘粒中	To-Cuブロック (φ2~5㎜) 10%含む To-Cu 5%含む	
	123	XI D22	81	60	18	73,106	10YR2/2黒褐色と2.5YR3/4黒褐色 (To-Cu)	しまりやや強、粘粒中	両者が互層に堆積	
	124	XI C05	57	45	31	72,829	10YR3/2 黒褐色	しまり中、粘粒やや強	To-Cu、To-b (φ1~2㎜) それぞれ5%含む	
	125	XI C05	54	39	21	72,899	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中		
	126	X C25	52	49	29	72,786	埋方なし			
	127	X C25	56	38	38	72,792	10YR3/2黒褐色と2.5YR3/4黒褐色 (To-Cu)の混合	しまりやや強、粘粒中		
	128	X C21	26	29	21	72,971	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cuブロック (φ3~10㎜)、To-b10%含む	
	129	X C19	53	33	25	72,863	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cuブロック (φ3~10㎜)、To-b10%含む	
	130	X C20	47	40	26	72,837	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cuブロック 5%含む	
	131	X C20	32	31	20	72,875	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘粒やや強	To-Cu (φ1~2㎜) 10%含む	
	132	X C20	50	45	26	72,806	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cuブロック (φ3~5㎜) 10%含む	
	133	X C20	46	37	23	72,881	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu (砂) 15%含む	
	134	X C07	48	47	23	72,948	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cuブロック (φ3~5㎜) 10%含む	
	135	X D12	46	36	28	73,930	10YR2/2 黒褐色	しまりやや強、粘粒中	To-b 5%含む	
	136	X D17	27	28	20	72,685	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cuブロック (φ1~2㎜) 10%含む	
	137	XI D23	33	22	73,096	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cuブロック (φ3~5㎜) 10%含む		
	138	XI D23	32	30	27	73,071	1: 10YR3/2黒褐色と2.5YR3/4黒褐色 (To-Cu)の混合 2: 10YR2/2 黒褐色	しまりやや強、粘粒中 しまり、粘粒ともに中	To-b 5%含む	
	139	XI D13	30	23	11	72,980	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-b10%含む	
	140	XI D22	37	31	21	72,921	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘粒ともに中	To-Cu (φ1㎜) 15%含む	

区	番号	地点	土層	土質	遺構	遺物	
A	141	IXD22	35	26	65	72, 565	1: 1093/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 To-Cuブロック (φ2~3mm) 5%含む 2: 1093/4 灰白色土質 しまり中、粘性中 To-Cu (φ1mm) 3%含む
	142	IXD22	31	31	24	72, 556	1: 1093/3 黒褐色 しまり、粘性ともに中 To-Cuブロック (φ2~3mm) 5%含む 2: 1093/4 灰白色土質 しまり中、粘性中 To-Cu (φ1mm) 3%含む
	143	IXD15	26	24	7	73, 124	1093/2 黒褐色 しまり中、粘性中弱 To-Cuブロック (白色、φ3~5mm) 3%含む
	144	IXD23	25	19	10	73, 331	1093/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 To-Cuブロック (φ2~3mm) 5%含む
	145	X-C05	85	55	29	72, 961	1093/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 To-Cuブロック 3%含む
	146	X-C09	48	40	41	72, 842	1093/2 黒色 しまり、粘性ともに中 To-Cuブロック 3%含む
	1	VMI14	36	33	40	74, 738	5192/1 黒色土 粘性弱 しまり極めて稀
	2	VMI14	27	25	16	74, 907	5192/1 黒色土 粘性弱 しまり極めて稀
	3	VMI18	31	24	33	74, 756	5192/1 黒色土主体 1093/1, 7/1 黒色土混じり (80%) シルト質 粘性弱 しまり極めて稀
	4	VI-L01	32	23	10	74, 520	5192/1 黒色土主体 To-粘粒φ1~3mm 1%未満、To-粘粒1%以下含 しまり粘性p1と同じ
	5	VI-L01	26	27	16	74, 493	5192/1 黒色土主体 To-粘粒φ1~3mm 1%未満、To-粘粒1%以下含 しまり粘性p1と同じ
	6	VI-L01	46	34	19	74, 419	5192/1 黒色土主体 To-粘粒φ1~3mm 1%未満、しまり粘性p1と同じ
	7	VI-L01	27	24	8	74, 576	5192/1 黒色土主体 To-粘粒φ1~3mm 1%未満含 しまり粘性p1と同じ
	8	VI-L02	39	32	30	74, 353	5192/1 黒色土 粘性中 p1と同じ
9	VI-K06	29	25	26	74, 234	粘粒なし	
10	VI-K04	29	24	31	74, 118	1093/2 黒褐色 しまり極めて稀 To-粘粒φ1~5mm 1%未満含	
11	VI-K09	37	36	33	74, 152	5192/1 黒色土 To-粘粒φ1~5mm 3%含 粘性しまり極めて稀	
12	VI-L01	37	36	30	74, 364	同級中	
13	VI-L06	24	27	36	74, 238	5192/1 黒色土主体 To-粘粒φ1~3mm 1%未満含 しまり粘性p1と同じ	
14	VI-K09	31	30	25	74, 274	5192/1 黒色土 To-粘粒φ1~3mm 3%未満含 粘性しまり極めて稀	
15	VI-K10	41	35	20	74, 371	5192/1 黒色土主体 To-粘粒φ1~3mm 1%未満、To-粘粒1%以下含 しまり粘性p1と同じ	
16	VI-L03	39	33	33	74, 536	5192/1 黒色土 シルト 粘性しまり極めて稀 p1と同じ	
17	VI-L02	43	29	26	74, 602	5192/1 黒色土 1093/1, 7/1 黒色土との混入中、p3と同じ	
18	VI-L02	36	28	27	74, 429	5192/1 黒色土 p1と同じ 高瀬中継山山崩が原因 増子単位より丸粒が出土	
19	VI-L02	30	(11)	18	74, 423	5192/1 黒色土 p1と同じ	
20	VI-L01	29	23	20	74, 433	5192/1 黒色土 1093/1, 7/1 黒色土との混入 p3と同じ To-粘粒φ1~5mm 3%未満含 p12と粘粒 p13の両方多い	
21	VI-L06	28	27	12	74, 460	5192/1 黒色土主体 To-粘粒φ1~3mm 1%未満含 p13に多い しまり粘性p1と同じ p5を要す	
22	VI-L06	35	25	23	74, 601	5192/1 黒色土 粘性弱 しまり極めて稀	
23	VI-L06	29	28	11	74, 496	5192/1 黒色土主体 To-粘粒φ1~3mm 1%未満含 しまり粘性p1と同じただしp12は同級 To-粘粒少ない	
24	VI-K03	38	30	38	74, 113	5192/1 黒色土主体 To-粘粒φ1~3mm 1%未満含 しまり粘性p1と同じ To-粘粒1%以下含 同級に属あり	
25	VI-K10	(40)	(23)	46	74, 240	同級中	
26	VI-K16	44	42	20	74, 304	1093/2 黒褐色土 粘性しまり極めて稀 To-粘粒φ1~3mm 1%未満含 小塊鉄片含む	
27	VI-L02	43	30	41	74, 297	5192/1 黒色土 To-粘粒1%未満含 ごく少量 粘粒しまり稀	
28	VI-L02	23	17	6	74, 600	1093/1 黒色土 1093/2 黒褐色土との混入中 To-粘粒φ5mm 1%未満含 粘性しまり極めて稀	
29	VI-L17	51	41	34	73, 936	5192/1 黒色土 粘性しまり極めて稀 To-粘粒φ1~5mm 1%未満含 1093/3 粘粒なしブロック状	
30	VI-L17	(15)	(13)	27	74, 033	1093/2 黒褐色土 粘性、しまり極めて稀 低圧To-粘粒φ1~5mm及びCa大1%含	
31	VI-L17	44	37	35	73, 997	1093/2 黒褐色土 粘性、しまり極めて稀 低圧To-粘粒φ1~5mm及びCa大1%含	
32	VI-L17	(28)	(25)	31	74, 018	1093/2 黒褐色土 粘性、しまり極めて稀 低圧To-粘粒φ1~5mm及びCa大1%含	
33	VI-L23	36	28	21	74, 164	1093/2 黒褐色土 粘性しまり極めて稀 To-粘粒φ1~5mm 1%以下含	
34	VI-L03	54	51	42	73, 986	1093/2 黒褐色土 粘性弱 しまり極めて稀 To-粘粒φ1~5mm 1%以下含	
35	VI-L22	46	34	36	74, 098	同級中	
36	VI-L21	43	40	33	73, 925	1093/2 黒褐色土 粘性しまり極めて稀 To-粘粒φ1~5mm 1%含	
37	VI-L21	38	33	27	73, 980	1093/2 黒褐色土 粘性しまり極めて稀 To-粘粒φ1~1cm 1%含	
38	VI-L21	44	39	30	73, 969	1093/2 黒褐色土 粘性しまり極めて稀 To-粘粒φ1~1cm 1%含	
39	VI-L01	30	28	31	73, 975	1093/2 黒褐色土 粘性しまり極めて稀 To-粘粒φ1~1cm 1%含	
40	VI-L01	45	38	21	74, 048	1093/2 黒褐色土 粘性しまり極めて稀 To-粘粒φ1~1cm 1%含	
41	VI-L09	30	26	33	73, 938	同級中	
42	VI-L04	31	30	33	73, 889	1093/2 黒褐色土 粘性弱 しまり稀	
43	VI-L10	50	40	39	73, 861	5192/1 黒色土 粘性弱 しまり極めて稀 大きな磁石を上位へ単位にかけ替す	
44	VI-L17	37	31	53	73, 690	同級中	
45	VI-L17	37	30	60	73, 683	同級中	
46	VI-L13	40	34	42	73, 721	1: 5192/1 黒色土 粘性弱 しまり稀 To-粘粒φ1~5mm 1%含 2: 5192/1 黒色土 1093/1, 7/1 黒色土との混入 粘性弱 しまり稀 To-粘粒1%以下含	
47	VI-L12	(31)	(13)	23	73, 874	5192/1 黒色土 粘性弱 しまり稀 To-粘粒φ1~3mm 2%含	
48	VI-L07	29	29	23	73, 961	1093/2 黒褐色土 粘性弱 しまり中	
49	VI-L02	29	29	20	73, 878	5192/1 黒色土 粘性中弱 しまり稀 To-粘粒φ1~5mm 1%以下含	
50	VI-L06	(32)	(14)	12	73, 838	5192/1 黒色土 粘性中弱 しまり稀 To-粘粒φ1~1cm 1%以下含	
51	VI-L24	16	46	49	73, 563	1093/2 黒褐色土 粘性中弱 しまり稀 To-粘粒φ1~1cm 2%含 1093/1 黒色土ブロック状に含	
52	VI-L119	44	44	40	73, 565	1093/2 黒褐色土 粘性中弱 しまり稀 To-粘粒φ1~1cm 2%含 1093/1 黒色土ブロック状に含	
53	VI-L119	30	25	26	73, 779	1093/2 黒褐色土 粘性中弱 しまり稀 To-粘粒φ1~1cm 2%含 1093/1 黒色土ブロック状に含	
54	VI-L119	19	52	60	73, 423	1093/2 黒褐色土 しまり中弱 粘性中 φ1cm~2cmの磁石φ(φ51~φ53と山崩同じ)	
55	VI-L18	30	20	29	73, 697	1093/2 黒褐色土 しまり中 粘性中 To-粘粒φ3~5mm 10%含	
56	VI-L18	53	60	40	74, 364	1093/2 黒褐色土 しまり中 粘性中 To-粘粒φ1~3mm 10%含 p5よりしまり稀	
57	VI-L18	39	39	43	73, 412	5192/2 黒褐色土 しまり中弱 粘性中 To-粘粒φ2~5mm 20%含 To-粘粒3%含	
58	VI-L16	32	23	30	73, 424	1093/3 暗褐色土 しまり中 粘性中弱 黄色砂子 (李漢火灰?) 6%含	
59	VI-L16	38	23	23	73, 461	5193/2 黒褐色土 しまり中 粘性中 To-b5%含	
60	VI-L16	31	26	48	73, 193	1093/2 暗褐色土 しまり中 粘性中 To-粘粒φ1mm 3%含	
61	VI-L16	37	25	56	73, 105	1093/2 暗褐色土 しまり中 粘性中 To-粘粒3%含 To-b5mm 3%含	
62	VI-L11	34	27	51	73, 130	5193/2 暗褐色土 しまり中 粘性中 灰色土山崩後? φ1mm 5%含	
63	VI-L16	26	22	30	73, 468	1093/2 暗褐色土 しまり中弱 粘性中 To-粘粒2%含	
64	VI-L21	48	30	43	73, 391	1093/2 暗褐色土 しまり中 粘性中 To-b5%含 To-Cu3%含	
65	VI-C20	28	23	17	73, 889	1: 1093/2 黒色土 しまり中弱 粘性中 To-粘粒1%含 2: 1093/1 黒色土 しまり中 粘性中 To-b層の崩壊層	

## 1 換出濃糖

区	番号	地点	採集年月日	採集時刻	採集高さ(m)	採集深度(m)	採集層	採集方法	採集器具	採集内容	採集量	採集状態	採集場所	採集者
66	VE1020	30	26	15	73.489	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘液中	腐敗物混じりなし				
67	VE1021	34	32	49	73.509	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性やや強	To-3粘り1~3mm 3%含む	上部に礫含む			
68	VE1010	57	45	47	73.464	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5%含む				
70	VE112	28	27	37	73.496	7.59K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	腐敗物混じりなし				
71	VE112	29	22	14	73.627	7.59K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	腐敗物混じりなし				
72	VE18	36	31	17	73.544	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-6粘り2~3mm 5%含む				
73	VE18	41	40	14	73.613	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性やや強	To-6粘りもしくはTo-3mm 10%含む				
74	VE129	33	30	39	73.383	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	腐敗物混じりなし				
75	VE112	30	28	33	73.757	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-6粘り3%含む				
76	VE1107	31	26	27	73.823	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-6粘り3%含む				
77	VE106	36	29	46	73.652	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	礫混じりにTo-a10%含む				
78	VE115	29	29	31	73.830	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	腐敗物混じりなし				
79														
80	VE108	35	30	03	73.668	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-a5% To-Cu7 白色ブロック10%含む				
81	VE108	47	43	44	73.826	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	灰褐色~白色火山灰1~3mm 20%含む				
82	VE103	36	30	46	73.594	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-a5% To-Cu7 白色ブロック10%含む				
83	VE103	49	45	47	73.576	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-6粘り1~2mm 礫付5%含む				
84	VE108	34	29	45	73.648	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-a15%以上に含む				
85	VE111	41	36	40	73.589	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 5%ほど礫状に入る				
86	VE102	37	33	45	73.630	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	黒褐色~白色火山灰1~3mm 20%含む				
87	VE102	50	40	31	73.763	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-b1~2mm 20%含む				
88	VE111	32	23	30	73.690	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 5%ほど礫状に入る				
89	VE122	50	33	32	73.690	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Cu6 1~3mm 10%含む				
90	VE106	44	40	33	73.673	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Cu6 2~5mm 5%含む				
91	VE106	50	39	28	73.644	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 5%ほど礫状に入る				
92	VE104	27	23	12	73.664	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-b5%含む				
93	VE103	46	36	21	73.677	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Cu7 ブロック3%含む				
94	VE102	27	21	25	73.562	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-6粘り1~2mm 礫付5%含む				
95	VE121	68	60	40	73.441	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-b1~2mm 10%含む				
96	VE102	38	34	19	73.496	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-6粘り5mm 1%含む				
97														
98	VE1010	24	23	26	73.689	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	上位To-3粘り1%含む 中位To-3粘り1%以下含む				
99	VE110	42	31	34	73.629	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1%以下含む				
100	VE109	28	25	36	73.664	7.59K1/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-6粘り1mm~1cm 1%含む				
101	VE109	26	19	18	73.756	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Cu6 1mm以下1%含む				
102	VE114	38	29	51	73.472	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	上位To-3粘り1%以下含む				
103	VE114	36	26	43	73.589	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	上位To-3粘り1%以下含む				
104	VE118	46	42	35	73.599	7.59K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 1%含む				
105	VE118	31	29	32	73.628	7.59K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 5%以下含む				
106	VE112	47	32	27	73.719	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 5%以下含む				
107	VE112	33	24	31	73.593	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 5%以下含む				
108	VE107	30	23	25	73.608	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 5%以下含む				
109	VE122	27	26	21	73.694	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 5%以下含む				
110	VE102	32	29	42	73.547	109K3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 5%以下含む				
111	VE121	52	32	25	73.409	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 5%以下含む				
112	VE103	26	28	15	73.673	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 5%以下含む				
113	VE111	32	27	39	73.154	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1%以下中位に含む				
114	VE115	53	41	41	73.630	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1%以下含む				
115	VE112	25	22	17	73.456	109K1/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1%以下含む				
116	VE112	23	22	22	73.450	109K1/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1%以下含む				
117	VE112	46	30	22	73.466	109K1/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1%以下含む				
118	VE107	39	24	19	73.407	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1%以下含む				
119	VE106	37	31	28	73.293	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1%以下含む				
120	VE116	60	45	34	73.479	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 1%含む				
121	VE116	25	20	8	73.702	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 1%含む				
122	VE116	39	30	16	73.636	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 1%以下含む				
123	VE116	61	41	26	73.518	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1mm~1cm 1%含む				
124	VE122	39	32	41	73.689	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り1~3mm 5%含む				
125	VE111	35	21	27	73.274	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%含む				
126	VE107	38	30	14	73.662	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む				
127	VE111	35	32	16	73.363	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む				
128	VE111	34	29	30	73.317	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む				
129	VE102	38	32	19	73.908	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む				
130	VE109	27	15	73.789	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む					
131	VE109	41	31	47	73.470	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む				
132	VE106	76	63	30	73.548	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む				
133	VE111	62	52	37	73.603	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む				
134	VE108	32	24	17	73.762	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む				
135	VE101	30	25	22	73.578	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む				
136	VE107	40	30	24	73.670	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む				
137	VE113	35	29	23	73.715	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む				
138	VE113	60	50	56	73.420	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む				
139	VE117	32	31	27	73.611	109K2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-3粘り5mm 1%未満含む				

区	番号	地点	基線(=)距離(m)	高さ(m)	遺跡(高)	遺		備考
						地	土	
B	130	遺F16	34	30	73.765	10791/7/1	黒色土 粘り中	しまり層 10791/4 に近い黄褐色土(To-a*) ブロック状に入る
	141	遺F16	43	26	73.831	10792/2	黒褐色土 粘り弱	しまり層 10791/4 に近い黄褐色土ブロック状に入る
	142	遺G11	77	40	73.584		同層中	
	143	遺G12	48	47	82	73.146	同層中	
	144	遺G17	45	44	71.752	10792/1	黒色土 粘りやや中	しまり中 白色火山灰状、黄褐色火山灰 $\phi$ 1mm-1cm1%含む
	145	遺G12	32	27	73.892	10792/2	黒褐色土 粘り弱	しまり中 白色火山灰状 $\phi$ 1-5mm1%含む
	146	遺F16	28	26	74.837	10792/2	黒褐色土 粘り弱	しまり中 白色火山灰状 $\phi$ 1-5mm1%含む
	147	遺F12	38	30	73.681	10792/1	黒色土 粘り中	しまり中 白色火山灰状 $\phi$ 1-5mm5%含む
	148	遺G11	39	38	73.606	10791/7/1	黒色土 粘りやや弱	しまり層中 しまり中
	149	遺F15	40	36	47	73.418	同層中	
B	150	遺G10	34	29	73.340	10792/1	黒色土 粘り弱	しまり層
	151	遺F15	31	(25)	45	73.428	同層中	
	152	遺G08	72	46	47	73.539	同層中	
	153	遺G03	27	26	26	73.630	10793/2	黒褐色土 しまり中、粘りやや強 To-b3%含む
	154	遺G12	30	28	21	73.704	10794/2	灰褐色土 しまりやや強、粘り中 To-b・Cu ( $\phi$ 1mm) 10%含む
	155	遺G17	41	36	39	73.581	10793/2	黒褐色土 しまり中、粘りやや強 To-Cu ( $\phi$ 3-10mm) 15%含む
	156	遺H16	30	23	24	73.826	10793/2	黒褐色土 しまりやや強、粘り中 礫(八戸字、 $\phi$ 5mm) 数点含む
	157	遺F16	33	28	46	73.321	10793/2	黒褐色土 しまり、粘りとともに To-b10%含む
	158	遺G16	34	31	44	73.498	10792/2	黒褐色土 しまりやや強、粘り中 To-Cu ( $\phi$ 1-3mm) 10%含む
	159	遺F14	29	27	36	73.586	10792/2	黒褐色土 しまりやや強、粘り中 To-Cu ( $\phi$ 1-3mm) 10%含む
B	160	遺G21	48	46	26	73.653	10793/2	黒褐色土 しまり、粘りとともに To-aフタツク10%含む
	161	遺F14	32	27	17	73.689	10792/1	黒色土 粘り弱 しまり層 To-b21%以下含む
	162	遺F14	30	29	51	73.349	10792/1	黒色土 粘り、しまり層 To-b21%以下含む To-a(?) ブロック状に10%含む
	163	遺F14	34	21	38	73.478	10792/2	黒褐色土 粘り弱 しまり層 To-b21%以下含む
	164	遺F19	27	26	36	73.532	10792/2	黒褐色土 しまり、粘りとともに To-b20%含む
	165	遺F19	34	32	46	73.466	10792/2	黒褐色土 粘り、しまり層 To-aブロック状に入る(10%) To-b3%程度 $\phi$ 1-3mm1%含む
	166	遺F20	32	30	54	73.402	同層中	
	167	遺F15	32	25	72	73.635	10792/1	黒色 しまりやや強、粘り中
	168	遺F19	30	32	17	73.749	10793/3	黒褐色土 しまりやや強、粘りやや弱 礫(八戸字、To-aそれぞれ20%含む)
	169	遺G11	38	32	40	73.468	10792/2	黒褐色土 粘り弱 しまり層 To-aブロック状に入る(10%) To-b3%程度 $\phi$ 1-3mm1%含む
D	170	遺F25	32	25	28	73.223	10793/2	黒褐色土 しまりやや強、粘り中 To-Cu5%含む
	171	遺F25	23	23	15	73.262	10792/2	黒褐色土 しまりやや強、粘り中 To-Cu5%含む
	172	遺F20	23	21	22	73.300	10792/2	黒褐色土 しまり、粘りともに To-Cu2%含む
	173	遺G11	30	27	9	73.373	10792/2	黒褐色土 しまりやや強、粘り中 To-b・Cu ( $\phi$ 1-2mm) 5%含む
	174	遺G17	30	25	23	73.241	10792/2	黒褐色土 しまり、粘りとともに To-b・Cu ( $\phi$ 1-3mm) 5%含む
	175	遺G18	46	35	22	73.281	10793/2	黒褐色土 しまりやや強、粘り中 To-Cu5%含む
	176	遺G23	47	33	14	73.354	10792/1	黒色 しまり、粘りともに To-b5%、To-Cu2%含む
	177	遺G17	30	26	17	73.304	10792/1	黒色 しまり、粘りともに To-b ( $\phi$ 1-4mm) 10%含む
	178	遺G18	56	36	17	73.310	10792/2	黒褐色土 しまり、粘りともに To-Cu2%含む
	179	遺G19	35	38	19	73.260	10792/1	黒色 しまり、粘りともに To-b ( $\phi$ 1-4mm) 10%含む
D	180	遺H03	61	49	11	73.329		
	181	遺K21	40	32	19	73.253	10793/2	黒褐色土 しまりやや強、粘り中 To-Cu ( $\phi$ 1mm) 2%含む
	182	遺J19	31	30	28	73.153	10792/2	黒褐色土 しまり、粘りともに To-Cu ( $\phi$ 1-2mm) 10%含む
	183	遺J21	36	36	30	73.280	10792/1	黒色 しまり、粘りともに To-b5%含む
	184	遺H12	21	18	13	73.176	10792/1	黒色 しまりやや強、粘りやや弱 To-Cu2%含む
	185	遺H12	26	23	13	73.183	10792/2	黒褐色土 しまり、粘りともに
	186	遺H12	28	26	15	73.181	10793/2	黒褐色土 しまり、粘りともに To-Cu5%含む
	1	V L23	31	30	27	74.198	10792/2	黒褐色土 しまり、粘りともに
	2	V L03	33	30	19	74.218	10792/1	黒色 しまり、粘りともに To-Cu ( $\phi$ 1-2mm) 10%含む
	3	V L02	26	23	12	74.115	10792/1	黒色 しまり、粘りともに To-Cu ( $\phi$ 1-2mm) 10%含む
4	V K05	43	20	11	73.934	10792/1	黒色 しまり、粘りともに To-Cu ( $\phi$ 1-2mm) 10%含む	
E	1	遺Q05 (143)	(20)	22	74.122	10793/3	黒褐色土 粘り強 しまり中 To-Cu2%含む To-Cu塊層ブロック状に若干含む	
	2	遺Q05 (149)	(18)	24	74.101	10793/3	黒褐色土 粘り強 しまり中 To-Cu2%含む To-Cu塊層ブロック状に若干含む	
	1	V O01	27	25	36	74.429	10792/2	黒褐色土 粘り強 しまり層 To-Cuブロック5%含む
	2	V O01	27	(22)	38	74.402	10792/2	黒褐色土 粘り強 しまり層 To-Cuブロック層状に含む
	3	V O01	31	36	47	74.236	10792/2	黒褐色土 粘り強 しまり層 To-Cuブロック2%含む
	4	V N05	23	22	40	74.244	10792/2	黒褐色土 粘りやや中 しまり層 To-Cuブロック2%含む 底面1-2cmあり
E	5	V N05	37	34	87	72.893	10792/2	黒褐色土 粘りやや中 しまり層 To-Cuブロック $\phi$ 3cm2%含む
	6	遺O23 (37)	(18)	82	73.659	同層中		
	7	遺O22	37	33	74	73.785	同層中	
	8	遺O22	37	37	52	74.424	同層中	
	9	遺O24	35	53	77	74.009	同層中	
	10	遺O24	45	40	85	74.163	同層中	
	11	遺O25	50	48	85	73.830	同層中	
	12	遺O25	60	51	75	73.991	同層中	
	13	遺P16	38	37	20	74.482	同層中	
	14	遺O02	62	44	51	73.960	同層中	
F	15	遺O03	50	43	41	71.033	同層中	
	16	遺O04	58	(14)	38	73.877	同層中	
	17	遺O23	43	43	84	73.886	同層中	
	1	遺S05	33	27	25	74.633	10792/1	黒色 しまりやや強、粘り中 To-Cu ( $\phi$ 3mm) 5%含む
F	2	遺S30	53	32	23	74.542	10792/1	黒褐色土 しまり、粘りともに 礫(八戸字) ( $\phi$ 1-5mm) 10%含む
	3	遺R15	28	25	28	74.457	10792/1	黒色 しまり中、粘りやや強 礫(八戸字) ( $\phi$ 2-4mm) 10%含む

## 2 出土遺物

本調査区の出土土器は中コンテナで4箱、縄文時代の遺物が最も多く、次いで土師器、近世陶磁器の順となる。縄文土器は後期前葉のものがほとんどで、埋設土器を除いて破片での出土である。唯・F区でまとまりをもって出土した以外は小破片で復元もほとんどできなかった。また、縄文土器の中でも特に粗製のものは一見土師器の様相を呈しており、かつ大変もろくなっており判別しがたいものもあった。

	A区	B区	C区	D区(西)	D区(東)	E区(西)	E区(東)	F区	計
縄文土器	1165.1	486.4	1550.8	2227.2	39.7	2520.0	493.1	3139.8	11622.1
土師器	108.2	29.9	197.7	81.9	0	122.9	36.0	155.9	732.5

## (1) 縄文土器 (第20～25図、写真図版23～26)

\*単位……g

縄文土器の器種としては深鉢がほとんどで、注口土器と思われるものが1点ある。胴部破片で深鉢としたものの中には浅鉢の可能性もぬぐえないが、断定できないものは深鉢とした。分類は最も出土量の多い深鉢の外反する器形(Ⅱ群)を中心として文様ごとに分けた。各分類の説明はⅡ群にて述べる。なお、小破片のため器形の不明なものは、文様のみから分類し観察表に示してある。

Ⅱ群 深鉢で頸部にややや凹み、口縁部にかけて外反する器形のもの。平縁口縁と波状口縁のものがある。本調査区では、波状口縁のものが最も多く出土している。文様からA～E類に分けた。

A類-隆帯+磨消縄文……口縁部付近に隆帯が巡り、磨消縄文が施されるものである。破片全て接合復元できなかったが、ほぼ全体の様子がわかるもので125がある。4個体の波状口縁で、2本の隆帯が口縁部をめぐる。波状部下に掌状の垂下隆帯があり、2条の平行沈線がセットとなっている。胴部中央まで磨消縄文がなされ、底部にかけてはヨコナゲ調整が施される。133・134も同類である。

B類-磨消縄文……A類とは違い、磨消縄文が主となっているものである。129・130・132と2条の平行沈線がセットとなる。

C類-隆帯……磨消縄文がなく隆帯のみのものである。やはり波状口縁のものが多く、口縁部の起伏に合わせて隆帯が巡る。波頂部において、渦巻き状、曲線、逆U字形などが作られる。

D類-沈線……沈線が主たる施文のもの。曲線や多条の平行沈線があり、波状口縁と平縁口縁のものがある。119は波頂部表側に突起部があり、内側にも同時に貼り付けられ、厚みを増した波頂部はC類と同様押圧痕がある。

E類-地紋のみ……隆帯や沈線がなく地紋のみが施されるもので、a単節縄文・b撚糸文(網目状撚糸文は②)・c条線文などに分かれる。今回の調査区からはどの区(A区～F区)からも既述の埋設土器である22に代表されるようなb②網目状撚糸文の破片が多く出ている。破片数が多いわりに接合復元して同個体と判断できたものは少ない。68・69は同一個体と考えられる。口縁部においても横位に網目状撚糸文が施文されている。

I群 深鉢で、口縁部にかけて直立した状態で立ち上がる器形のもの。

I群では、Ⅱ群に見られるA類～D類のような地紋以外の文様は確認できなかった。

E類-地紋のみ……Ⅱ群同様、a～cに分かれる。IEA類の70は、摩耗が著しく原体がはっきりし



ない。121は、他の土器と若干胎土が違い、繊維を多少含む。複節縄文が施されている。この土器と類似した胎土の土器、文様の持つ土器はない。I E b 類の128は、II唇部はナデ調整され、ほぼ口縁部へ胸部2/3まで施文、約2cmごとに結束文が見られる。I E c 類での条線文は線の太さ、細かさ、深さなどさまざまなパターンがある。2本セットのような描かれ方をされた条線文もある。

F・G類—その他……136は、口縁部を沈線によって区画し、無文帯を作っている。同様のタイプは確認できていない。小破片資料だが、105は曲線の沈線が回り、間に刺突が施される。136同様、刺突が施されるタイプの土器は同資料以外出土していない。135は条線文ではあるが、格子状に施文される。

大半は深鉢であるが、他に台付鉢(67・122)、壺(29・38・41・65・79・86・98・104・108・115)、注口土器(131)と思われる破片が出土している。67と122は台付鉢の台部のみ資料である。どちらも3箇所(122は推測)の凹みがあり、それをめぐるように平行沈線が施される。67の底面には十字に刻みのようなものがある。状態を見ると木炭痕などの残存には見られない。青森県の木戸口遺跡からは、台付ではないが、底面に二重丸に十字が描かれた小鉢が出土しており、第Ⅲ群(縄文時代後期十腰内I式)に分類している。青森県の小牧野遺跡では、第Ⅲ群の4～5類の中に凹みを持ち沈線を巡らしている台付鉢が出土している。104は小壺であるが、朱塗りの可能性がある。既述した29と同様98も口唇部に鋸歯状圧痕文があり、蓋付壺の可能性が高い。いずれも細い沈線にて陰帯を際立たせている。吊下部分となるような穿孔箇所はない。縄文時代中期木葉から後期前葉にかけて見られるもので、大口向遺跡からも11点出土している。131はやはり破片資料であるが、小礫が多く入るなど胎土や焼きの状態が他と若干違う。後期後半と見られる。

今回出土した土器は、前十腰内式と呼ばれるものと十腰内Iの範疇に収まるものがほぼ同じ検出面で出土している。縦位に区画されたものはないが、出土遺物の大半が破片であり、全くないとは言えない。全体的に網目状摺糸文が施文されているものが多い一方で、縦位に施文された条線文も割合多く出土している。また横位に展開する磨消縄文に胸部中央から胸部下半まで網目状摺糸文が施文されているものもある。細分されつつある後期前葉の編年に則して分類すべきではあるが、破片資料が多く、分類には至らなかった。

## (2) 土師器(第20・21・29図、写真図版29)

土師器の出土量は、土器全体の約6%に過ぎない。そのような中で、A区の西部から出土した165は唯一図にすることができた遺物である。IV層上面での出土で遺構には伴っていない。外面はナデの後、全体的にミガキ調整が行なわれている。内面は全面にミガキが施され、黒色処理されているが、一部処理のあまいところもある。胎土は海綿状骨針が多く含まれ、小礫も含む。焼成の状態は良である。口縁部は丸縁で、体部から自然に内湾ぎみに立ち上がる。残存部分の一部においては体部下半部に段があるように見受けられるが、周囲全てに段が巡るわけではなく強いナデ痕と見られる。底部はナデーミガキの丸底である。口径、器高から8世紀と思われるが、段がないことから後半まで下るものではないかと思われる。181は内面がミガキをかけられ黒色処理された底部資料で、器形から鉢と考えられる。

土師器ではないが、同時期と思われる土器として217がある。小砂粒を胎土に含み、内面はミガキ外面もミガキ+黒色であり、一部沈線がある。岩手県の遺跡では奈良の時代の遺跡から、土師器とともに鋸歯状や連丸状の文線が認められる土器がしばしば出土している。これらは北大式土器に関連するものとして考えられている。木造跡も同時期の土師器が出土しており、この土器も小破片ではあるが、北大式土器に関連する遺物の可能性もあり掲載することとした。

## (3) 石器 (第20~22・26~29図、写真図版26~28)

石器は、中コンテナで2箱出土しているが、礫石器が多いため、点数としては多くない。掲載したものは34点である。うち2点は配石の参考資料として写真掲載をしている。

遺構内出土は9点で、12号土坑から出土した磨石は被熱している。同様に21号土坑から出土した18~20も被熱している。18・19ともに磨石だが、特に19は13と形状を等しくし、大変小さい。遺構外からの出土で154・161も同様である。全面に作業面が見られ、道具としての磨石であったか不明である。20は被熱によってもろくなり欠損している。21・25は礫器である。縄文早期に見られる石器だが、どちらもB区からの出土であり、昨年度調査区では早期土器片も見つかっていることから紛れ込んだ可能性もある。54は竪穴住居状遺構内から出土した石鏃である。石鏃は今回の調査では1点のみの出土である。

台石としたもので、141は1/2 (推定) 程度欠損しているが両面ともかなりの被熱を受けている。やや平坦であり、へこみ等は見られない。147は片面からのみ穿孔加工されている。本来はもっと大きいもので中央に穿孔部分があったのかもしれない。砂岩で大変もろく、時期も用途もまったく不明である。

磨石・凹石は全体の約1/3である。これらの石器は作業面として磨り部分と凹み部分が混在しているが、145については、凹みのみで作業面が極めて限定され、使用痕が深い。

今回の石器出土は、全体の印象として土器量に比べて少なく、また剥片石器が特に少ない感がある。また、加工面については加工作業が少ないまま使用され、使用のための欠損・摩擦が少ないことなども特徴である。使用頻度が少なかったのかもしれない。ただし縄文時代遺構の検出された範囲に限られていることも一因として考えられる。

## (4) 上製品・石製品・琥珀 (第22・26・29図、写真図版26・28)

土製品は6点出土している。5点は土器片円板、1点は土偶である。円板は1点を除き、縄文土器胴部破片で3~4cmほどの大きさを有する。土器破片として掲載した中に上製品に極めて近いものもあるが、単なる破片である可能性も否めず、今回は側面に一部でも研磨が見られるものを土製品とした。137の土偶は、長さ2.15cm、幅2.4cmの大変小さいものである。頭部を欠いているが、首が前に突き出ている様子がわかる。左胸の一部を欠いているが、右腕同様、肩から胴部脇に向かって穿孔されている。脚部は欠損している。胸や腹部の表現はないが、前後部ともナデ調整をして丁寧に作られている。青森県の小牧野遺跡などからは似たような土偶が出土している。大きさは当該遺物よりも若干大きい。前傾姿勢をとり、腕を簡略化し両肩から各脇に穿孔する、腹部をくぼませるなど大変類似している。出土している土器類と同じ縄文時代後期前葉に見られる土偶である。

石製品は岩版と見られるもの2点が出土している。どちらも凝灰岩製で加工しやすいものを選び、表裏両面を平滑的に研磨し側縁も合わせて研磨されている。164は三角形をなし、2条の沈線が縁辺に刻み込まれている。前述の小牧野遺跡でも900点を超える石製品が出土しており、三角形岩版と円形岩版がそれぞれ4割を占める。この時期には多く出土するものようである。57は竪穴住居状遺構から、164はF区の最も土器集中区から見つかっており、同様に縄文時代後期前葉と考えられる。

琥珀については、分析の結果久慈およびいわき産の可能性があることがわかった。本遺跡は久慈に比較的近く地理的観点から、久慈産の可能性が高いと考えられる。同地区の人々との交流があったことを示す資料である。

## (5) 近世陶磁器・古銭・その他(第20・30図・写真図版29・30)

54点出土している。そのうち近世のものとして判断した29点を掲載した。どの区からも出土しているが、A区とB区が最も多い。肥前産が4割強を占めるが、在地産と思われる不明のものも多い。

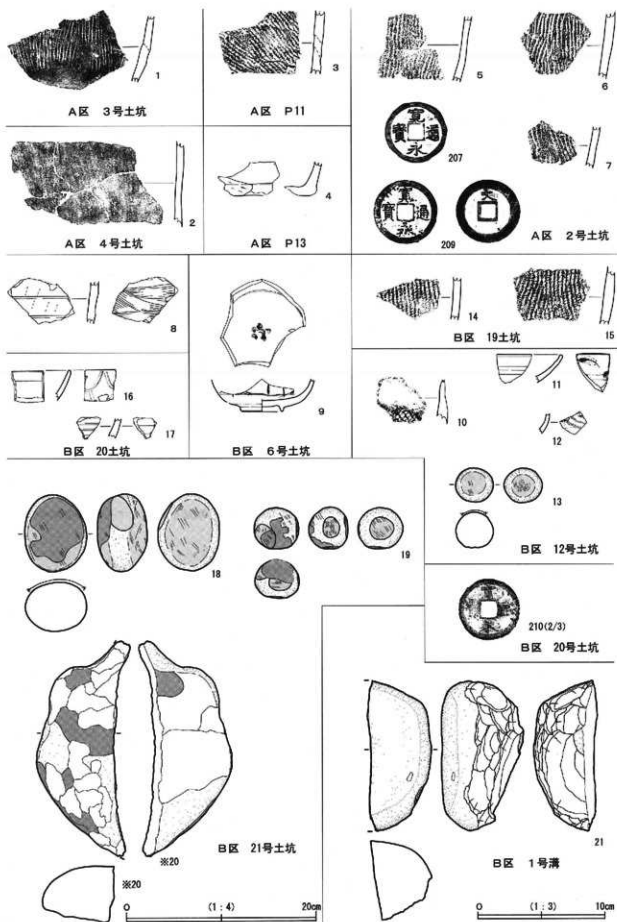
古銭は全部で8点出土している。近世陶磁器と同様にA区とB区が多い。8点のうち2点は鉄銭でサビが大変進んでいる。文字が読み取れる銅銭6点はいずれも「寛永通宝」である。そのうち、207と211は古寛永である。210は摩耗が激しく、他のものより判断しづらいが1726(享保11)年初鑄の新寛永ではないかと思われる。

213は泥面子である。泥面子は江戸時代の玩具とされ、畑から見つかることが多い。碁石形や人形形や丸形のものがあり、人形形では七福神や魚などが描かれ、丸形では家紋や文字など様々な絵柄があるようである。本遺物は丸形で、模様は何を模ったものかはっきりしない。1点のみの出土である。

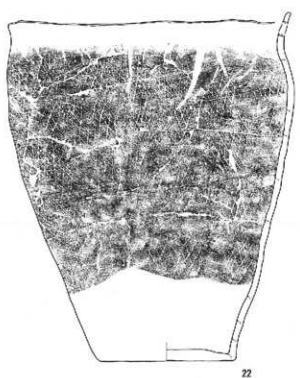
B区東側からは、友酒瓶(206)が出土した。参考資料として写真のみの掲載とした。緑ガラスで器高は24.4cm、瓶下部には「商標 日本麦酒醸果株式会社 登録」と銘がある。「日本麦酒醸果株式会社」は、前身の「加富登麦酒公社」から1922年に改称(ユニオンビール販売)、1933年には「大日本麦酒会社」と合併し、「日本麦酒醸果株式会社」の名はなくなるようである。1922~33年のごく短い期間にのみ製造されたビールのようである。その他、今回は掲載しなかったが、B区からは鉄釘(丸釘)やインク瓶などのガラス製品などもあり、同じような時期のものと考えられる。

## 参考文献

- 葛西 励 1979 「十腰内I式土器の編年的細分。北奥古代文化第11号 北奥古代文化研究会
- 中村良幸 1986 「岩手県の配石遺構」北奥古代文化第17号 北奥古代文化研究会
- 宇部剛保 1989 北海道考古学 第25輯「青森県における7・8世紀の上層器一湖沼流域を中心として」北海道考古学会
- 青森県教育委員会 1983 青森県埋蔵文化財調査報告書第84集「墓内遺跡」
- 青森県教育委員会 1985 青森県埋蔵文化財調査報告書第101集「(附)2)遺跡」
- 青森県教育委員会 2005 青森県埋蔵文化財調査報告書第85集「小牧野遺跡」発掘調査報告書IX
- 青森県宇賀町教育委員会 1983 平賀町埋蔵文化財報告書第12集「木戸I遺跡」
- 青森県三戸郡倉石村教育委員会 1996 青森県三戸郡倉石村埋蔵文化財調査報告書第1集「墓前前遺跡」
- 兵庫県埋蔵文化財調査会 1996 「日本出土銭総覧」
- 瀬戸市史編纂委員会 1998 愛知瀬戸市史「瀬戸市史陶磁史篇六」
- 欠部倉吉 2004 「改訂新版 古銭と貨幣」金閣社
- 集落遺跡検討会 2004 集落遺跡検討会「岩手県上層器集成」(4~8世紀)
- 土偶研究会 2007 第4回 土偶研究会発表資料
- 函館市総務部市史編さん室 1980 「函館市史」通説編第1巻
- 函館市総務部市史編さん室 1990 「函館市史」通説編第2巻
- (財)岩埋文 1988 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第121集「大久保遺跡発掘調査報告書」
- (財)岩埋文 1999 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第303集「横間II遺跡・谷地田I遺跡・有欠野遺跡発掘調査報告書」
- (財)岩埋文 2000 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第317集「川岸場II遺跡発掘調査報告書」
- (財)岩埋文 2000 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第323集「下村遺跡発掘調査報告書」
- (財)岩埋文 2006 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第400集「平成17年度発掘調査報告書 2006」



第20图 遺構内出土遺物①



22

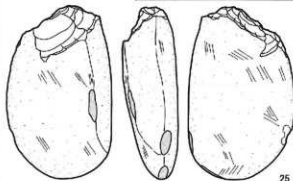
B区 環股土器遺構



B区 5号溝 23



B区 P113 24



25



B区 P110



B区 P158



B区 P167



28



29



30

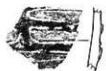


31



32

E区 配石遺構



33



34



35



36



37



38



39

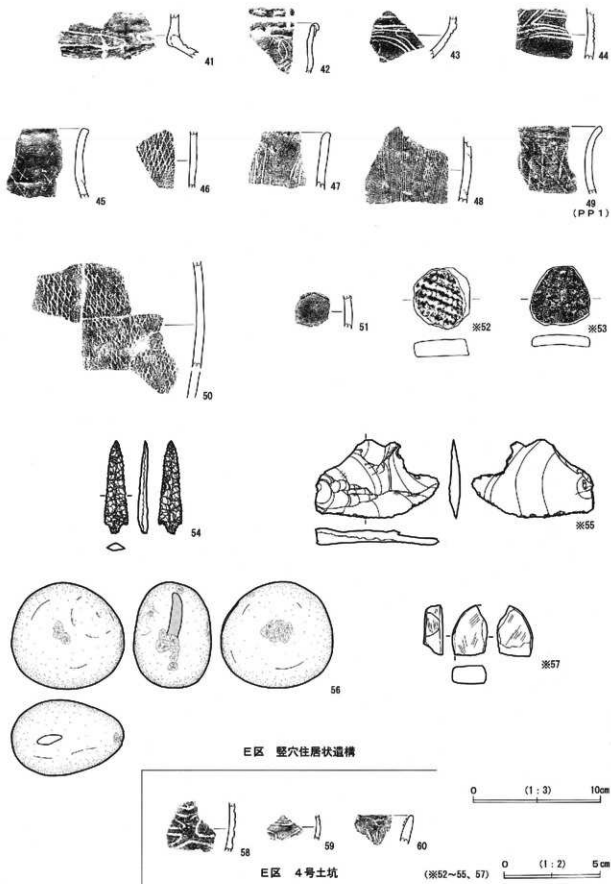


40

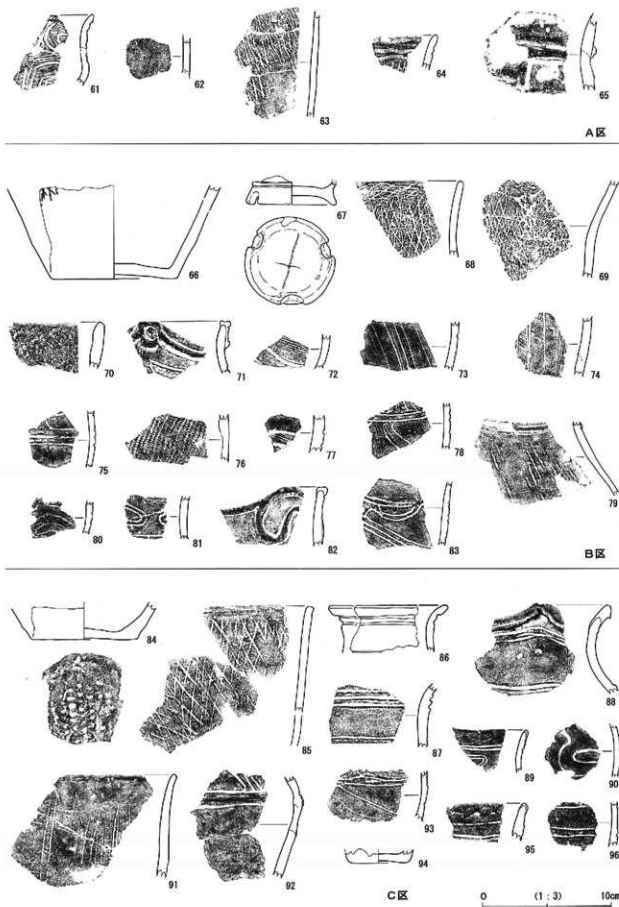
E区 竪穴住居状遺構

※22 0 (1:4) 10cm

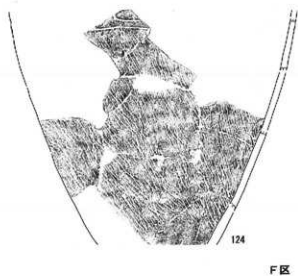
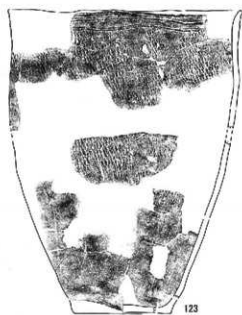
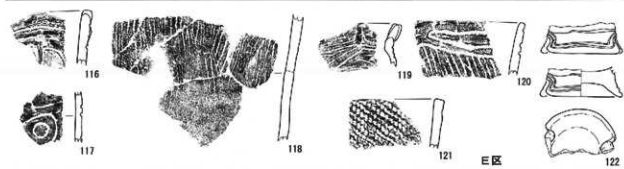
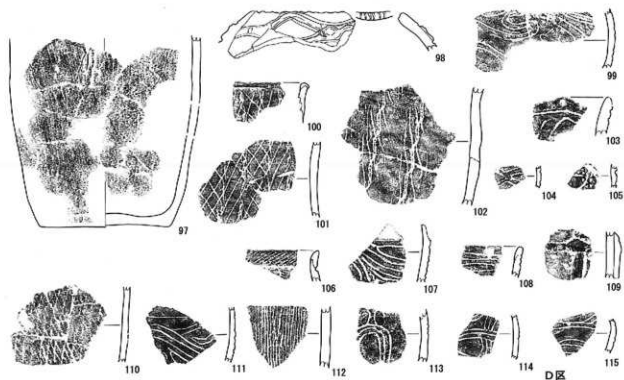
0 (1:3) 10cm



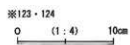
第22図 遺構内出土遺物③



第23図 遺構外出土遺物①

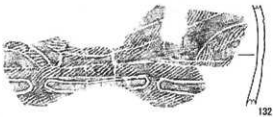
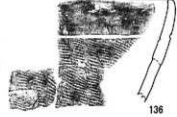
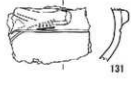
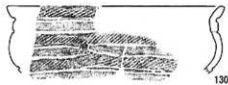
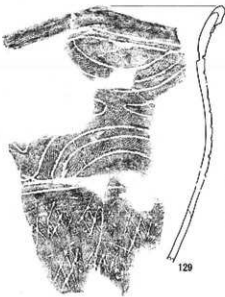
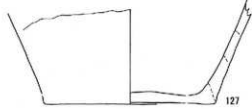
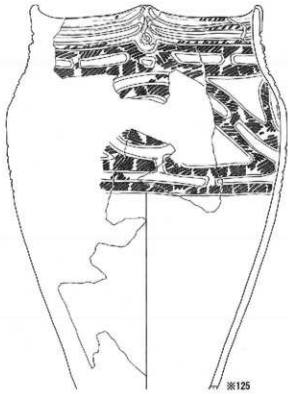


F区



第24図 遺構外出土遺物②

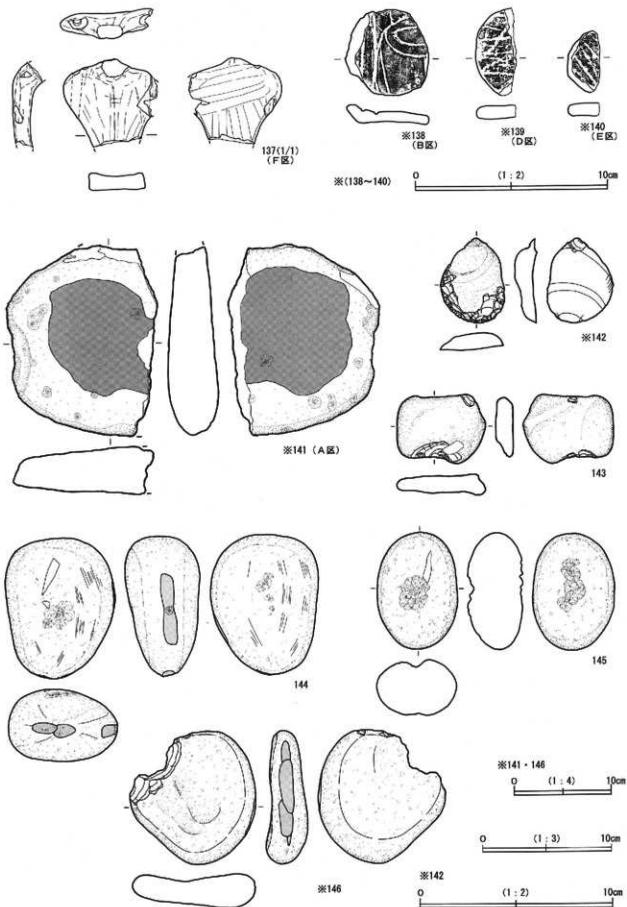




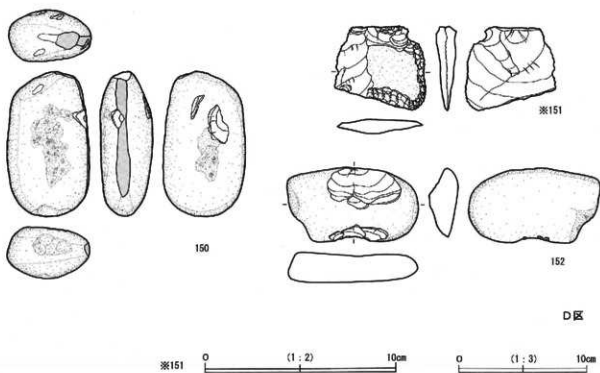
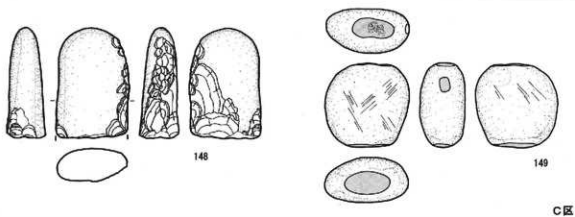
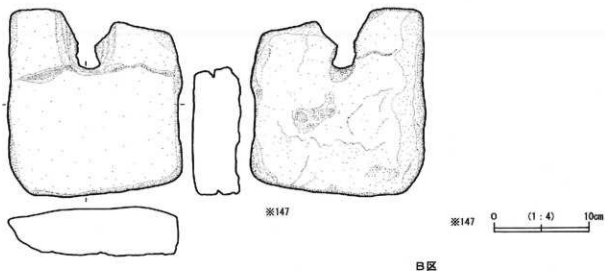
※125・128 0 (1:4) 10cm

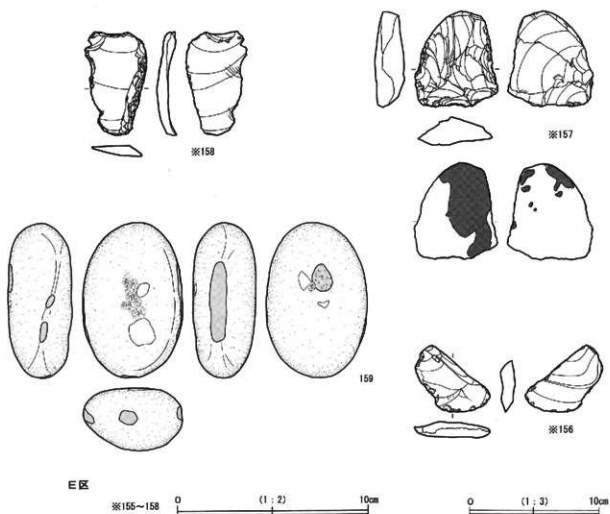
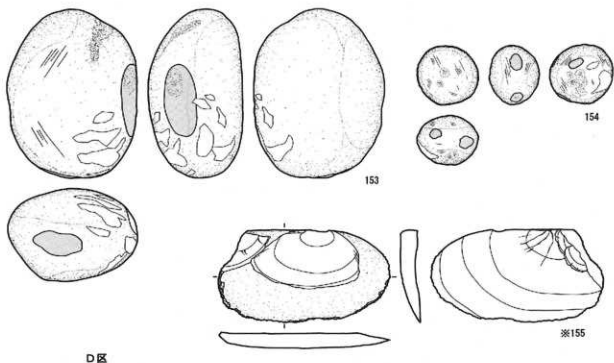
0 (1:3) 10cm

第25図 遺構外出土遺物③

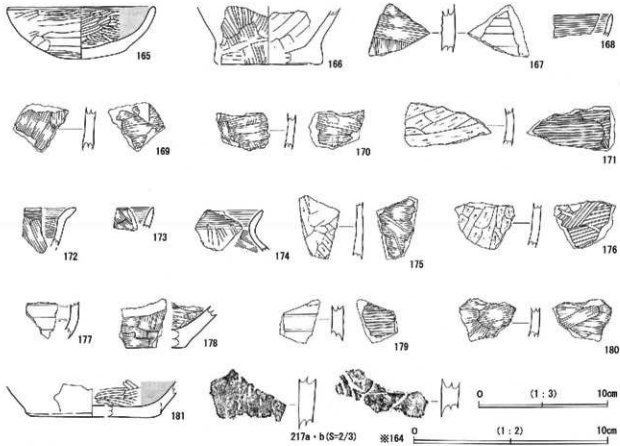
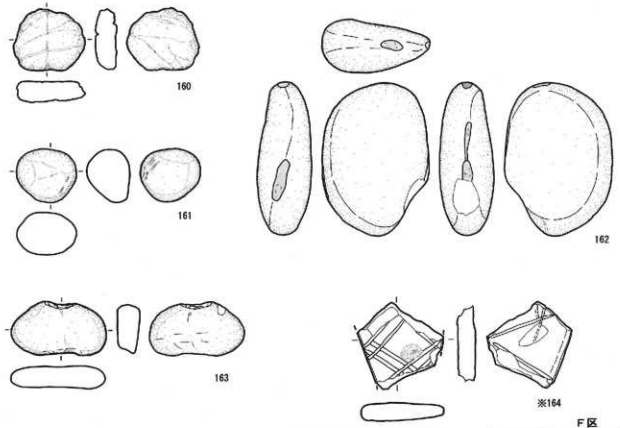


第26図 遺構外出土遺物④



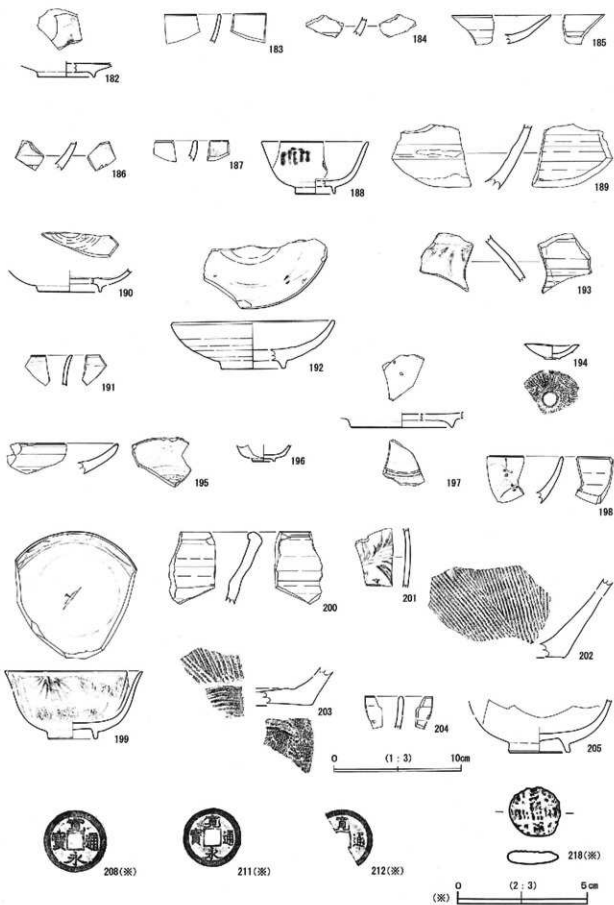


第28図 遺構外出土遺物⑥



第29図 遺構外出土遺物⑦

2 出土遺物



第30圖 遺構外出土遺物⑤



遺物番号	寄附者	所在地	種別	部位	部位	内容	分類	備考
60	23	E区	4号土葺	山崎宮	瓦	瓦	G	
61	5	A区	P46・50焼土	山崎宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し少ない
62	46	A区	X.C.69タテ	山下宮	瓦	瓦	F	上製品の瓦片もあり
63	47	A区	X.C.70タテ	山下宮	瓦	瓦	E・B	
64	48	A区	X.C.71タテ	山下宮	瓦	瓦	B・G	
65	49	A区	KD.72タテ	山下宮	瓦	瓦	C	
66	52	B区	VI.17タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
67	53	B区	VI.18タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
68	54	B区	VI.19タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
69	55	B区	VI.20タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
70	56	B区	VI.21タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
71	56	B区	VI.22タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
72	57	B区	VI.23タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
73	58	B区	VI.24タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
74	59	B区	VI.25タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
75	60	B区	VI.26タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
76	66	B区	VI.111タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
77	67	B区	VI.112タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
78	68	B区	VI.113タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
79	69	B区	VI.114タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
80	74	B区	VI.115タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
81	75	B区	VI.116タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
82	76	B区	VI.117タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
83	77	B区	VI.118タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
84	81	C区	VO.65タテNo.6	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
85	81	C区	VO.66タテNo.3	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
86	83	C区	VO.67タテNo.5	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
87	86	C区	VO.68タテNo.13	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
88	86	C区	VO.69タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
89	87	C区	VO.70タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
90	88	C区	VO.71タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
91	89	C区	VO.72タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
92	91	C区	VO.73タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
93	91	C区	VO.74タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
94	97	C区	VO.75タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
95	94	C区	VO.76タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
96	96	C区	VO.77タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
97	98	D区	VI.K05-V.L01タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い
98	100	D区	VI.K05-V.L01タテ	山下宮	瓦	瓦	B・D	瓦片本は少し多い



標本番号	出 土 場 所	層 位	形 様	材 質	内 容	内 面	付 着 物	分 類	備 考
99	D区 (西) V L02グリッド	IV層	筒形	銅製	社説 (長・短) ナミガキ	ミガキ (丁割)	スズ (外)	少 D	
100	101a D区 (南) V L02グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II F b 少	
101	101b D区 (南) V L02グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II F b 少	
102	101c D区 (南) V K06グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II F b 少	海抜表示付多量
103	102 D区 (西) V K06グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II F b 少	海抜表示付多量
104	104 D区 (南) V K06グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II D	
105	105 D区 (南) V K06グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II D	海抜表示付多量
106	107 D区 (西) V L01-02グリッド	IV層	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II B	
107	107 D区 (南) V L01-02グリッド	IV層	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II B	
108	111 D区 (西) V L01-02グリッド	IV層	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II D	
109	112 D区 (西) V L01-02グリッド	IV層	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II D	
110	99a D区 (南) V K06-V L01グリッド	IV層下位	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II B 少	土質の異なる可能性もあり 磨き痕
111	106 D区 (南) V K06-V L01グリッド	IV層	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II B 少	磨き痕 不純物あり
112	113 D区 (西) V L01-02グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II B	
113	114 D区 (西) V L01-02グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II B	
114	115 D区 (西) V L01-02グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II B	
115	116 D区 (西) V L01グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II C	海抜表示付多量
116	121 E区 (西) ⅡB02グリッド	IV層	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II B	
117	122 E区 (西) ⅡB02グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II B	
118	118 E区 (西) ⅡB21グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II D	
119	119 E区 (南) ⅡB21グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II D	
120	120 E区 (西) ⅡB21グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II G	大塚らしい
121	122 E区 (南) ⅡB21グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II E a	磨き痕あり
122	117 E区 (北)	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II E a	磨き痕あり
123	127a F区 ⅡR19-24グリッド ⅡNo.1	IV層中・下位	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II D	
124	127b F区 ⅡR19-24グリッド ⅡNo.1	V層下位	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II D	
125	125a F区 ⅡR19-24グリッド ⅡNo.1	V層下位	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II D	
126	123 F区 ⅡR19-24グリッド ⅡNo.1	V層下位	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II D	
127	124 F区 ⅡR19-24グリッド ⅡNo.1	V層下位	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II D	
128	126 F区 ⅡR22グリッド ⅡNo.2-5	V層下位	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II A	
129	130 F区 ⅡR19-24グリッド ⅡNo.1	V層下位	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II A	
130	131 F区 ⅡR19-24グリッド ⅡNo.1	V層下位	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II B	
131	132 F区 ⅡR19-24グリッド ⅡNo.1	V層下位	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II B	
132	138 F区 ⅡR19-24グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II A	
133	135 F区 ⅡR19-24グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II A	
134	136 F区 ⅡR02グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II A	
135	137 F区 ⅡR22グリッド	IV層下位	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II G	
136	134 F区 ⅡR02グリッド	IV層中	筒形	銅製	銅板 (長・短) ナミガキ	ナゲ (丁割)	スズ (外)	II F	

第4表 石蔵総覧表

後継番号	要約	山十番点	層位	跡地	最大長(m)	最大幅(m)	最大厚(m)	容量(m <sup>3</sup> )	石質	産地	時代	備考
13	311	B1K 12号土蔵	堀土位	跡地(丸玉)	2.75	3.90	2.90	35.80	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
18	313	B1K 21号土蔵	堀土位(化材積平)	跡地	6.10	4.95	3.95	138.20	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
19	312	B1E 21号土蔵	堀土上中	跡地(丸玉)	3.30	3.90	4.90	47.90	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
20	314	B1E 21号土蔵	堀土上中	跡地	22.70	9.90	3.95	1377.90	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
21	316	B1E 1号庫	堀土位	跡地	(11.89)	(3.69)	(6.90)	418.20	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
25	317	B1E P110	IV層上段	跡地	13.60	8.25	4.70	678.60	輝石閃緑岩	北上産地	中元代新第三紀	
54	304	B1E (丸)	堀土位(要約遺構)	石蔵	4.90	1.20	0.25	2.30	頁岩	美羽山麓	新元代新第三紀	
55	305	B1E (丸)	堀土位(要約遺構)	石蔵	4.15	6.15	0.90	14.20	頁岩	美羽山麓	新元代新第三紀	
56	302	B1E (丸)	堀土位(要約遺構)	石蔵	8.45	8.85	6.05	610.50	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
141	310	A1K 13D7グリッド	IV層中	石蔵	(20.50)	(15.80)	5.20	2002.00	デライト	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
142	309	D1E 10F7グリッド	IV層下	石蔵	4.20	3.40	1.20	16.10	頁岩	美羽山麓	新元代新第三紀	
143	321	B1K 10H8グリッド	IV層中	石蔵	5.50	7.00	1.70	73.20	砂岩	美羽山麓	新元代新第三紀	
144	322	B1E 10H8グリッド	IV層中	石蔵	11.15	8.50	5.90	603.90	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀	
145	320	B1E 10H8グリッド	IV層中	石蔵	9.20	6.20	4.45	338.50	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
146	319	B1E 10H8グリッド	IV層中	石蔵	14.15	13.25	4.45	789.00	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
147	318	B1E 10H8グリッド	IV層中	石蔵	20.90	18.25	5.20	2897.00	砂岩	美羽山麓	新元代新第三紀	
148	323	C1K 10G6グリッド	IV層	石蔵	(6.86)	5.70	3.10	242.40	安山岩	北上産地	中元代新第三紀	
149	324	C1K 10G6グリッド	IV層	石蔵	6.75	6.50	3.55	250.50	安山岩	北上産地	中元代新第三紀	
150	308	D1E (丸) 10I1グリッド	IV層	石蔵	11.80	6.90	4.15	414.80	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
151	302	D1K (丸)	IV層	石蔵	4.45	4.75	1.65	19.90	頁岩	美羽山麓	新元代新第三紀	
152	329	D1E (丸) 10I1グリッド	IV層	石蔵	6.00	10.20	2.40	214.20	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
153	327	D1E (丸) 10I1グリッド	IV層	石蔵	13.40	9.60	7.40	1296.10	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
154	326	D1K (丸) 10I1グリッド	IV層	石蔵	4.75	4.90	1.90	86.50	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
155	303	D1E (丸)	IV層	石蔵	4.90	8.95	1.65	33.50	砂岩	美羽山麓	新元代新第三紀	
156	308	D1E (丸) 10I1グリッド	IV層	石蔵	3.55	3.95	1.95	6.70	頁岩	美羽山麓	新元代新第三紀	
157	308	D1E (丸)	IV層	石蔵	5.10	4.25	1.50	37.40	頁岩	美羽山麓	新元代新第三紀	
158	307	D1E (丸) 10I1グリッド	IV層	石蔵	5.50	3.20	1.05	9.90	頁岩	美羽山麓	新元代新第三紀	
159	331	E1E 10H9グリッド	IV層上段	石蔵	12.30	7.90	3.90	645.60	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀	
160	336	F1K 10R2グリッド	IV層中	石蔵	5.90	6.50	1.70	68.50	頁岩	北上産地	中元代	
161	337	F1K 10S1・02グリッド	IV層中	石蔵	4.20	4.70	3.40	75.90	頁岩	北上産地	中元代	
162	338	F1E 10R2グリッド	IV層下	石蔵	12.20	8.40	4.20	544.20	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
163	309	F1K 10S1・02グリッド	IV層中	石蔵	4.20	7.45	1.85	90.20	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	
2.5	333	B1E (丸)	IV層中	石蔵	33.20	16.90	6.90	3150.00	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	写真のみ。詳細感あり
216	334	F1K (丸)	IV層	石蔵	24.00	14.30	8.90	3182.00	安山岩	美羽山麓	新元代新第三紀-新四紀	写真のみ

## 第5表 土製品・石製品類表

採取番号	産地	出土位置	器名	器別	保存部位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	粘土	焼成	付随物	色	質	その他
52	B5(国)	朝元北原塚遺構	埴土1層	土師片代	把形	3.25	3.0	0.9	9.9	白色砂質、褐色灰質を含む	良好	なし	にがい褐色	単節(1R)ミガキ	
53	B5(西)	堀元北原塚遺構	埴土1層	土師片代	把形	3.15	3.1	0.5	6.5	白色砂質を含む	良好	スズ	褐色	焼削	
127	F3区	ⅡR23グリッド	Ⅱ層	土師片代	把形	2.15	2.4	0.45	1.5	褐色を含む	良好	なし	褐色ににがい褐色	中実 円形跡、ナズ型	
132	F3区	ⅡR23グリッド	Ⅱ層	土師片代	把形	4.4	4.5	0.6	15.5	褐色	良好	なし	褐色ににがい褐色	成装ミガキ	
139	D3区		Ⅱ層	土師片代	1/2	4.65	2.15	0.7	7.2	小塊、褐色灰質を含む	良好	なし	浅褐色	磨目状跡、文(1) ナズ	
140	F3区	(北)	Ⅱ層	土師片代	1/2	3.2	1.65	0.65	3.7	褐色	良好	なし	にがい浅褐色	磨目文(1) ナズ	

## 第6表 土師器類表

採取番号	産地	出土位置	器名	器別	最大径(cm)	最大幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)	粘土	焼成	時代	備考
57	B5	(南)	堀元北原塚遺構	埴土1層	2.70	1.85	1.05	3.90	褐色砂質	焼引跡	弥生中期第二紀	
164	F3区	ⅡR01・02グリッド	Ⅱ層	埴土	4.05	4.15	1.00	12.90	褐色砂質	焼引跡	弥生中期第二紀	

## 第7表 土師器類表

採取番号	産地	出土位置	器名	器別	器高	器径	器幅	器厚	重量	内外	内面	外面	内面	外面	付随物	時期	色	質	その他
8	10	B55番土坑	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
23	14	B55番土坑	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
25	72	B5区 P13	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
103	44	A2区 XC07グリッド (No.1)	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
165	45	A2区 XC07グリッド	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
167	56	A2区 XC07グリッド	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
168	51	A2区 XC07グリッド	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
169	61	B5区 VLグリッド	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
170	63	B5区 VLグリッド	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
171	75	B5区 VLグリッド	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
172	62	B5区 VLグリッド	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
173	64	B5区 VLグリッド	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
174	65	B5区 VLグリッド	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
175	70	B5区 VLグリッド	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
176	73	B5区	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
177	84	C1区 VO07グリッド No.9	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物
178	92	C1区 VO03グリッド	Ⅱ層	土師器	10.5	10.5	10.5	1.0	10.5	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	スズ(内)	8c	褐色	焼削	褐色状付随物

発掘番号	町域	州土域点	調査位置	調査状況	外面調査	その他
179	C区	VO03グリッド	掘削	ロクロノズ		
180	95	C区 VO03グリッド	IV層	ナデ	ハコメ	
181	129	F区 IR1グリッド No. 2 ~ 9 周辺	V層下位	ナデ	ナデ	不発物 (小銭等) 多
217	139	B区 VMグリッド	IV層上位	ミガキ 漆器	ミガキ 内装 ミガキ 厨子	北人灰?

第7表 近世陶磁器観察表

発掘番号	町域	州土域点	調査位置	調査状況	外面調査	内外面 (検査・注付)	土域	年代
9	204	B区 6号土坑	掘削	陶器	3.4	3.2 染付 (灰緑) 見込み青花文彫刻 黒線	白色 黒?	19c
11	203	B区 12号土坑	掘削	陶器	4.4	4.4 染付 (灰緑一色)	灰白色	18c
12	206	B区 13号土坑	掘削	陶器	2.8	2.8 染付 (赤紫)	白色 小柄	19c
16	208	B区 20号土坑	掘削	陶器	5.3	5.3 染付 (赤紫) 一色顔耳文	灰白色 黒線	19c
17	209	B区 20号土坑	掘削	陶器	1.9	1.9 新緑 (内外)	赤紫色 不発	
182	201	A区 XCグリッド	掘削	陶器	(4.9) (4.5)	9.8 見込みに染付 (黒)	灰白色 黒線	19c
183	213	B区 VMグリッド	掘削	陶器	3.5	3.5 染付 (黒紫) 逆線	灰白色 不発	19c
184	214	B区 VMグリッド	掘削	陶器	2.8	2.8 白磁 曹入	赤紫色 不発	
185	216	B区 XD19グリッド	掘削	陶器	7.1	7.1 曹白	灰白色 不発	
186	212	B区 VMグリッド	掘削	陶器	3.1	3.1 染付 (赤紫) (内外)	灰白色 黒線	18c
187	215	B区 VMグリッド	掘削	陶器	1.9	1.9 染付 (灰緑) (内外)	灰白色 黒線	19c
189	207	B区 VMグリッド	掘削	陶器	(5.3) 4.2	(5.1) 15.7 1/5 染付 染付 (コバルト) 黒式赤文 白磁細直線 高口蓋縁	灰白色 小柄	19c
189	211	B区 VMグリッド	掘削	陶器	4.1	4.1 新緑 (内外) 黒線 (内)	赤紫色 不発	
190	218	B区 VMグリッド	掘削	陶器	(1.6)	(1.6) 7.8 染付 (灰緑) 黒の目録調子	白色 黒線	18c
191	219	B区 VMグリッド	掘削	陶器	1.8	1.8 染付 (黒) (内外) 黒反写	灰白色 不発	19c
192	217	B区 VMグリッド	掘削	陶器	(2.8) 3.8	(2.8) 3.8 (5.0) 3.0 染付 (赤紫) 黒の目録調子 (砂付) 二重赤字	白色 黒線	18c
193	223	B区 VMグリッド	掘削	陶器	11.2	11.2 14.8 赤線 (内)	灰白色 不発	
194	220	B区 VMグリッド	掘削	陶器	1.2	1.2 7.0 白磁 口蓋部分に黒形 (内) 赤文反写	灰白色 不発	19c
195	218	B区 VMグリッド	掘削	陶器	1.1	1.1 13.3 染付 (灰緑) 黒の目録調子 (砂付) 一重赤字	灰白色 黒線	18c
196	221	B区 VMグリッド	掘削	陶器	1.1	1.1 3.7 染付 (赤紫) 黒の目録調子	灰白色 不発	19c
197	225	B区 漆土	掘削	陶器	(0.7)	(0.1) 9.1 染付 (黒) 見込赤台 赤台内に黒線	白色 黒線	19c
198	224	B区 漆土	掘削	陶器	9.3	9.3 染付 (灰紫) 赤文	灰白色 黒線	19c
199	226	B区 漆土	掘削	陶器	(0.7) 6.4 3.9	(0.7) 12.1 染付 (砂) (内) 黒反写 見込みに (内) 赤文 黒反写	灰白色 黒線	19c

検出番号	遺構	山上地点	層位	材質	部材	部位	口径	断面	重量	内外面	出土状況
200	C区 NO23ガラス	1層	陶器	口縁部		(4.7)	26.3	断面 片断外反 口縁部とお丸			黒褐色 小形
201	C区 VP03ガラス	1層	陶器	底部	底部		7.4	底付 (磨製式)			黒色 小形
202	C区 NO22ガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(6.0)	(14.4)	底付 (磨製式)			黒褐色 小形
203	D区 VLガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(2.7)	(18.4)	底付 (磨製式)			黒褐色 小形
204	E区 NOガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(4.2)	132.7	底付 (コルクト) 口縁部			黒褐色 小形
205	E区 NOガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(4.2)	476.5	底付 (コルクト) 口縁部			黒褐色 小形
206	E区 NOガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(4.2)	476.5	底付 (コルクト) 口縁部			黒褐色 小形
207	A区 P84	1層	銅	口縁部	口縁部	(2.45)	2.45	底付 (コルクト) 口縁部			黒褐色 小形
208	B区 VEGガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(2.5)	2.5	底付 (コルクト) 口縁部			黒褐色 小形
209	B区 P113	1層	銅	口縁部	口縁部	(2.5)	2.5	底付 (コルクト) 口縁部			黒褐色 小形
210	B区 20号土坑	1層	土	口縁部	口縁部	(2.4)	2.4	底付 (コルクト) 口縁部			黒褐色 小形
211	A区 B.C.ガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(2.3)	2.3	底付 (コルクト) 口縁部			黒褐色 小形
212	瓦片 (西) IVO05ガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(2.45)	2.45	底付 (コルクト) 口縁部			黒褐色 小形
213	B区 20号土坑	1層	土	口縁部	口縁部	(2.4)	2.4	底付 (コルクト) 口縁部			黒褐色 小形
214	B区 VIガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(2.6)	2.6	底付 (コルクト) 口縁部			黒褐色 小形

第8表 古銭類表

検出番号	遺構	出土位置	層位	材質	部材	部位	直径(mm)	重量(g)	切跡	平代	その他
207	A区 P84	1層	銅	口縁部	口縁部	(2.45)	2.45	2.45	3.3	寛永14年 1637年 占算本	底付
208	B区 VEGガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(2.5)	2.5	2.5	3.8	引摺2年 1656年 片断本	底付
209	B区 P113	1層	銅	口縁部	口縁部	(2.5)	2.5	2.5	3.4	寛永8年 1680年 片断本	底付
210	B区 20号土坑	1層	土	口縁部	口縁部	(2.4)	2.4	2.4	3.0	天明11年? 1720年? 新算本	底付
211	A区 B.C.ガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(2.3)	2.3	2.3	2.4	元禄元年 1716年 新算本	底付
212	瓦片 (西) IVO05ガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(2.45)	2.45	2.45	1.5	元禄元年 1716年 新算本	底付
213	B区 20号土坑	1層	土	口縁部	口縁部	(2.4)	2.4	2.4	不明	不明	底付
214	B区 VIガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(2.6)	2.6	2.6	不明	不明	底付

第9表 その他類表

検出番号	遺構	出土位置	層位	材質	部材	部位	直径(mm)	重量(g)	厚(mm)	厚(mm)	断面	色	使用状況	その他
218	D区 VEGガラス	1層	陶器	口縁部	口縁部	(2.4)	2.4	2.4	1.9	1.8	0.45	1.4	底付	黒色

## V ま と め

今年度の調査で検出された遺構の時期については、盛土や擾乱の影響、遺物が伴わないなどの理由から明確なものが少なく、以下のとおりである。

調査区	遺構名	縄文(後期)	奈良～近世	近現代	時期不明
A 区	土坑				5
	柱穴状小土坑				146
B 区	土坑	4	5	6	4
	溝状遺構		2	1	2
	埋設土器遺構	1			
	柱穴状小土坑				183
C 区	土坑	1			
D区(西)	溝状遺構				1
	柱穴状小土坑				4
E区(西)	竪穴住居状遺構	1			
	配石遺構	1			
	土坑	5			
	柱穴状土坑	12			
	柱穴状小土坑	5			
E区(西)	土坑	1			
	柱穴状小土坑	2			
F 区	土坑	6			
	柱穴状小土坑	3			

### 1 III層(十和田南部浮石層)について

第31図にも示したように、B区中央から東側の広範囲にかけて、I和田a降下火山灰層の下に一見南部浮石層と見られる層が広がっていた。十和田a降下火山灰は自然堆積であったが、この層は分析の結果、やはり南部浮石の再堆積層であった。次に堆積する層が十和田b降下火山灰層と思われたが、この層に関しても再堆積の可能性が出てきた。確かに十和田b降下火山灰層の中から土師器が出土しており、擾乱を受けていることは間違いない。それが遺構としての部分的なものではなく全体的な様相である。また縄文時代後期の土器が出土したのはこれも基本層序のIV層とした十和田b降下火山灰層である。しかし、この層は約20cm前後の厚みを持ち、縄文土器が多く入るのは下位層からで、V層(To-bとTo-cu層との漸移層)に至る前に含まれる。遺構については、この漸移層直上もしくは漸移層中で検出され、むしろIV層は2分するべきだったようだ。III層の南部浮石層とIV層上面層について、十和田a火山灰層が自然堆積でこれまで言われてきた降下年代のとおりならば、古代や弥生時代の遺物や遺構の痕跡が全くないため、それ以前に周辺での地盤地変があった可能性が高い。

## 2 縄文時代（後期）の遺構・遺物について

縄文時代の遺構としては、住居跡が出なかったものの、縄文時代後期前葉の特徴的な遺物と遺構が集中して検出された。第32図の「和田中敷火山灰層面コンタ図を見ると、今回縄文時代の遺構が確認できたE区F区の起伏が緩くなっていることがわかる。また、B区南西部においても同様に起伏が緩くなっている。縄文時代の土坑と思われる17号土坑や埋設土器遺構が出土したのもこの地域からである。今回の検出状況も踏まえて、地形からも遺跡本体の区域が現在のE区F区調査区の北側とB区調査区南西側にあることが予想される。

埋設土器遺構は、1基だけである。また、調査区境の南西壁より出土したために、調査区以外の周辺の様子を探ることはできなかった。そのために埋設土器遺構の詳細は不明である。

竪穴住居状遺構については、竪は検出されなかったが、床面の状態や土器の出土状況、土製品、石製品、琥珀の出土など住居であった可能性が高いと思われる。竪については、直上に柱穴状土坑や配石遺構が作られたために壊されたのかもしれない。

柱穴状土坑は、径40cm前後以上のものが7基検出しており、いずれも十和田中敷火山灰因塊層をほりあげて作られている。埋土もほとんど変わらず同時期のものと判断した。いくつかは掘り方が北に傾くものもあるが、4本柱、6本柱など調査区内で並ぶことはなかった。ただし規模からある程度大きさの建物跡が推測できる。

配石遺構については、同時期と思われる遺構がこの他には明確ではなく、用途が明らかではない。遺構のところでも既述したように、中心に土坑や一括の上器などは見つかっていない。また、調査区内で全ての配石が残っていたわけではなく北側の一部はなくなっており、本来の形状は不明である。縄文時代後期の配石遺構については、二戸近辺では、曲田I遺跡や大日向II遺跡、荒谷遺跡、堀野遺跡、馬立I遺跡などがある。また、時期は不明だが下部施設を持たないものに下村B遺跡や柿ノ木平III遺跡がある。いずれも周辺から縄文時代後期の遺構や遺物を出土している遺跡であり、その点では本遺跡と類似している。ただし、馬立I遺跡の配石遺構以外の遺跡では、配石の仕方が密にまたは複数の石を配列するなど環状列石の規模が大きい。また他に集石を持つものもある。

今回の調査では、調査区が狭かったため全体の様子が不明であるが、逆にこれだけの調査区でこれほどの遺構が重複して確認できたということは、この地の遺構の密度が大変高く、縄文時代後期前葉という比較的限られた時期において生活が営まれたことを意味する。本来であれば、遺物と関連づけて更に詳しく分析、時期差について検討すべきであるが、残念ながら遺構同士の標高差があまりなかったため、遺構と同区域から出土した遺物とを関連づけて細分することはできなかった。

## 3 柱穴状小土坑について

A区とB区の柱穴状小土坑の多くは近世～現代にかけてのものと思われる。小土坑の分布とともに近世陶磁器の出土も多い。B区の特に西側に集中している。既述のとおり、旧奥州街道の一部であったことと一致する。それ以外の地からの出土が少ないのは、盛土を剥ぐと近世面を通り越して下位の層が見られ、削平を受けているための影響と思われる。街道は金田・集落（現金田一駅側）から川口村（北奥路程記より「川口村 村中百六間、家十一軒」とある）に入り、調査区を横断する道路を進み、B区とA区の間（現私有地（畑へ続く道路）を山に向かって上がり、海上川を渡って釜沢へと抜け、三戸通りに向かったようである。川口I遺跡の西側を流れるこの海上川が、幕政時代の福岡通と三戸通の境界であった。削平や盛土がなされ現在のように舗装されて当時の面影はなくなり痕跡のみとなった。

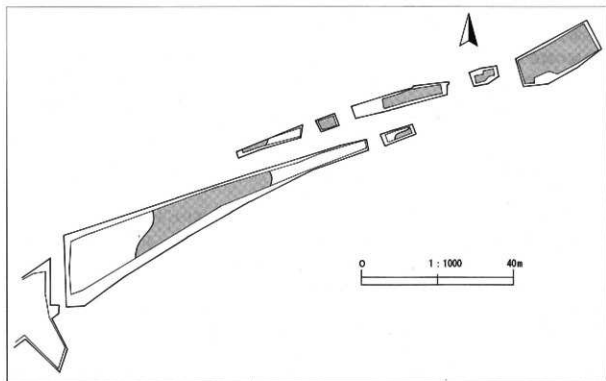
## 4 結 び

今回の調査により、本遺跡が主に縄文時代後期前葉の集落跡、近世の集落跡であることがわかった。昨年度の調査結果も振り返ると、更に古い縄文時代早期の土器片も出土しており周辺に集落跡が存在する可能性もある。また、今年度の調査では、縄文土器や近世陶磁器の他に8世紀と見られる土師器坏が出土している。小破片のみで時期を断定できる遺物が少ないことと、合わせて断定できる遺構がないことにより何とも言えないが、破片が出土していることは事実であり、十和田 a 降下火山灰以前と思われる遺構も考えられることから、奈良時代にも人々の生活の痕跡があったことが窺える。

今回の緊急発掘の原因となった事業により、来年度は川口 I 遺跡の対岸に位置する雨滝遺跡も調査することになっている。雨滝遺跡は縄文時代晩期の著名な遺跡として知られている。半世紀ぶりに行われる調査により雨滝遺跡の性格が見えてくることであろう。そして調査が進み、詳しく検討されることにより、馬淵川を挟んでの本地域一帯の歴史が更に明らかになることと思われる。

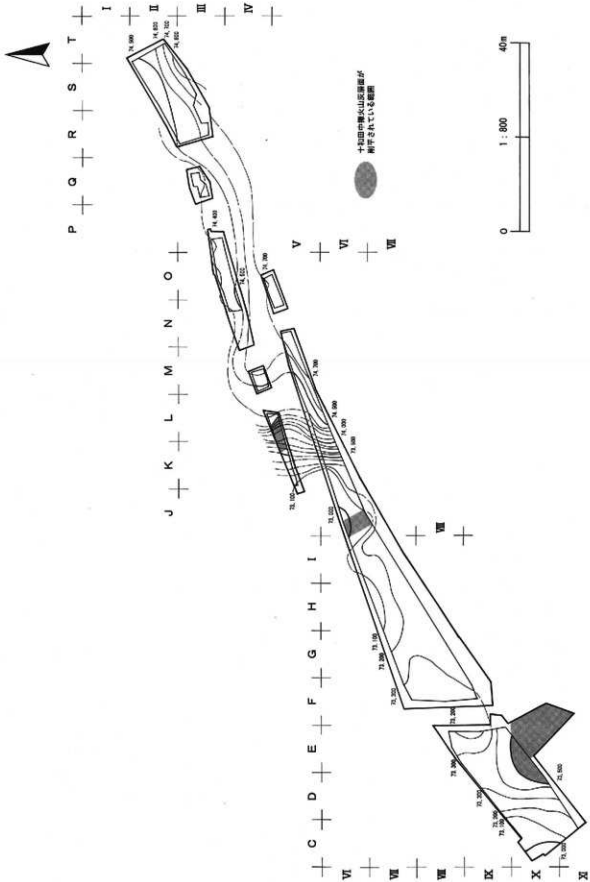
## 参考文献

- 一戸町教育委員会 1993 一戸町文化財調査報告書第26集「御所野遺跡」  
 岩手県文化財愛護協会 2002 「読み下し文 北奥路程記」(原著 江戸時代後期 津戸茂樹著)  
 岩手県教育委員会 1979 岩手県文化財調査報告 第三十六集「奥州道中」  
 (財)岩埋文 1988 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第122集「馬立Ⅱ遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 1985 岩手県埋文センター調査報告書第87集「曲田Ⅰ遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 1983 岩手県埋文センター調査報告書第56集「上村遺跡・下村A遺跡・下村B遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 1998 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第273集「大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書」



第31図 十和田南部浮石検出範囲





第32図 十和田中樞火山灰層面コンタ図

## VI 分 析

### 1 川口 I 遺跡第 2 次調査出土琥珀産地の同定

(財)元興寺文化財研究所保存科学センター

#### (1) 資 料

川口 I 遺跡の十和田中祭祭祀遺構から出土した琥珀玉は土師器の形式から 4 世紀終末頃の時期のものと考えられている。多量の滑石製の白土と一緒に 1 点だけ出土した。玉の約半分がそのままの状態、残り半分は欠損していた。遺物を実見した結果、比較的透明度が高く他の古墳時代出土琥珀玉と比べてもかなり依存状態はよく、硬度も高いと思われた。

#### (2) 目 的

川口 I 遺跡出土琥珀玉が、琥珀であるかどうかの確認と、得られた結果を標準資料のデータと比較することにより産地同定を行う。

#### (3) 使用機器および原理

測定はフーリエ変換型赤外分光光度計 (以後 FT-IR とする) (SENSIR TECHNOLOGIES) を使用した。FT-IR による分析は、試料に赤外線を照射し、その結果得られる分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し、化合物の種類を同定することができる。主に有機物の構造を解析する手段として用いられることが多く、琥珀を形成する樹脂の種類すなわち植物の種類によって分子構造が異なると考えられるため産地によってスペクトルに差が生じ、それを利用して産地同定に応用されてきた<sup>1) 2) 3)</sup>。

#### (4) 分析方法および条件

FT-IR 分析は当初はそのままの状態では非破壊分析を試みたが十分なデータが得られなかった。そのため、資料の破断面からごくわずかに採取した。これらを乳鉢で細かくすりつぶし、以下の分析に用いた。

FT-IR 分析は試料を臭化カリウム (KBr) と混合、圧縮し錠剤を作製した。測定条件は分解能  $4\text{ cm}^{-1}$ 、検出器として TGS を用いた。

#### (5) 結果および考察

FT-IR 分析は劣化していない部分の赤外吸収スペクトルが得られればその産地同定は可能である。しかし、劣化が激しいと、全体的にピークはブロードになり特徴的な吸収が消失し、新たに異なった位置にピークが表れることがある。そのためできるだけ堅くてより健全な部分を選んで FT-IR による分析を行った。

その結果、 $3500\sim 2800$ 、 $1710$ 、 $1500\sim 800\text{ cm}^{-1}$  付近の吸収から、琥珀であることが確認できた (図 1)。

次に、 $1800\sim 800\text{ cm}^{-1}$  付近の吸収位置および強度を基に、産地の判明している標準となる琥珀から得られたスペクトルと比較し、産地同定を試みた (図 2-1~3)。その結果、 $1100\sim 950\text{ cm}^{-1}$  の吸収

位置および強度が久慈産およびいわき産に比較的近い吸収位置と強度を示した。(図1、2)。この二産地は琥珀の生成年代がほぼ同じであり、由来する植物も同じである可能性が高いため、そのスペクトルは非常に近似したものになる。そのため、現時点ではこの二産地に関しては区別することができない。

琥珀の産地は国内でも、少量産出地も含めると10ヶ所以上もある。また国外でも各地で産出する。そのなかで、主産地についてのFT-IR分析はすでに報告されている<sup>1) 2) 3)</sup>。しかし、出土琥珀は劣化状態が様々でそれによって吸収位置や強度が変化する。そのため、劣化が進行したものはそのスペクトルが変化し産地同定が不可能になる場合がある。今回、資料は比較的依存状態がよかったため、標準琥珀との比較が可能であり、FT-IR分析では久慈市およびいわき市の可能性が高いと思われた。しかし、今回の資料はその形状や大きさ、出土時期が現在まで分析した古墳時代出土琥珀玉と比べるとかなり異なる。今までの分析資料は形状としては勾玉や棗玉がほとんどで、大きさも本資料に比べるとかなり大きく、時代的にも新しい。そのため、分析は国内産の琥珀と比較した結果から導いたものであるが、遺跡の地理的な立地などから国外の可能性も考えられる。今後中国など国外の標準資料も比較対照とし、さらに同定の精度を上げることが必要であると考える。

#### 参考文献

- 1) 幸賀照了、赤外吸収スペクトルによる琥珀の産地分析、考古学と自然科学、第9号、59、(1976)
- 2) 植田直見、鏡子産琥珀の赤外分光分析、こはく、第4号、15 (2002)
- 3) 植田直見、いわき地方産琥珀の科学分析、こはく、第5号、13 (2004)

(文責：植田直見)

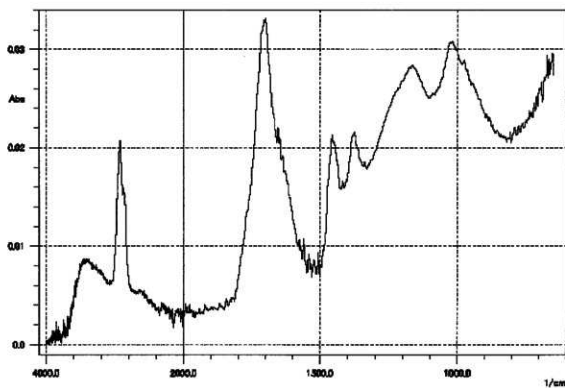


図 1 川口 I 遺跡出土琥珀玉の赤外吸収スペクトル

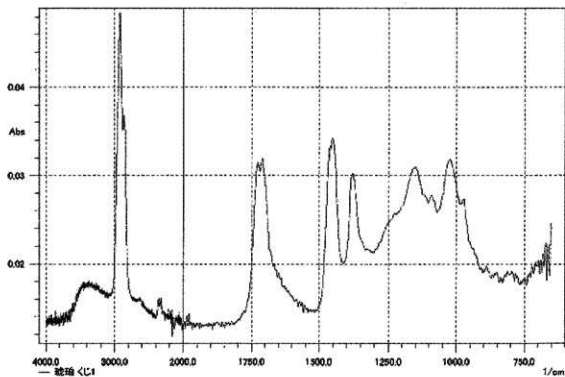


図 2-1 日本の主産地から産出した琥珀の赤外吸収スペクトル (久慈市)

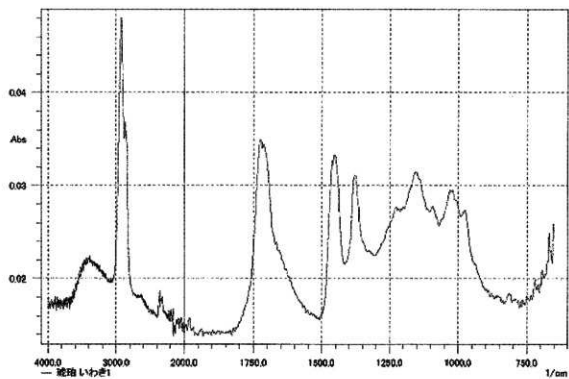


図 2-2 日本の主産地から産出した琥珀の赤外吸収スペクトル (いわき市)

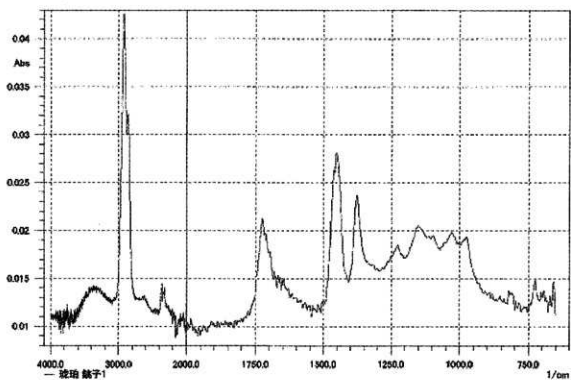


図 2-3 日本の主産地から産出した琥珀の赤外吸収スペクトル (銚子市)

## 2 川口 I 遺跡の火山灰について

弘前大学・理工学部・地球環境学科  
柴 正 敏

川口 I 遺跡より採集された、火山灰サンプル（8 試料）について、以下の観察・実験を行った。これら試料について、超音波洗浄器を用いて水洗し、粘土鉱物など数マイクロメートル以下の粒子を除去した後、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの有無、火山ガラスが存在する場合にはその形態、構成鉱物の種類を観察・記載した。火山ガラスは、その形態、屈折率、化学組成、共存鉱物などにより給源火山を推定することができる（町田・新井、2003）。火山ガラスの化学組成を決定する方法として、近年、電子プローブマイクロアナライザー（以て E P M A）がもちいられるようになってきた。本報告では、4 試料（試料 7、9、13 及び 16）について E P M A 分析を行った。使用した E P M A は弘前大学・機器分析センター所属の日本電子製 J X A - 8800 R I、使用条件は加速電圧 15kV、試料電流 10 nA アンペアである。補正計算は ZAF 法に従った。

試料 9 及び 13 は、ガラスの形態及び構成鉱物（表 1）、ガラスの化学組成（表 2）より、主に十和田 a テフラよりなる。褐色ガラス及び石英斑晶を含むことが特徴である。試料 13 はアルカリ長石及びエジリンオーゾジャイトをごく僅か含むことより、白頭山苦小牧テフラが混入した可能性がある。

試料 16 は、ガラスの形態及び共存鉱物（表 1）、ガラスの化学組成（表 2）より、十和田中撤テフラ起源のガラスよりなる。

試料 8 及び 14 は、発泡の良い軽石ガラスからなり、スコリアガラスやホルンブレンドを含まないことから、十和田南部テフラを主とすると考えられる。しかし、両試料とも、海綿骨針を含むことより、再堆積した可能性が高い。

試料 6 及び 15 は、スコリアガラス（苦鉄質ガラス）を普通を含むこと及び発泡度の良い軽石を含むことより、十和田二倉テフラ及び十和田南部テフラが混合していると考えられる。試料 6 には、海綿骨針が含まれることより、周囲の地層からの堆積物の混入が認められる。試料 15 には、針状のホルンブレンド及び変質の進んだ発泡度の良い軽石を含むことより、十和田八戸テフラの混入も考えられる。

試料 7 は、十和田南部テフラ起源のガラスのほか（表 2）、針状ホルンブレンド及び変質の進んだ発泡度のよい軽石ガラスを含むことより、十和田八戸テフラ起源のガラスを含んでいると考えられる。表 2 に本試料のガラス組成を示したが、十和田八戸テフラ及び十和田 a テフラのガラスは組成が重なるため、識別しがたい（柴ほか、2001）。従って、十和田 a テフラ起源のガラスである可能性もある。また、本試料には海綿骨針が普通に認められることより、再堆積した可能性が高い。

## 参考文献

- Hayakawa, Y. (1985), Pyroclastic geology of Towada Volcano. Bulletin of Earthquake Research Institute, vol.60, 507-592.  
 Machida, H. (1999), Quaternary widespread tephra catalog in and around Japan: Recent progress. 第四紀研究, 第38巻, 194-201.  
 町田 洋・新井 房夫 (2003), 新編火山灰アトラス - 日本列島とその周辺 -, 東京大学出版会, pp. 336.  
 柴 正敏・重松直樹・佐々木 実 (2000), 青森県内に分布する広域テフラに含まれる火山ガラスの化学組成 (1), 弘前大学理工学部研究報告, 第 1 巻, 第 1 号, 11-19.

柴 正敏・中道哲郎・佐々木 実 (2001)、十和田火山、降下軽石の化学組成変化 - 一字樽部の一歯頭を例として -、弘前大学理工学部研究報告、第4巻、第1号、11-17。

柴 正敏・佐々木 実 (2006)、十和田火山噴出物のガラス組成変化、月刊地球、第28巻、第5号、322-325。

表1 川口I遺跡火山灰試料一覧

試料 No.	採取場所	層位	ガラス及び鉱物	ガラスの帰属	特記事項
6	B区中央 文トレ内	To-b層(?)	ガラス (pm ≧ bw)、スコリアガラス、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	To-Nk, To-Nb (再堆積)	海綿骨針、軽石、岩片 (径15.0~10.0mm)
7*	B区中央部	To-a層(?)	ガラス (pm ≧ bw)、斜長石、石英 (両歯型)、斜方輝石、単斜輝石、 ホルンブレンド、鉄鉱	To-H, To-Nb, To-a (再堆積)	海綿骨針、軽石、岩片 (径1.0~10.0mm)
8	B区中央部	To-Nb層(?)	ガラス (pm ≧ bw)、斜長石、斜方輝石、 単斜輝石、鉄鉱	再堆積To-Nb	海綿骨針、岩片、軽石 (径5.0~12.0mm)
9*	B区中央部	To-a層(?)上面層	ガラス (pm ≧ bw)、褐色ガラス、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、石英、 鉄鉱	To-a	岩片、軽石 (径1.0~3.0mm)
13	F区北壁	II層 To-a層	ガラス (pm, bw)、褐色ガラス、アルカリ長石、エジソンオーブジャイト、斜長石、石英 (両歯型)、斜方輝石、 単斜輝石、鉄鉱	To-a, (B-Tm)	岩片、軽石 (径0.5~1.0mm)
14	F区北壁	IV層 ボラタ層	ガラス (pm ≧ bw)、斜長石、斜方輝石、 単斜輝石、鉄鉱	To-Nb (再堆積)	海綿骨針、岩片、軽石 (径2.0~20.0mm)
15	F区北壁	V層 To-b層	ガラス (pm)、スコリアガラス、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、石英 (両歯型)、ホルンブレンド、鉄鉱	To-Nk, To-H, To-Nb	岩片、軽石 (径1.0~15.0mm)
16*	F区北壁	IX層 To-Cu層	ガラス (pm ≧ bw)、褐色ガラス (少)、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	To-Cu	岩片、軽石 (径3.~8.0mm)

bw = バブルウォール型、pm = 軽石型、To-H = I和出入デテフラ、To-Nk = 十和田ノ倉デテフラ、To-Nb = 十和田南部デテフラ、To-Cu = 十和田中継、To-a = 十和田デテフラ、≧ = より非常に多い

表2 川口 I 遺跡、火山ガラスのEPMAデータ

十和田aテフラ		SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	N <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	n	Total	EPMA
試料番号9 B区中央部 To-a(?) 上面層	最小	76.70	0.27	12.34	1.76	0.90	0.35	1.86	3.52	1.44			
	最大	77.52	0.47	13.20	2.11	0.22	0.49	2.03	4.27	1.56			
	平均	76.97	0.37	12.84	1.95	0.13	0.42	1.99	3.83	1.50	8	101.66	WDS
	標準偏差	0.284	0.069	0.270	0.132	0.097	0.044	0.073	0.232	0.037			
試料番号13 F区北壁II層 To-a層	最小	76.78	0.33	12.43	1.55	0.05	0.38	1.93	3.47	1.36			
	最大	77.44	0.52	13.13	2.27	0.20	0.48	20.7	4.13	1.55			
	平均	76.99	0.38	12.88	1.96	0.11	0.43	2.03	3.73	1.48	17	103.07	WDS
	標準偏差	0.209	0.060	0.167	0.154	0.045	0.032	0.039	0.212	0.049			
	青木・新井(2000)	77.75	0.36	12.73	1.62	0.09	0.38	1.81	3.90	1.37	19	97.13	WDS
柴ほか(2001)	77.95	0.28	12.59	1.54	0.09	0.35	1.88	3.92	1.40	11	98.41	WDS	
十和田中腹テフラ													
試料番号16 B区北壁 IX層 To Cu層	最小	74.97	0.41	13.11	1.82	0.06	0.28	2.46	3.48	1.28			
	最大	75.78	0.54	14.19	2.95	0.17	0.60	2.58	3.91	1.41			
	平均	75.36	0.48	13.51	2.52	0.11	0.51	2.51	3.64	1.34	5	97.32	WDS
	標準偏差	0.338	0.048	0.412	0.450	0.039	0.134	0.056	0.219	0.050			
	青木・新井(2000)	75.36	0.43	13.65	2.35	0.11	0.52	2.35	4.01	1.22	11	98.38	WDS
柴ほか(2001)	75.59	0.40	13.27	2.45	0.09	0.51	2.70	3.68	1.31	13	98.22	WDS	
十和田南部テフラ													
試料番号7 B区中央部 To-a層(?) 下層	最小	73.17	0.41	13.91	2.68	0.01	0.49	2.93	3.90	1.12			
	最大	74.46	0.47	14.49	2.95	0.11	0.71	3.00	4.30	1.33			
	平均	73.63	0.44	14.14	2.81	0.05	0.60	2.95	4.13	1.25	3	103.19	WDS
	標準偏差	0.725	0.030	0.307	0.133	0.054	0.109	0.041	0.206	0.117			
	青木・新井(2000)	74.98	0.47	13.41	2.75	0.06	0.60	2.70	3.81	1.25	5	101.98	WDS
柴ほか(2001)	74.33	0.49	13.63	2.84	0.14	0.64	3.06	3.45	1.42	10	96.15	WDS	
十和田系テフラ													
試料番号7 B区中央部 To-a層(?) 下層	最小	77.11	0.21	12.99	1.91	0.02	0.41	2.07	3.39	1.22			
	最大	77.34	0.47	13.17	2.01	0.18	0.48	2.22	3.50	1.43			
	平均	77.16	0.29	13.08	2.00	0.12	0.46	2.14	3.45	1.30	3	101.63	WDS
	標準偏差	0.157	0.071	0.092	0.081	0.092	0.038	0.074	0.058	0.075			
	十和田fテフラ 青木・新井(2000)	76.38	0.40	13.43	1.90	0.11	0.44	2.22	3.88	1.24	8	96.56	WDS
十和田eテフラ 青木・新井(2000)	77.75	0.36	12.73	1.62	0.09	0.38	1.81	3.90	1.37	19	98.41	WDS	

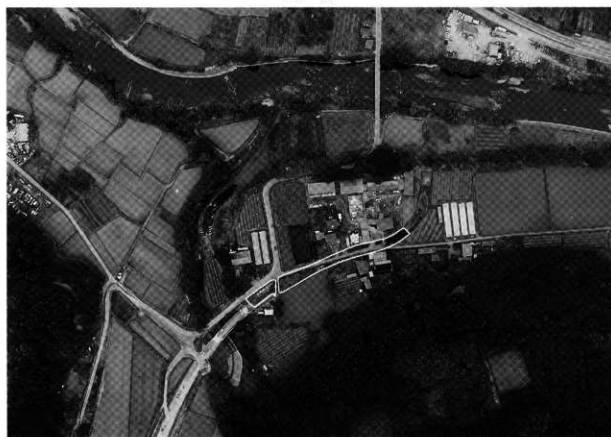
測定値は黒水で100%になるように再計算した。FeO\*は全鉄をFeOとして計算したことを表す。  
nは分析点の数、WDSは波長分散型EPMAを意味する。



# 写 真 图 版



遠景

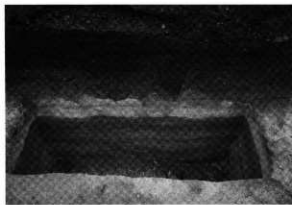


直上(上が北)

写真図版1 遺跡全景



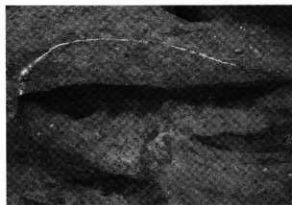
A区現況（東から）



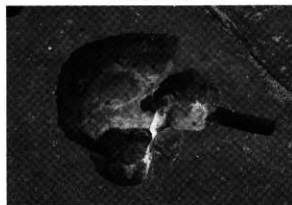
A区基本層序（南から）



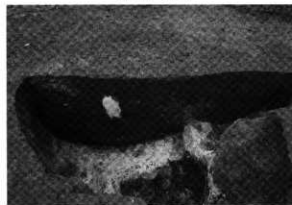
1号土坑（完掘）



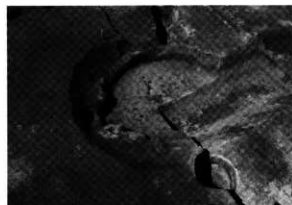
1号土坑（断面）



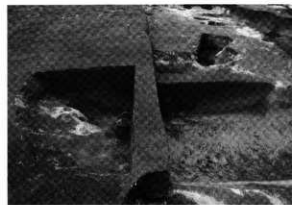
2号土坑（完掘）



2号土坑（断面）



3号土坑（完掘）



3号土坑（断面）

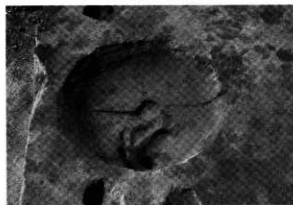
写真図版2 A区現況・基本層序・土坑(1)



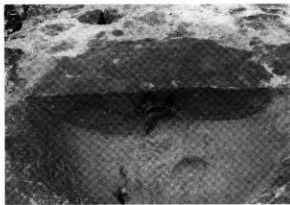
4号土坑 (完掘)



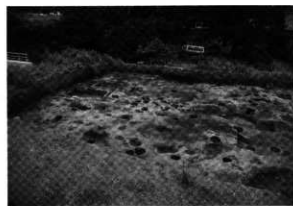
4号土坑 (断面)



5号土坑 (完掘)



5号土坑 (断面)



十和田中環面終了全景 (西側)



十和田中環面終了全景 (東側)



VII層(十和田中環火山灰層下)面 (西側)



VII層(十和田中環火山灰層下)面 (西側)



B区現況（西から）



B区現況（東から）



B区基本層序



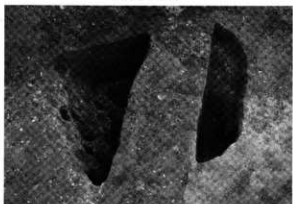
2号土坑（完掘）



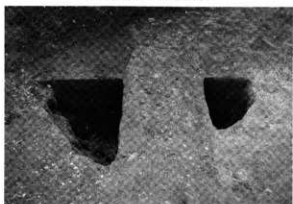
2号土坑（断面、東から）



2号土坑（断面、北から）

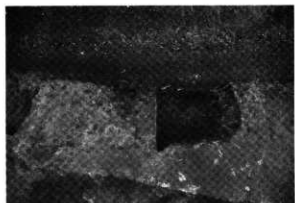


5号土坑（完掘）



5号土坑（断面）

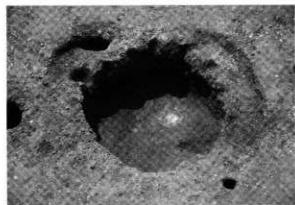
写真図版4 B区現況・基本層序・土坑(1)



6号土坑 (完掘)



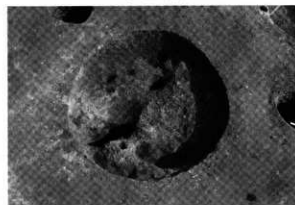
6号土坑 (断面)



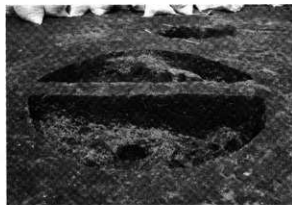
7号土坑 (完掘)



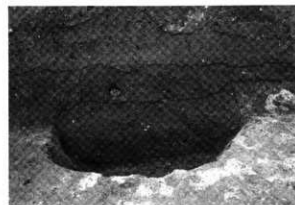
7号土坑 (断面)



8号土坑 (完掘)



8号土坑 (断面)



9号土坑 (断面)



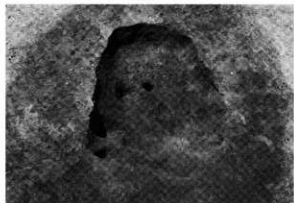
14号土坑 (P139舍) (断面)



10号土坑 (完掘)



10号土坑 (断面)



11号土坑 (完掘)



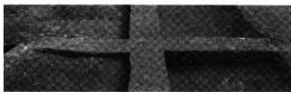
11号土坑 (断面)



12号土坑 (完掘)



12号土坑 (断面、西から)



12号土坑 (断面、北から)



15号土坑 (完掘)



15号土坑 (断面)



16号土坑 (断面)



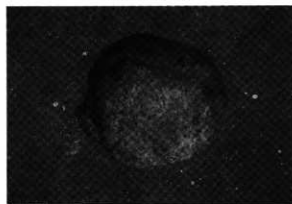
16·17号土坑 (断面)



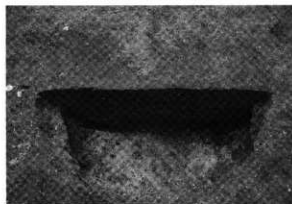
17号土坑 (断面)



16号土坑·17号土坑 完掘



18号土坑 (完掘)



18号土坑 (断面)

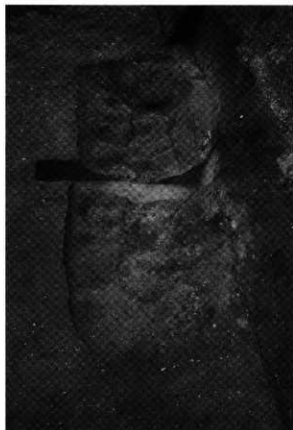


20号土坑 (完掘)

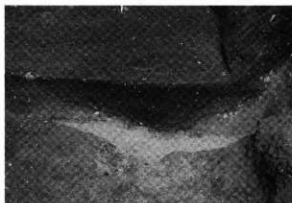


20号土坑 (断面)

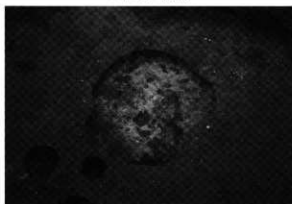




19号土坑 (完掘)



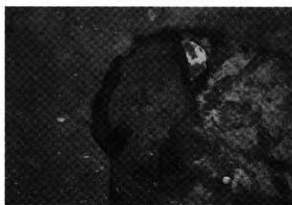
19号土坑 (断面)



21号土坑 (完掘)



21号土坑 (断面)



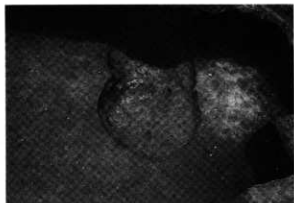
21号土坑 炭化材出土状况



22号土坑 (完掘)



22号土坑 (断面)



23号土坑 (完掘)



II層(十和田a火山灰層)面 柱穴状土坑群



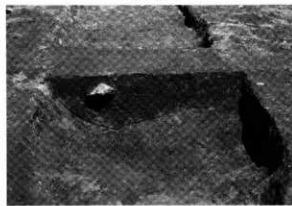
1号溝 (完掘)



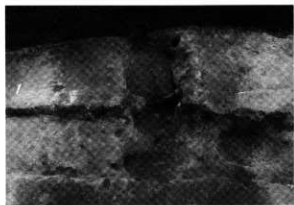
2号溝 (完掘)



1号溝 (断面)



2号溝 (断面)



3号溝 (完掘)



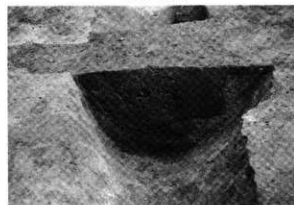
3号溝 (断面)



5号溝 (完掘)



6号溝 (完掘)



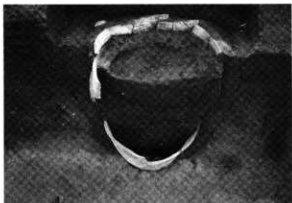
5号溝 (断面)



6号溝 (断面)



埋設土器遺構断面



埋設土器内埋土断面



II層面（第1検出面）全景（西から）



III層（南部浮石層）検出（東から）



IV層下（第2検出面）終了全景（南東から）



VII層面（十和田中層層）（東から）



C区現況



C区基本層序



1号土坑(完備)



1号土坑(断面)



C区Ⅲ層(南部浮石層)検出状況



C区Ⅳ層(十和田中環火山灰層)検出

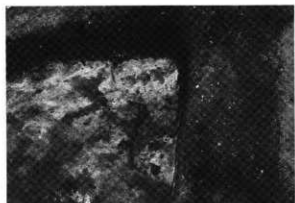


D区(西)現況



D区(西)基本層序

写真図版12 C区現況・基本層序・土坑・D区(西)現況・基本層序



1号溝 (完掘)



1号溝 (断面)



D区IV層下終了全景 (東から)



D区VI層 検出状況

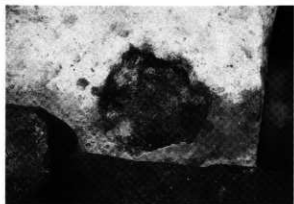


D区(東)III層以下トレンチ状況

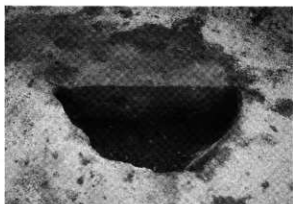


E区 (東) 現況

写真図版13 D区(西)溝状遺構・終了全景・D区(東)トレンチ・E区(東)現況



1号土坑 (完掘)



1号土坑 (断面)



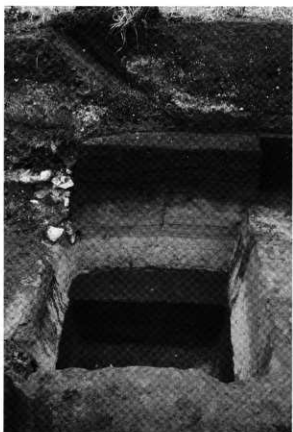
E区(東)IV層下(第II検出)終了



E区(東)VII層 検出面



E区(東)VIII層 上面



E区(西)基本層序

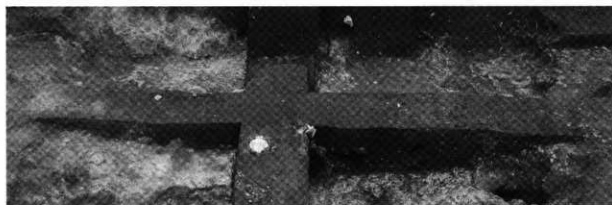


E区(西)現況

写真図版14 E区(東)土坑・終了全景・E区(西)現況・基本層序



豎穴住居狀遺構完掘

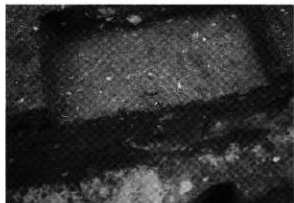


東西断面

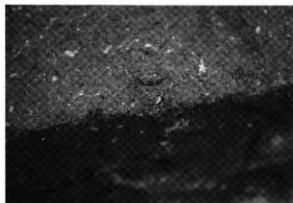


南北断面





竪穴住居状遺構東西ベルト琥珀出土状況



琥珀出土状況（近撮）



配石遺構（北から）

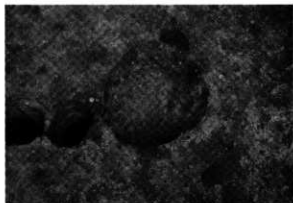


配石遺構（断面）（南西から）



配石遺構と竪穴住居状遺構重複部分

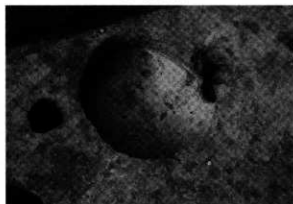
写真図版16 E区（西）竪穴住居状遺構内琥珀出土状況・配石遺構



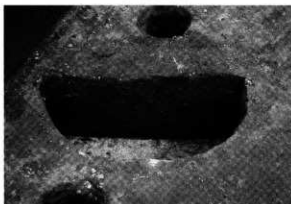
1号土坑 (完掘)



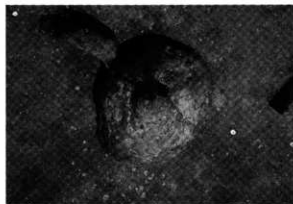
1号土坑 (断面)



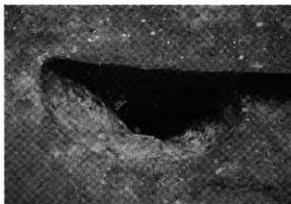
2号土坑 (完掘)



2号土坑 (断面)



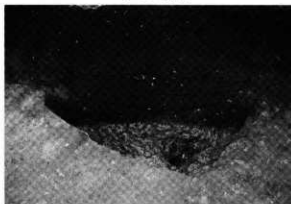
3号土坑 (完掘)



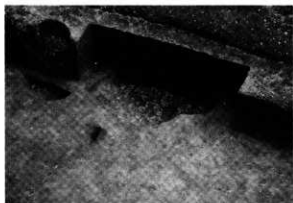
3号土坑 (断面)



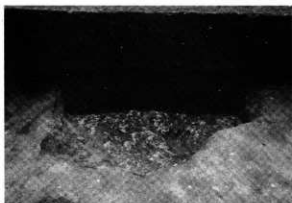
4号土坑 (完掘)



4号土坑 (断面)



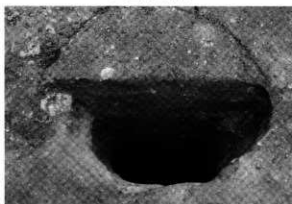
5号土坑 (完掘)



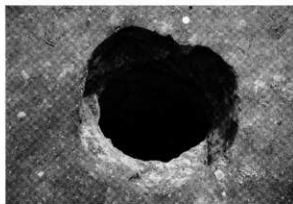
5号土坑 (断面)



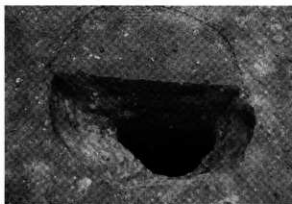
6号柱穴状土坑 (完掘)



12号柱穴状土坑 (断面)



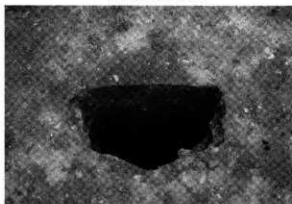
9号柱穴状土坑 (完掘)



9号柱穴状土坑 (断面)



10号柱穴状土坑 (完掘)



10号柱穴状土坑 (断面)

写真图版18 E区(西)土坑(2)·柱穴状土坑(1)



11号柱穴状土坑 (完掘)



11号柱穴状土坑 (断面)



3号土坑・4号土坑・9号柱穴状土坑～11号柱穴状土坑(完掘)



V断面 出土遺構全景 (東から)



IV層(十和田中層)面 (東から)



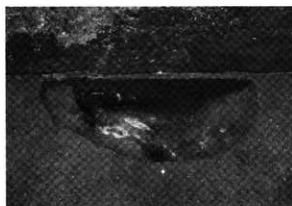
攪乱部 (防火水槽跡)



F区 現況



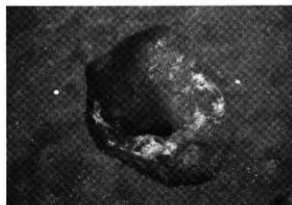
F区 基本層序



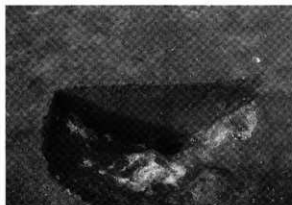
1号土坑 (完備)



1号土坑 (断面)

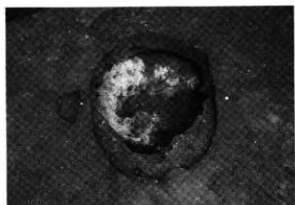


2号土坑 (完備)



2号土坑 (断面)

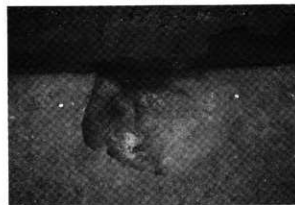
写真図版20 F区現況・基本層序・土坑 (1)



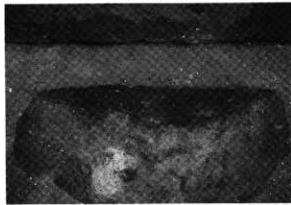
3号土坑 (完掘)



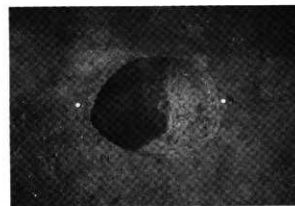
3号土坑 (断面)



4号土坑 (完掘)



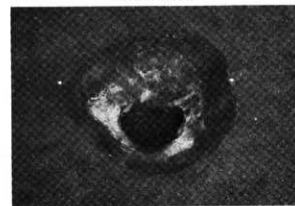
4号土坑 (断面)



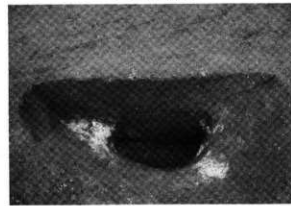
5号土坑 (完掘)



5号土坑 (断面)



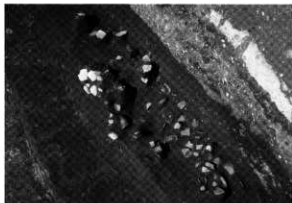
6号土坑 (完掘)



6号土坑 (断面)



北壁土器出土断面（南から）



Ⅱ R 19・24グリッド遺物出土状況（南東から）



北壁（南から）



南壁（北から）

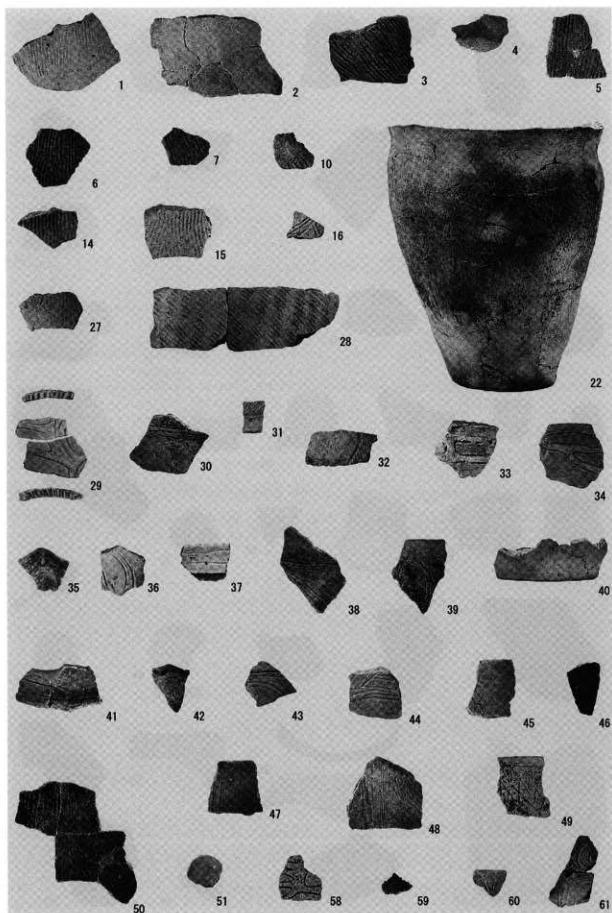


V層（第2検出面）終了全景（東から）



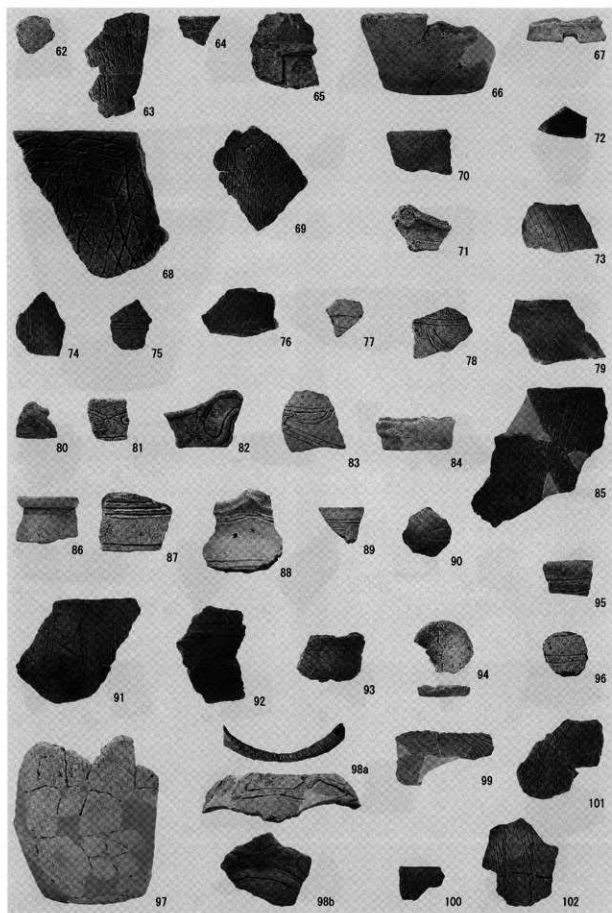
Ⅶ層（十和田中層層）検出（東から）

写真図版22 F区土器出土状況・北壁・南壁断面・終了全景

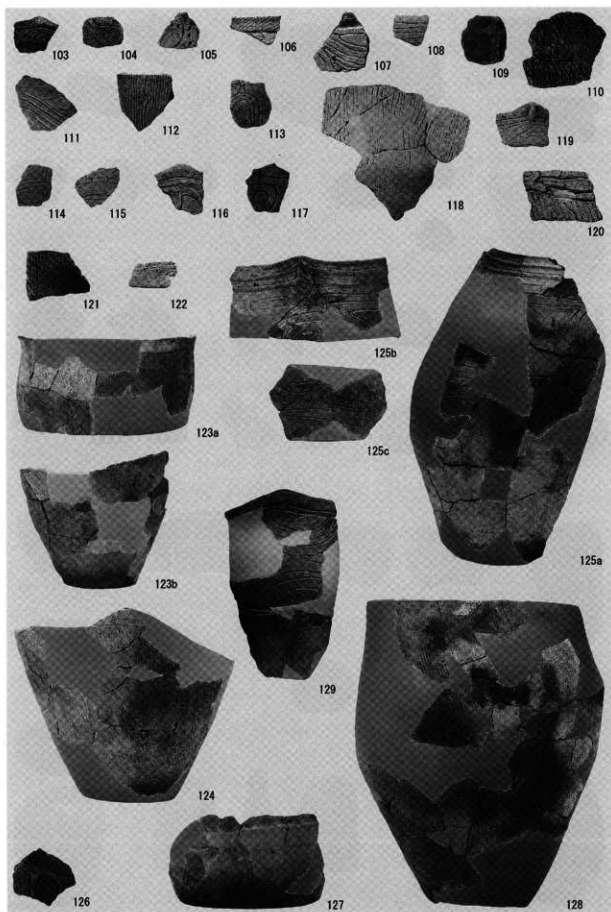


写真図版23 遺物写真(1)

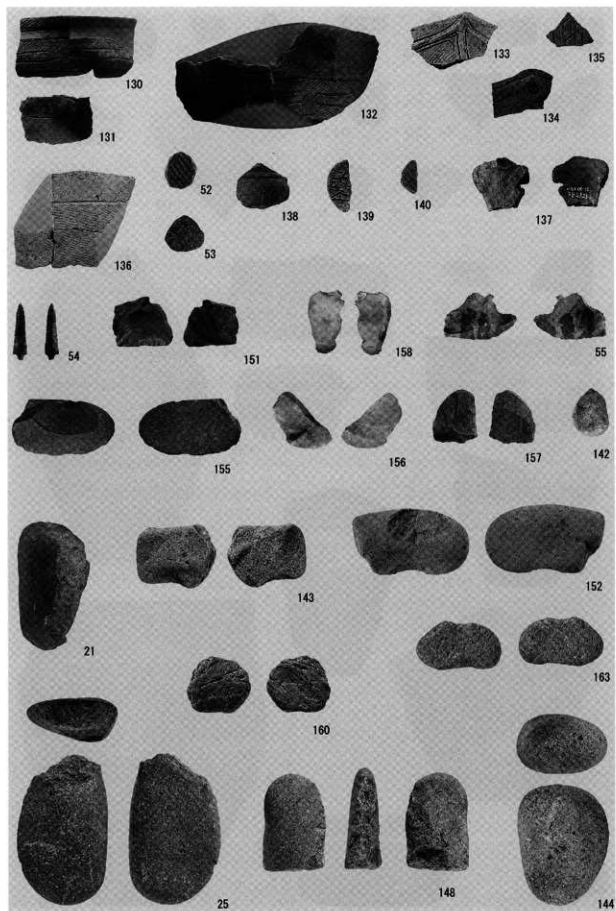




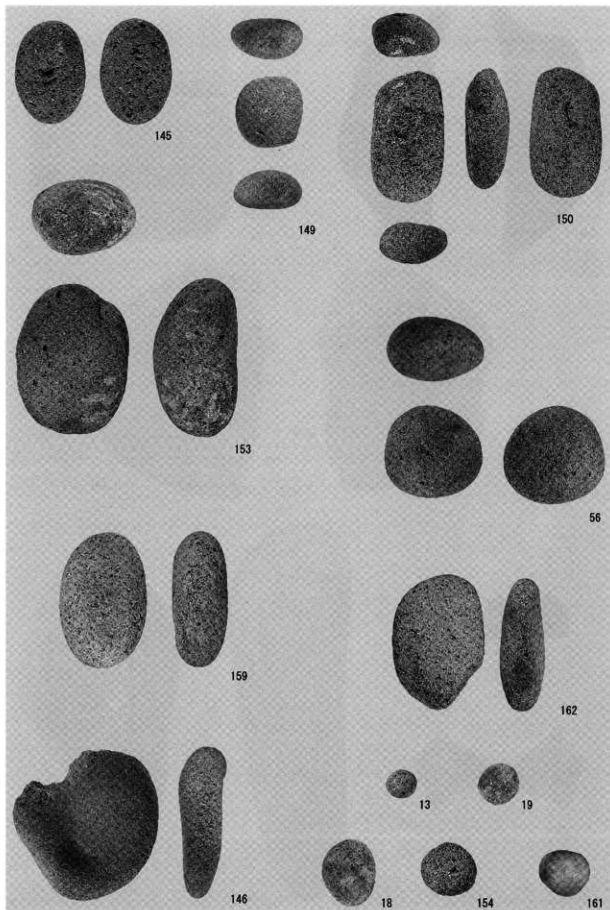
写真图版24 遗物写真(2)



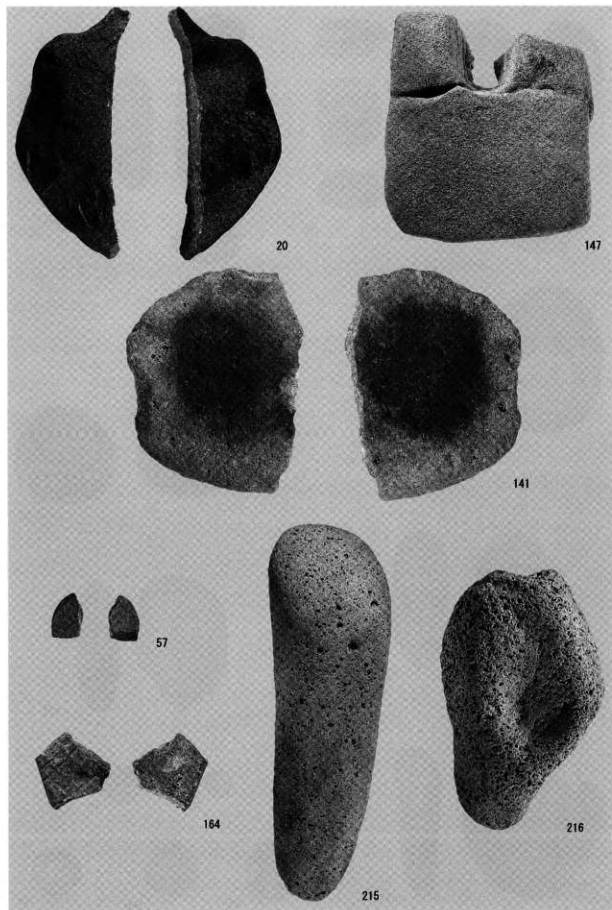
写真図版25 遺物写真(3)



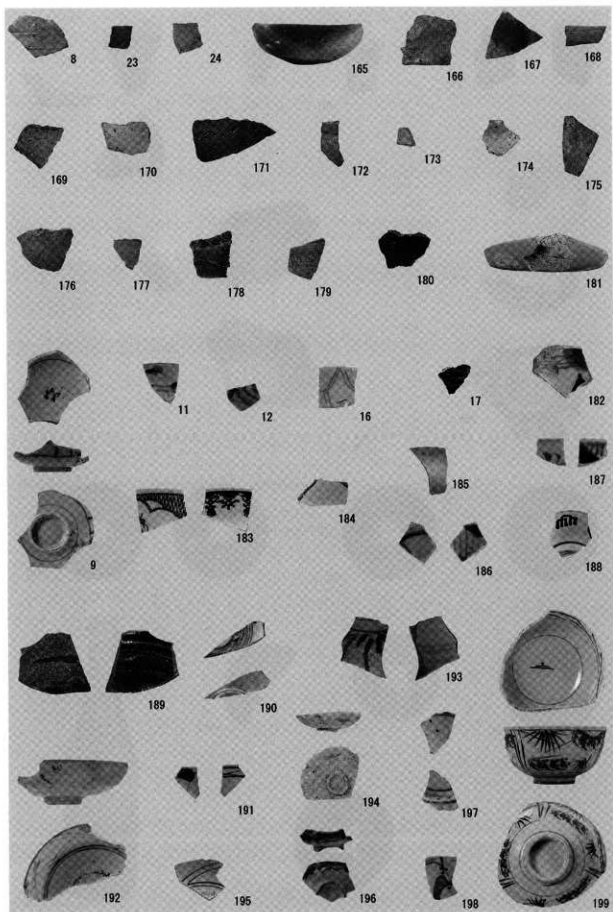
写真图版26 遗物写真(4)



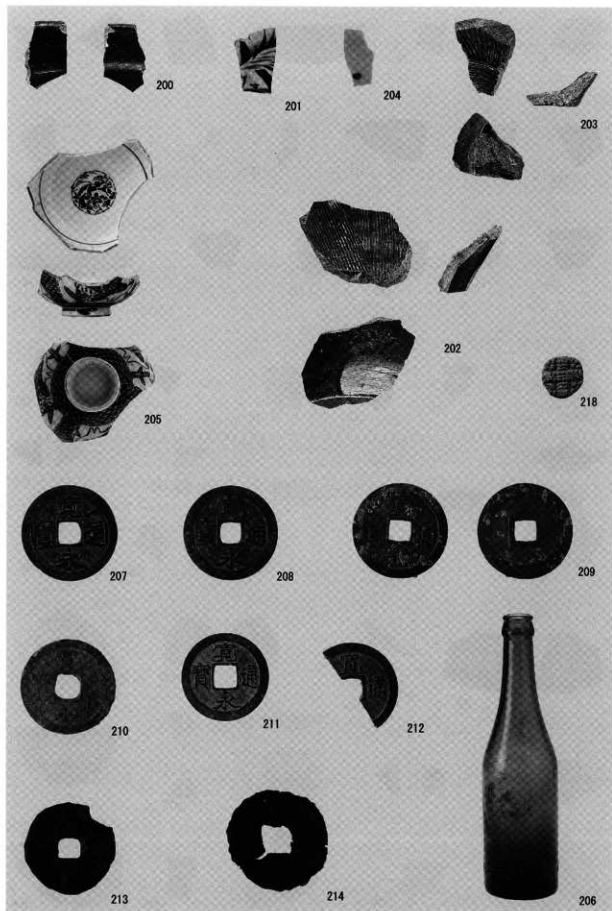
写真図版27 遺物写真 (5)



写真图版28 遗物写真(6)



写真図版29 遺物写真(7)



写真図版30 遺物写真(8)

## 報告書抄録

ふりがな	かわぐちいちいせきだいにじはつくつちようさほうこくしよ							
書名	川口1遺跡第2次発掘調査報告書							
副書名	一般県道上斗米金田・旅豊年橋地区道路整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第521集							
編著者名	木戸口俊子							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL. (019) 638-9001							
発行年月日	2007年12月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
川口1遺跡 第2次調査	岩手県二戸 市金田一丁目 川口23番 ほか	03213	I E 79-1188	40度 20分 13秒	141度 16分 34秒	2006.07.01 ～ 2006.09.15	2,133㎡	一般県道上斗米 金田・旅豊年橋 地区道路整備事 業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
川口1遺跡 第2次調査	集落跡	縄文時代 後期前葉	竪穴住居状遺構	1棟	縄文土器	4箱	縄文土器は後期前葉が中心	
			土坑	17基	石器	中2箱	土製品・石製品・琥珀は調査	
		埋設土器遺構	1基	土製品	6点	区東側E・F区より出土		
奈良時代 ～近世	現 代 時期不明	柱穴状土坑	12個	石製品	2点			
		柱穴状小土坑	10個	琥珀	1点			
		土坑	5基	土師器	小1/2箱	北大式?と思われるもの2点 含む		
現 代 時期不明	溝状遺構	溝状遺構	2条	近世陶磁器・古銭				
		土坑	15基	陶磁器・ガラス				
		溝状遺構	4条					
柱穴状遺構	333個							
要約	縄文時代後期前葉の遺構、竪穴住居状遺構や配石遺構、埋設土器遺構、土坑のうち、埋設土器遺構を除いて調査区東側からまとまって検出された。検出状況から集落本体は今回の調査区よりも北側にあるものと思われる。8世紀の土師器も少量出土した。近世陶磁器は18世紀～19世紀に属するものと思われる。							



---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第521集

## 川口 I 遺跡第 2 次発掘調査報告書

一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成19年12月10日

発行 平成19年12月20日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地  
電話 (019) 638-9001  
FAX (019) 638-8563

印刷 (有)小松茂印刷所  
〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原二丁目5-37  
電話 (019) 623-6073

